

学 科 目 名	心理学 Psychology, Psychology I				単位数	2 単位	必修選択の別	選
					教員名 メールアドレス	具志堅伸隆（非常勤講師） gushiken@toua-u.ac.jp		
	学習・教育到達目標：B（◎）							
履修年次・学期	F 科	1 年	後期	選	M 科	1 年	後期	選
	A 科	1 年	後期	選	D 科	1 年	後期	選
質問受付時間	講義の前後、非常勤講師室							
授 業 概 要								
心理学は、われわれが身近に感じる心の働きを科学的に検証する学問であり、その対象領域は多岐にわたる。本講義では、それらの中でも特に重要とされる領域について概観し、心理学の理論と研究対象について理解することを目的とする。								
授 業 の 目 標								
一般目標：心に対する科学的なアプローチについて理解する。人間関係や集団心理、性格といった心理学の主要なテーマに関する心理学的理論を学習する。								
行動目標：心理学の専門的概念を用いて、心理学的現象を説明することができるようになる。日常経験する感情や行動を、心理学的な視点から客観的に分析することができるようになる。								
回	授 業 計 画 ・ 内 容							
1	心理学プロローグ（心理学とはどのような学問であるか「視覚の不思議」を通して学ぶ）							
2～3	対人認知（人はなぜ、他者に好意や魅力を感じるのかについて学ぶ）							
4～6	恋愛の心理学（恋愛感情を科学的な視点から分析する）							
7～8	友人関係の心理学（青年期の友人関係について心理学的に分析する）							
9	男女のコミュニケーション（男女のコミュニケーションにおける心理について学ぶ）							
10～11	集団心理（人が集まったときに生じる心理について学ぶ）							
12～13	性格心理学（人の性格と行動について、心理学的な観点から分析する）							
14	氏か育ちか（環境や遺伝が人の発達に与える影響について学ぶ）							
15	やる気の心理学（やる気生まれるメカニズムについて学ぶ）							
キーワード	視覚情報処理、愛着、恋愛、対人認知、青年期の友人関係、同調、集団規範、リーダーシップ、エゴグラム、状況の力、環境、遺伝、フロー体験、ドーパミン							
教科書 参考書	教科書：教科書は使用しない、毎回プリントを配付する。 参考書：適宜紹介する。 その他必要な資料は適宜配布する。							
評価方法 評価基準	評価方法：期末レポート（50％）、授業中の提出物（50％） 評価基準：期末レポート、授業中の提出物は、授業目標についての理解度、達成度を評価する。							
関連科目								
履修要件	特になし							
教 育 方 法 ・ そ の 他								
基本的に講義形式ではあるが、受講学生とのコミュニケーションを十分に取りながら講義することを心がけます。また、心理学についての知識獲得だけでなく、学んだことを実生活の中で生かせる考え方が身に付くような講義を行うよう努力します。また、授業中に心理学の簡単な調査を行うので、積極的に参加してください。								

学 科 目 名	哲 学 Philosophy			単位数	2 単位	
				教員名 メールアドレス	多賀谷誠（非） mkttgty@d.fish-u.ac.jp	
	学習・教育到達目標：A(○)・B(◎)					
履修年次・学期	F 科	1 年次後期 選	M 科	1 年次後期 選	S 科	1 年次後期 選
	A 科	1 年次後期 選	D 科	1 年次後期 選		
質 問 受 付	授業前後の教室					
授 業 概 要						
「実践哲学の歴史・理論・応用」 本講義では、西洋哲学のうち実践哲学（規範倫理学）の歴史に関する基本事項の理解に基づいて、その理論の骨格をなす基本概念を解説し、かつ、応用倫理の概要についても説明します。 まず、アリストテレスの徳論、功利主義的帰結主義、カントの義務論、討議倫理について概説を行います。それに続いて、実践哲学の基本概念（行為、徳、善・正・正義、自由と責任、実践理性）を説明します。そのうえで、社会倫理、環境倫理、生命倫理等の応用倫理について概説します。						
授 業 の 目 標						
一般目標：実践哲学の歴史・理論についての理解を深め、専門職業人としての教養形成の一環とする。 行動目標：哲学的見地に立って、現代社会のさまざまな問題に対してアプローチを試みることができるようにする。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
1	基本概念の定義 実践哲学とは何か					
2	実践哲学史（1） 徳倫理学の概説					
3	実践哲学史（2） 功利主義の概説					
4	実践哲学史（3） 義務論の概説					
5	まとめ カント哲学概説					
6	まとめ 共感/同情/共苦に基づく倫理学説の概説					
7	実践哲学史（4） 討議倫理の概説					
8	基本概念（1） 哲学史における行為論の概説					
9	基本概念（2） 哲学史における徳概念の概説					
10	基本概念（3） 哲学史における善／正／正義概念の概説					
11	基本概念（4） 哲学史における自由と責任の概説					
12	基本概念（5） 哲学史における実践理性の概説					
13	応用倫理学（1）					
14	応用倫理学（2）					
15	まとめ					
キーワード	徳、義務、功利主義、討議倫理、行為、善/正/正義、自由/責任、実践理性、応用倫理					
教科書 参考書	M・ルッツ＝バッハマン（桐原隆弘 訳）、『倫理学基礎講座』、晃洋書房、2018年 ※参考書については、授業中に適宜紹介します。					
評価方法 評価基準	評価方法：学期末の記述試験（70%）、提出されたコメント（30%）で総合的に評価する。 評価基準：期末試験、提出されたコメントによって、授業目標についての理解度、達成度を評価する。					
関連科目	環境倫理					
履修要件	特になし					
教 育 方 法 ・ そ の 他						
授業内容の「ポイント（要点の説明）」「質問・感想等」を記入するコメント用紙を適宜配布する。 質問・感想等については次回の授業で回答する。						

学 科 目 名	海洋文化論 Sea in Culture					単位数	2 単位	
	学習・教育到達目標： A (◎)、F (○)					教員名 メールアドレス 岸本充弘 kishimoto-mi@shimonoseki-cu.ac.jp		
履修年次・学期	F 科	1 年	前期	選	M 科	1 年	前期	選
	A 科	1 年	前期	選	D 科	1 年	前期	選
質 問 受 付	講義の前後の時間及びメールで随時							
授 業 概 要								
2019年に日本の商業捕鯨が再開され、国内唯一の母船式捕鯨基地となった下関は「くじらの街」として新捕鯨母船建造等で大変注目されています。海洋文化論では、水産資源である「くじら」と「捕鯨」にフォーカスし、歴史、文化、経済はもちろん、鯨未利用部位を有効活用した新たな製品化へ向けての取り組み等を通じて、海洋文化論を学んでいただきます。また、講義の疑問点、提案等を出していただき、双方向授業を行うため総合討論を実施します。								
授 業 の 目 標								
・「くじら」と「捕鯨」の現状、歴史、文化、経済等を幅広く理解する。 ・「くじら」と「捕鯨」を通じて、海洋文化論を俯瞰できる。 ・「くじら」と「捕鯨」を通じた海洋文化論を学んだあと、自身で疑問点や提言を発信できる。								
回	授 業 計 画 ・ 内 容							
1	受講オリエンテーション。授業の進め方を学びます。							
2-3	くじらの基礎知識Ⅰ、Ⅱとしてくじらの種類、生態、魚類との違い等について、くじらが水産資源という考えについて理解していただきます。							
4-6	捕鯨の基礎知識Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとして捕鯨は漁業なのか？について、IWCと調査捕鯨、国際機関と管理について、商業捕鯨再開と現状、漁業との競合について理解していただきます。							
7-9	捕鯨の歴史Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとして、世界と日本の捕鯨の歴史、山口県、下関市の捕鯨の歴史について理解していただきます。							
10-11	くじらの利用と捕鯨文化Ⅰ、Ⅱとして世界とノルウェー、アイスランドの捕鯨文化や日本の捕鯨文化と現状について理解していただきます。							
12	これからの捕鯨と捕鯨産業として、日本（山口、下関）の捕鯨産業について理解していただきます。							
13-14	総合討論Ⅰ、Ⅱとして「くじら」と「捕鯨」を通じて学んでいただいた海洋文化論に関して、事前にいただいた質問や意見に対してお答えするような形での総合討論を行います。							
15	まとめ							
キーワード	くじら、捕鯨、くじらの街、捕鯨文化、くじら産業文化、海洋文化							
教科書 参考書	教科書は指定しません。随時プリントを配布します。							
評価方法 評価基準	評価方法：授業への出席状況、総合討論の参加状況（60%）、定期試験若しくは課題レポート（40%）で総合的に評価。 評価基準：授業目標についての理解度、達成度を基準に評価。							
関連科目								
履修要件	「くじら」や「捕鯨」、国際情勢、環境問題、歴史、海洋文化等に興味を持っていることが望ましい。							
教 育 方 法 ・ そ の 他								
出来るだけ毎回出席をお願いします。事情があって欠席の場合はメールで連絡してください。								

学 科 目 名	文学 Literature					単位数	2単位					
	学習・教育到達目標： A (◎)、F (○)					教員名 メールアドレス	加藤 一輝					
履修年次・学期	F科	1年	後期	選	M科	1年	後期	選	S科	1年	後期	選
	A科	1年	後期	選	D科	1年	後期	選				
質 問 受 付	三学科共用実験棟2階 室番号209											
授 業 概 要												
さまざまな時期の旅行記と空想旅行記を比較しながら、それぞれの旅の主眼を知り、各時代の世界認識の特徴を読み解く。												
授 業 の 目 標												
一般目標：旅の形態の変遷と、それが可能にした想像力による空想旅行記について学ぶことで、各時代の旅の欲望を分析する。												
行動目標：現在のわれわれの世界認識が当然のものではないと自覚し、批判精神をもって分析できるようになる。簡単な作品レポートを書くことで、論理的な文章を作成できるようになる。												
回	授 業 計 画 ・ 内 容											
	1 旅行史(1)：イントロダクション——旅行記と旅文学											
	2 旅行史(2)：観光旅行のさきがけ——グランドツアー											
	3 旅行史(3)：原風景を求めて——景観の再発見											
	4 旅行史(4)：崇高から観光へ——ロマン主義と登山ブーム											
	5 旅行史(5)：過去への旅、未来への旅——さまざまな廃墟											
	6 空想旅行(1)：新奇なものの発見——東方見聞録／見えない都市(1)											
	7 空想旅行(2)：新奇なものの発見——東方見聞録／見えない都市(2)											
	8 空想旅行(3)：諷刺としての空想旅行——日月両世界旅行記(1)											
	9 空想旅行(4)：諷刺としての空想旅行——日月両世界旅行記(2)											
	10 空想旅行(5)：文明の相対化——ブーガンヴィル航海記／ブーガンヴィル航海記補遺(1)											
	11 空想旅行(6)：文明の相対化——ブーガンヴィル航海記／ブーガンヴィル航海記補遺(2)											
	12 空想旅行(7)：旅と速度——八十日間世界一周(1)											
	13 空想旅行(8)：旅と速度——八十日間世界一周(2)											
	14 空想旅行(9)：旅をしない旅——部屋をめぐる旅											
	15 授業のまとめ											
キーワード	旅行、文学、レポート、文学作成											
教科書 参考書	教科書：回ごとに資料を配布するので、教科書は指定しない。 参考書：受講者の興味に応じて参考文献を指示する。											
評価方法 評価基準	評価方法：コメントシートによる出席点（40％）と期末試験（60％）による。 評価基準：コメントシートと期末試験によって、授業目標の達成度を評価する。											
関連科目	海洋文化論											
履修要件	担当教員の専門がフランス文学であるため、主にフランスおよびヨーロッパ文学を参照する。海外文学に興味を持っているのが望ましい。日本語で読むので語学は必要としない。											
教 育 方 法 ・ そ の 他												
コメントシートを書いてもらい、授業内容に還元するので、授業に関連した質問や、各自で興味を持っている事柄があれば、積極的に尋ねていただきたい。												

学 科 目 名	国際社会と法 International Society and Law		単位数	2単位		
	学習・教育到達目標：A（◎），B（○）		教員名	佐々木浩子		
			メールアドレス	sasaki@fish-u.ac.jp		
履修年次・学期	F科	2年 前期 選	M科	2年 前期 選	S科	2年 前期 選
	A科	2年 前期 選	D科	2年 前期 選		
質 問 受 付	随時可。三学科共用棟 2 階教員研究室（207）。					
授 業 概 要						
国際社会では、200 近く存在する国家間で経済をはじめとする様々な関係が築かれている一方、領土や国境をめぐる紛争、武力紛争、海洋問題、人権問題、環境問題など様々な紛争や問題が生じている。こうした国家間の問題や国際社会の問題を扱っているのが国際法である。この授業では、国際社会とはどのような社会であるのか、国際社会の法（国際法）とはどのように存在しどのように適用されているのか、国際社会で生じている様々な紛争や問題、事象について国際法の観点から学ぶ。授業内容を理解しやすいよう、授業では具体的な事例のほか、最新のニュースを適宜取り上げる。						
授 業 の 目 標						
一般目標：学生は、国際社会広く国際社会に目を向けることにより、国際社会において生じる諸問題に関心をもち、これを理解するようになる。						
行動目標：学生は、国際社会に存在する様々な紛争・問題・事象について、国際法の観点から自身の考えを持ち、説明できるようになる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
1	ガイダンス					
2	国際社会と法：国際社会の特徴、法とは何かなどについて学習する。					
3～6	国際法 1：国際法の具体的な存在形式（条約、国際慣習法など）について学習する。					
7	国際法 2：国際法の違反について学習する。					
8	小まとめ					
9	国家：国家の成立、国家の基本的権利義務などについて学習する。					
10	空間に関する国際法：海洋や宇宙など空間を規律する法について学習する。					
11	紛争解決に関する国際法：国際的な紛争の解決方法の法や枠組みについて学習する。					
12	戦争に関する国際法：武力行使の禁止や‘合法的戦争’などについて学習する。					
13	人道に関する国際法：戦争法とは別に存在する人道法について学習する。					
14	人権に関する国際法：人権問題の具体例や国際人権法について学習する。					
15	環境に関する国際法：環境問題の具体例や国際環境法について学習する。					
キーワード	国際社会、法、ルール、国際法、国家、主権、国連、条約					
教科書 参考書	教科書：大森正仁ほか『入門 国際法』（法律文化社、2024 年）。授業は教科書や適宜配付するプリントをもとに進める。 参考書：授業中に適宜紹介する。					
評価方法 評価基準	評価方法：定期試験と小テストによる総合評価（定期試験 80%、小テスト 20%）。 評価基準：授業の目標の理解度・達成度を評価する。特に次の点から評価を行う。①国際社会や国際法の基本事項を理解しているか、②問いに対して直接かつ十分に答えているか、③適切な文章が書けているか、④国際法のルールや先例等を踏まえて自身の考えを説得的に述べているか。					
関連科目	海洋法、水産国際関係論、水産経済学Ⅱ、法学（日本国憲法）					
履修要件	特になし					
教 育 方 法 ・ そ の 他						
授業は基本的に講義形式で教科書を参照しながら行う。適宜プリントを配付するが、各自ノートをとることが望ましい。授業内容の理解が進むよう、講義中に課題を出すことがある。						

学 科 目 名	法学(日本国憲法) Outline of Japanese Constitutional Law				単位数	2単位		
	学習・教育到達目標：A（◎）				教員名	佐々木浩子		
					メールアドレス	sasaki@fish-u.ac.jp		
履修年次・学期	F科	1年	後期	選	M科	1年	後期	選
	A科	1年	後期	選	D科	1年	後期	選
質 問 受 付	随時可。三学科共用棟 2階教員研究室（207）。							
授 業 概 要								
国家の基本法である憲法とは何か、なぜ存在するのか。この授業では、憲法がどのような法であるか、その基本的な事柄や憲法に関連して存在する議論を、条文、学説、過去の重要な裁判例などをおとして学ぶ。授業内容を理解しやすいよう、授業ではなるべく最近の事例のほか、最新のニュースを適宜取り上げる。								
授 業 の 目 標								
一般目標：学生は、他の法学・社会科学系科目の基礎として、憲法の知識を修得する。 行動目標：学生は、一人の国民として、憲法に対する認識を深めることにより、社会生活における個人としての自身と国家との関係や憲法との関係の観点から、現実の社会において生じている様々な問題に関心を持ち、そのような問題について自身の見解を述べられるようになる。								
回	授 業 計 画 ・ 内 容							
1	ガイダンス							
2	憲法とは：憲法とは何か、法律との違いは何かなどについて学習する。							
3	日本国憲法の成立：日本国憲法の成立までの歴史について学習する。							
4	日本国憲法の「改正」：憲法改正とは何か、日本国憲法改正についての議論はどのようなものかなどについて学習する。							
5	日本国憲法の全体像：基本原理、統治機構について学習する。							
6～7	国民主権：国民主権とは何かについて、国民や主権の意味、天皇制との関係なども含め学習する。							
8	小まとめ							
9～11	平和主義：平和主義制定の背景や意味、自衛隊との関係などについて学習する。							
12～14	基本的人権：様々な人権の内容などについて学習する。							
15	まとめ							
キーワード	主権、国民主権、基本的人権、平和主義、戦争の放棄							
教科書 参考書	教科書：特に指定しない。授業において適宜プリントを配付する。 配付したプリントは毎時間持参することが望ましい（過去に配付したプリントを参照することがある）。 参考書：授業において適宜紹介する。							
評価方法 評価基準	評価方法：定期試験と小テストによる総合評価（定期試験 80%、小テスト 20%）。 評価基準：授業の目標の理解度・達成度を評価する。特に次の点から評価を行う。①憲法の基本的な事項を理解しているか、②問いに対して直接かつ十分に答えているか、③適切な文章が書けているか、④憲法の基本的な事項を踏まえ自身の考えを説得的に述べられているか。							
関連科目	国際社会と法							
履修要件	特になし							
教 育 方 法 ・ そ の 他								
授業は基本的に講義形式でパワーポイントを使用して行う。適宜プリントを配付するが、各自ノートをとることが望ましい。授業内容の理解が進むよう、講義終了時に課題を出すことがある。								

学 科 目 名	歴史学 History				単位数	2単位			
					教員名	田宮 晴彦			
	学習・教育到達目標：A（◎）				メールアドレス	htamiya@fish-u.ac.jp			
履修年次・学期	F科	2年 後期 選		M科	2年 後期 選		S科	2年 後期 選	
	A科	2年 後期 選		D科	2年 後期 選				
質 問 受 付	三学科共用実験棟 2F 田宮研究室（2 1 4） 随時								
授 業 概 要									
近現代の欧米史を海洋史・国際関係史の観点から概説する。その際、折に触れて当時の一次資料を取り上げる。									
授 業 の 目 標									
一般目標：西洋史およびアメリカ史を中心に、基本的な歴史と文化、国際関係の知識を深める。									
行動目標：現代の諸問題を、歴史的視点から考察出来るようになる。									
回	授 業 計 画 ・ 内 容								
1～4	ガイダンスおよび導入ー歴史学とはなにか?授業の目的・方法ー 近代世界の幕開けと大航海時代 17世紀の危機と新大陸 アメリカ植民地社会の形成								
5～8	反英抗争と独立革命 連邦体制の確立 孤立主義と膨張主義の形成 ジャクソニアン・デモクラシー								
9～12	西部への膨張と南北戦争への道 「妥協」の努力 19世紀後半の世界 日米外交の黎明								
13～15	世界強国への道 グレイト・ホワイト・ネイビーの「東征」 日本移民排斥運動と日米世論 パナマ運河と海洋戦略								
キーワード	歴史学、日本史、世界史、日米関係、異文化交流、海洋・水産史								
教 科 書 参 考 書	講義ごとにプリントを配布する。								
評価方法 評価基準	評価方法：①小テスト・口頭テスト(20%)（コメント・小テスト用紙を毎回配布する。また授業中に教員から発問し、学生に発言を求めることがある。）および②期末テスト(80%)による。 評価基準は：①授業内容についての理解度②自身の理解・知識を正しく伝える力(記述試験についての対応法などは、授業中折に触れて指導する。								
関連科目	特になし								
履修要件	特になし								
教 育 方 法 ・ そ の 他									

学 科 目 名	社会学 Sociology		単位数	2 単位		
	学習・教育到達目標：A(◎)・B(○)		教員名 メールアドレス	瀬崎譲廣（非）		
履修年次・学期	F 科	1 年次後期 選	M 科	1 年次後期 選	S 科	1 年次後期 選
	A 科	1 年次後期 選	D 科	1 年次後期 選		
質 問 受 付	授業前後の教室					
授 業 概 要						
社会学は、人と人、集団と集団との関係のあり方を調べ、分析して、人間を社会から理解しようとする学問です。授業では、さまざまな社会の領域に関する社会学的知見に焦点を当てて学んでいきます。						
授 業 の 目 標						
一般目標：社会学の視点や思考法を理解する。						
行動目標：社会の状況に対して多面的に理解し、判断できるようにする。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
1	オリエンテーション：社会学とは何か					
2	社会学の基本のアプローチ①行為論と構造論					
3	社会学の基本のアプローチ②コミュニケーション論とシステム論					
4	逸脱と差別					
5	家族の種類・機能と家族の変化					
6	労働と組織					
7	社会状況の理解を深める①					
8	地域社会の変容：高度成長期以降の変化					
9	社会と自然環境の変動					
10	災害と復興					
11	ジェンダーと“生きにくさ”					
12	社会的格差の要因とその影響					
13	少子高齢社会～人口急減社会					
14	グローバリゼーション，エスニシティ					
15	社会状況の理解を深める②					
キーワード	社会学、家族、ジェンダー、都市、エスニシティ、社会的排除					
教 科 書 参 考 書	配布資料をもとに授業を進めます。参考図書は授業で適宜紹介します。					
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験（80％）と小レポート等（20％）で総合的に評価します。 評価基準：期末試験と小レポート等によって授業目標についての理解度、達成度を評価します。					
関連科目	特になし					
履修要件	特になし					
教 育 方 法 ・ そ の 他						

学 科 目 名	英 語 (読解) (1年Fコース)				単位数		1単位					
	English				教員名 メールアドレス		納富 末世					
	学習・教育目標 : F (◎)											
履修年次・学期	F科	1 年 前期 必			M科	1 年 前期 必			S科	1 年 前期 必		
	A科	1 年 前期 必			D科	1 年 前期 必						
質 問 受 付	講義終了後, 教室にて随時。											
授 業 概 要												
「ナスカの地上絵」や「ツタンカーメンの呪い」といった世界の有名なミステリーを取り上げたテキストを使い, 英文を読む面白さを感じながら読解力を高める。各章にある内容把握とあらすじの確認を兼ねた練習問題を解くことにより, 語彙力, 英作に活かせる文法力, リスニング力を含めた総合的な英語力を習得する。												
授 業 の 目 標												
一般目標:リーディング, 文法・語彙の強化を中心に, 総合的な英語力の向上を目指す。 行動目標:授業で習得した技能を用いて, 英文の情報を適切に読み取り, 自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。												
回	授 業 計 画 ・ 内 容											
1	テキストを見ながら基本的文法事項の確認											
2	Unit 1 ナスカの地上絵 [ミステリー編]											
3	Unit 2 ナスカの地上絵 [解決編]											
4	Unit 3 ネス湖とネッシー [ミステリー編]											
5	Unit 4 ネス湖とネッシー [解決編]											
6	Unit 5 魔のバミューダ海域 [ミステリー編]											
7	Unit 6 魔のバミューダ海域 [解決編], 小テスト											
8	Unit 7 ヒマラヤの雪男 [ミステリー編]											
9	Unit 8 ヒマラヤの雪男 [解決編]											
10	Unit 9 消えた乗組員の謎 [ミステリー編]											
11	Unit 10 消えた乗組員の謎 [解決編]											
12	Unit 11 ミイラの呪い [ミステリー編]											
13	Unit 12 ミイラの呪い [解決編], 小テスト											
14	Unit 13 ディアトロフ峠殺人事件 [ミステリー編]											
15	Unit 14 ディアトロフ峠殺人事件											
	進度により変更の可能性あり。											
キーワード												
教科書 参考書	教科書: <i>What Really Happened? : World Mysteries Solved</i> (フランク・ベイリー 他著 開文社 2016年)											
評価方法 評価基準	評価方法: 期末試験 (70%), 小テスト (30%) で総合的に判定する。 評価基準: 試験, 小テスト等によって目標の理解度, 達成度を評価する。授業への積極的な姿勢等を学習意欲の高さとして評価する。											
関連科目	英語セミナー											
履修要件	なし											
教 育 方 法 ・ そ の 他												
辞書を持参し, 必ず予習をしておくこと。対話型講義を心がけ, 受講者の知的好奇心を刺激し, 意欲をもって授業に参加できるよう努力する。英語が苦手な勉強の仕方がわからない等の心配がある人はいつでも相談にきて頂きたい。												

学 科 目 名	英 語 (読解) (1年Eコース)				単位数		1単位	
	English				教員名 メールアドレス		臺丸谷美幸 7797@fishusimo01.onmicrosoft.com	
	学習・教育到達目標：F (◎)							
履修年次・学期	F科	1年	前期	必	M科	1年	前期	必
	A科	1年	前期	必	D科	1年	前期	必
質 問 受 付	随時 (面談は事前にアポイントを取ること) 3学科共用実験棟教員研究室(215)							
授 業 概 要								
科学に関する平易な英文を読み、基本的な文法、語彙事項を確認しながら、大学英語に必要な読解力を確実に身に着ける授業。授業で培ったリーディングスキルを基に総合的な英語力の向上を図る。								
授 業 の 目 標								
一般目標：リーディング、文法・語彙の強化を中心に、総合的な英語力の向上を目指す。 行動目標：授業で習得した技能を用いて、英文の情報を適切に取り取り、自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。								
回	授 業 計 画 ・ 内 容							
	1 授業ガイダンス。Unit1の一部解説を行う① 2 Unit1 の解説を行い、演習問題を解く② 3 Unit1 の解説を行い、演習問題を解く③ 4 Unit13 の解説を行い、演習問題を解く① 5 Unit13 の解説を行い、演習問題を解く② 6 Unit14 の解説を行い、演習問題を解く① 7 Unit14 の解説を行い、演習問題を解く② 8 Unit2 の解説を行い、演習問題を解く① 9 Unit2 の解説を行い、演習問題を解く② 10 Unit4 の解説を行い、演習問題を解く① 11 Unit4 の解説を行い、演習問題を解く② 12 Unit5 の解説を行い、演習問題を解く① 13 Unit5 の解説を行い、演習問題を解く② 14 Unit6 の解説を行い、演習問題を解く① 15 Unit6 の解説を行い、演習問題を解く②、総まとめを行う。							
キーワード	リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング、文法、語彙							
教科書 参考書	教科書：『Science at Hand スミソニアンで読む日常の科学』（Keiko Miyamoto著、金星堂）、他にプリントを配布する。 参考書：授業中に紹介する。							
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験(70%)、小テスト(10%)、課題提出と及び授業貢献度(20%)とし、総合的に判断する。 評価基準：期末試験、課題提出および小テスト等によって授業目標についての理解度、達成度を評価する。評価項目のうち一つでも合格基準を満たしていない項目があると不合格となる場合がある。							
関連科目	英語セミナー							
履修要件	なし							
教 育 方 法 ・ そ の 他								
毎回、英和辞書（紙製か電子辞書）を持参すること。授業中は頭をフル回転させて、潜在的な英語の能力を最大限引き出すことを重視するため、パソコン、スマートフォンの使用は不可とする。必ず授業前に講義範囲に目を通し、問題は解いておくこと。予習ではどこが理解できなかったのか。わからない箇所を明確にして授業に臨むことが重要。予習復習でのPC等のデジタルツールの使用は大いに推奨。								

学 科 目 名	英語（読解）(1 年Hコース)		単位数	1 単位	
	English		教員名	田宮 晴彦	
	学習・教育到達目標：F（◎）		メールアドレス	htamiya@fish-u.ac.jp	
履修年次・学期	F 科：1 年 前期 必	M 科：1 年 前期 必	S 科：1 年 前期 必		
質 問 受 付	三学科共用実験棟 2F 田宮研究室（部屋番号：214） 随時				
授 業 概 要					
基礎的な文法についての復習を中心に、授業ごとに配布する英文を読み解くことにより語彙力と読解力を養う。					
授 業 の 目 標					
一般目標：リーディング、文法・語彙の強化を中心に、総合的な英語力の向上を目指す。 行動目標：授業で習得した技能を用いて、英文の情報を適切に読み取り、自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。					
回	授 業 計 画 ・ 内 容				
	1 授業ガイダンス。Unit1の一部解説を行う。 2 Unit1の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 3 Unit2の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 4 Unit3の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 5 Unit4の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 6 Unit5の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 7 Unit6の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 8 Unit7の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 9 Unit8の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 10 Unit9の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 11 Unit10の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 12 Unit11の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 13 Unit12の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 14 Unit13の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 15 Unit14の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。				
キーワード	英文法、読解、語彙				
教科書 参考書	教科書：What Really Happened ? (Frank Bailey, 高本孝子他著、開文社出版)、他に適宜プリントを配布する。 参考書：授業中に紹介する。				
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験(75%)および小テストや課題提出など(25%) 評価基準：試験および提出課題により、授業の理解度を評価する。				
関連科目					
履修要件	特になし				
教 育 方 法 ・ そ の 他					
授業に際しては、必ず英和辞書（紙製か電子辞書）を持参すること。また、高校時代に使用した参考書があれば、手許に持っておくこと。					

学 科 目 名	英 語 (読解) (1年 Gコース)				単位数	1単位			
	English				教員名 メールアドレス	猪熊慶祐 kei.inkm@fish-u.ac.jp			
	学習・教育目標：F (◎)								
履修年次・学期	F科	1年 前期 必		M科	1年 前期 必		S科	1年 前期 必	
	A科	1年 前期 必		D科	1年 前期 必				
質 問 受 付	随時 (面談は事前にアポイントを取ること) 三学科共用実験棟2F (205)								
授 業 概 要									
本授業は、読解に特化したクラスである。JazzやPopsの歌詞やその解説を平易な英語で読み、基礎的な文法事項、語彙を確認しながら読解力を確実に身に付ける授業。授業で培った技能を基に総合的な英語力向上を目指す授業。									
授 業 の 目 標									
一般目標：リーディング、文法・語彙の強化を中心に、総合的な英語力の向上を目指す。 行動目標：授業で習得した技能を用いて、英文の情報を適切に読み取り、自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。									
回	授 業 計 画 ・ 内 容								
1	イントロダクション・授業ガイダンス								
2	Unit 1の解説を行い、演習問題を解く。								
3	Unit 2の解説を行い、演習問題を解く。								
4	Unit 3の解説を行い、演習問題を解く。								
5	Unit 4の解説を行い、演習問題を解く。								
6	Unit 5の解説を行い、演習問題を解く。								
7	Unit 6の解説を行い、演習問題を解く。								
8	Unit 7の解説を行い、演習問題を解く。								
9	Unit 8の解説を行い、演習問題を解く。								
10	Unit 9の解説を行い、演習問題を解く。								
11	Unit 10の解説を行い、演習問題を解く。								
12	Unit 11の解説を行い、演習問題を解く。								
13	Unit 12の解説を行い、演習問題を解く。								
14	Unit 13の解説を行い、演習問題を解く。								
15	Unit 14の解説を行い、演習問題を解く。								
キーワード	リーディング、リスニング、スピーキング、文法、語彙								
教科書 参考書	教科書：『Learn English through Jazz and Pops ジャズとポップスで学ぶ大学英語』 (糸井江美 / 林千代 / 加納伸也 編著、金星堂) 参考書：授業中に紹介する								
評価方法 評価基準	評価方法：定期試験50%、課題30%、小テスト20%とし、総合的に判断する。 評価基準：期末試験、課題提出および小テスト等によって授業目標についての達成度、理解度を評価する。								
関連科目	英語セミナー								
履修要件	なし								
教 育 方 法 ・ そ の 他									
毎回、英和辞書 (紙製か電子辞書) を授業に持参すること。授業中は頭をフル回転させて潜在的な英語の能力を最大限引き出すことを重視するため、パソコン、スマートフォンの使用は不可とする。必ず授業前に講義範囲に目を通し、問題は解いておくこと。予習ではどこが理解できなかったのか、わからない個所を明確にして授業に臨むこと。予習復習でのPC等のデジタルツールは大いに推奨。									

学 科 目 名	英 語（文法）（1年 Fコース） English				単位数	1単位			
					教員名 メールアドレス	猪熊慶祐 kei.inkm@fish-u.ac.jp			
	学習・教育目標：F（◎）								
履修年次・学期	F科	1年 前期 必		M科	1年 前期 必		S科	1年 前期 必	
	A科	1年 前期 必		D科	1年 前期 必				
質 問 受 付	随時（面談は事前にアポイントを取る） 三学科共用実験棟2F（205）								
授 業 概 要									
大学英語において必須の基本的な文法と語彙を習得する授業。授業では英文の構造を理解し、学習した文法を用いて英文を書けるようにする。また、単発の英作文のみならず、読解も問題なく行えるようになることを目指す授業。									
授 業 の 目 標									
一般目標：大学での英語学習に必要な文法・語彙の習得を中心に、英語力の向上 を目指す。 行動目標：受け身の英語学習を脱却し、正確な文法・語彙力を基に、自らの考え を口頭や記述において英語で表現することができるようにする。									
回	授 業 計 画 ・ 内 容								
1	イントロダクション・授業ガイダンス								
2	Unit 1の解説・演習。								
3	Unit 2の解説・演習。								
4	Unit 3の解説・演習。								
5	Unit 4の解説・演習。								
6	Unit 5の解説・演習。								
7	Unit 6の解説・演習。								
8	Unit 7の解説・演習。								
9	Unit 8の解説・演習。								
10	Unit 9の解説・演習。								
11	Unit 10の解説・演習。								
12	Unit 11の解説・演習。								
13	Unit 12の解説・演習。								
14	Unit 13の解説・演習。								
15	Unit 14の解説・演習。								
キーワード									
教科書 参考書	教科書：Good Grammar, Better Communication （Joan McConnell、山内圭 成美堂） 参考書：授業内で紹介する。								
評価方法 評価基準	評価方法：定期試験50%、中間テスト30%、課題20%とし、総合的に判断する。 評価基準：期末試験、課題提出および小テスト等によって授業目標についての達成度、理解度を評価する。								
関連科目	英語セミナー								
履修要件	なし								
教 育 方 法 ・ そ の 他									
毎回、英和辞書（紙製か電子辞書）を授業に持参すること。授業中は頭をフル回転させて潜在的な英語の能力を最大限引き出すことを重視するため、パソコン、スマートフォンの使用は不可とする。必ず授業前に講義範囲に目を通し、問題は解いておくこと。予習ではどこが理解できなかったのか、わからない個所を明確にして授業に臨むこと。予習復習でのPC等のデジタルツールは大いに推奨。									

学 科 目 名	英 語 (文法) (1年Eコース)				単位数		1単位		
	English				教員名 メールアドレス		納富 末世		
	学習・教育目標：F (◎)								
履修年次・学期	F科	1 年 前期 必		M科	1 年 前期 必		S科	1 年 前期 必	
	A科	1 年 前期 必		D科	1 年 前期 必				
質 問 受 付	講義終了後、教室にて随時。								
授 業 概 要									
この授業では、1960年代から70年代にかけて大ヒットしたアメリカのホームドラマ『奥さまは魔女』(Be witched!!)を題材にしたテキストを使い、英文を読む楽しさを体感しながら基礎的な文法力、読解力を中心に総合的な英語力を習得する。コミカルな本作の各場面でどのような効果を発揮しているかを楽しみながら学ぶ。また、会話によく使われる表現や決まり文句も本文を読みながら身につける。									
授 業 の 目 標									
一般目標：大学での英語学習に必要な文法・語彙の習得を中心に、英語力の向上を目指す。 行動目標：受け身の英語学習を脱却し、正確な文法・語彙力を基に、自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。									
回	授 業 計 画 ・ 内 容								
	1 テキストについての説明および基本的な文法事項 2 Unit 1 接続詞 〈許可〉の表現 3 Unit 2 前置詞 〈比喻表現〉 4 Unit 3 副詞 〈副詞と前置詞の区別〉 5 Unit 4 名詞を修飾するもの(1)-準動詞 〈義務・必要〉の表現 6 Unit 5 名詞を修飾するもの(2)-関係代名詞 原級比較、小テスト 7 Unit 6 名詞を修飾するもの(3)-前置詞+関係代名詞、関係副詞 仮定法 8 Unit 7 名詞の働きをするもの(1)-関係代名詞what 名詞の働きをするもの(2)-間接疑問 9 Unit 8 名詞の働きをするもの(3)-準動詞 知覚動詞・使役動詞 10 Unit 9 名詞の働きをするもの(4)-that節 itの用法 11 Unit 10 名詞の働きをするもの(5)-疑問詞+to不定詞 forの用法 12 Unit 11 比較級・最上級 〈未来〉の表現、 13 Unit 12 more, mostの用法 全体否定と部分否定 14 Unit 13 仮定法(2)I wish～ asの用法 15 Unit 14 受動態 注意すべき代名詞 進度により変更の可能性あり。								
キーワード									
教科書 参考書	教科書：『奥さまは魔女のFANTASTIC ENGLISH WORLD』(高本孝子、納富末世 著 開文社 2013年)								
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験 (70%) , 小テスト(30%)で総合的に判定する。 評価基準：試験、小テスト等によって目標の理解度、達成度を評価する。授業への積極的な姿勢等を学習意欲の高さとして評価する。								
関連科目	英語セミナー								
履修要件	なし								
教 育 方 法 ・ そ の 他									
辞書を持参し、必ず予習をしておくこと。対話型講義を心がけ、受講者の知的好奇心を刺激し、意欲をもって授業に参加できるよう努力する。英語が苦手で勉強の仕方がわからない等の心配がある人はいつでも相談にきて頂きたい。									

学 科 目 名	英 語 (文法) (1年Hコース)				単位数	1単位			
	English				教員名 メールアドレス	下條かおり (非常勤講師)			
	学習・教育目標 : F (◎)								
履修年次・学期	F科	1年 前期 必		M科	1年 前期 必		S科	1年 前期 必	
	A科	1年 前期 必		D科	1年 前期 必				
質 問 受 付	随時 (面談は事前にアポイントを取ること)								
授 業 概 要									
授業で紹介する名言を学習することによって、英語文法の基礎的知識を修得する。									
授 業 の 目 標									
一般目標 : 大学での英語学習に必要な文法・語彙の習得を中心に、英語力の向上を目指す。 行動目標 : 受け身の英語学習を脱却し、正確な文法・語彙力を基に、自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。									
回	授 業 計 画 ・ 内 容								
	1	品詞							
	2	文型							
	3	文の種類							
	4	基本時制							
	5	完了形と進行形							
	6	動名詞							
	7	不定詞							
	8	分詞							
	9	比較							
	10	助動詞							
	11	受動態							
	12	代名詞							
	13	接続詞							
	14	関係詞							
	15	仮定法・その他の文法・語法							
キーワード	名言、音読、文法								
教科書 参考書	教科書 : 名言英文法 (Z会編集部編、Z会、2021) 参考書 : 特になし								
評価方法 評価基準	評価方法 : 期末試験 (70%)、小テスト (30%) で総合的に判定する。 評価基準 : 試験、小テストについては、授業目標についての理解度、達成度を評価する。								
関連科目	英語セミナー								
履修要件	なし								
教 育 方 法 ・ そ の 他									
質問がある場合は、授業中に聞くこと									

学 科 目 名	英 語(文法) (1年Gコース)				単位数	1単位			
	English				教員名 メールアドレス	臺丸谷美幸 7797@fishusimo01.onmicrosoft.com			
	学習・教育到達目標：F (◎)								
履修年次・学期	F科	1年	前期 必	M科	1年	前期 必	S科	1年	前期 必
	A科	1年	前期 必	D科	1年	前期 必			
質 問 受 付	随時（面談は事前にアポイントを取る） 3 学科共用実験棟教員研究室(215)								
授 業 概 要									
大学英語に必須の基本的な文法と語彙を習得する授業。授業では文法の理解だけにとどまらず、学習した文法を用いた短文の英作文に挑戦したり、平易な文を読み、実際の文中でどのように文法が用いられているかを理解するなど、実践的な学びを目指す。									
授 業 の 目 標									
一般目標：大学での英語学習に必要な文法・語彙の習得を中心に、英語力の向上を目指す。 行動目標：受け身の英語学習を脱却し、正確な文法・語彙力を基に、自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。									
回	授 業 計 画 ・ 内 容								
	1 授業ガイダンス。Unit1（現在形と現在進行形）の導入。 2 Unit1とUnit2（数えられる名詞と数えられない名詞）の解説、演習。 3 Unit3（代名詞の使い分け）の解説、演習。 4 Unit4（形容詞と副詞）の解説、演習。 5 Unit6（Yes/No疑問文とWh疑問文）の解説、演習。 6 Unit7（他動詞と自動詞）の解説、演習。 7 中間テスト、Unit 5（場所の前置詞と時の前置詞）の解説、演習。 8 Unit8（不定詞と動名詞）の解説、演習。 9 Unit9（過去形と過去進行形と現在完了形）の解説、演習。 10 Unit10（willとbe going to）の解説、演習。 11 Unit11(助動詞の使い分け)の解説、演習。 12 Unit12（比較級と最上級）の解説、演習。 13 Unit13（能動態と受動態）の解説、演習。 14 Unit14（接続詞の使い分け）の解説、演習。 15 Unit15（関係詞の使い分け）の解説、演習。総まとめを行う。								
キーワード	文法・語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング								
教科書 参考書	教科書：『ENGLISH CONTRASTS イングリッシュ・ガイド～基本文法で学ぶ英語の使い方』（Robert Hickling著、金星堂）、他プリントを配布する。 参考書:授業中に紹介する。								
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験(50%)、中間テスト(30%)、提出課題（Check linkの実施）(10%)及び授業貢献度(10%)、とし、総合的に判断する。 評価基準：期末試験、中間テスト、提出課題等によって授業目標についての理解度、達成度を評価する。評価項目のうち一つでも合格基準を満たしていない項目があると不合格となる場合がある。								
関連科目	英語セミナー								
履修要件	なし								
教 育 方 法 ・ そ の 他									
毎回、英和辞書（紙または電子、携帯アプリは不可）を持参すること。頭をフル回転させて潜在的な英語の能力を最大限引き出すことを目標とするため、授業中のパソコン、スマートフォンの使用は不可。予習復習でのPC等のデジタルツールの使用は大いに推奨。必ず授業前に教科書の次の授業範囲に目を通し、問題は解いておくこと。予習では理解できなかった箇所を明確にして授業に臨むことが重要。									

学 科 目 名	英 語 (読解) (1年 Bコース)				単位数	1単位			
	English				教員名 メールアドレス	猪熊慶祐 kei.inkm@fish-u.ac.jp			
	学習・教育目標：F (◎)								
履修年次・学期	F科	1年 後期 必		M科	1年 後期 必		S科	1年 後期 必	
	A科	1年 後期 必		D科	1年 後期 必				
質 問 受 付	随時 (面談は事前にアポイントを取ることに) 三学科共用実験棟2F (205)								
授 業 概 要									
本授業は、読解に特化したクラスである。平易な英文を読み、文法事項、語彙を確認しながら読解力を確実に身に付ける授業。授業で培った技能を基にリスニングやライティング等、総合的な英語力向上と高次の視座の獲得を目指す授業。									
授 業 の 目 標									
一般目標：リーディング、文法・語彙の強化を中心に、総合的な英語力の向上を目指す。 行動目標：授業で習得した技能を用いて、英文の情報を適切に読み取り、自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。									
回	授 業 計 画 ・ 内 容								
1	イントロダクション・授業ガイダンス								
2	Lesson 1の解説を行い、演習問題を解く。								
3	Lesson 2の解説を行い、演習問題を解く。								
4	Lesson 3の解説を行い、演習問題を解く。								
5	Lesson 4の解説を行い、演習問題を解く。								
6	Lesson 5の解説を行い、演習問題を解く。								
7	Lesson 6の解説を行い、演習問題を解く。								
8	Lesson 7の解説を行い、演習問題を解く。								
9	Lesson 8の解説を行い、演習問題を解く。								
10	Lesson 9の解説を行い、演習問題を解く。								
11	Lesson 10の解説を行い、演習問題を解く。								
12	Lesson 11の解説を行い、演習問題を解く。								
13	Lesson 12の解説を行い、演習問題を解く。								
14	Lesson 13の解説を行い、演習問題を解く。								
15	Lesson 14の解説を行い、演習問題を解く。								
キーワード									
教科書 参考書	教科書：『Everyday History 現代から紐解く歴史と文化』 (Jim Knudsen、南雲堂) 参考書：授業中に紹介する。								
評価方法 評価基準	評価方法：定期試験50%、課題30%、小テスト20%とし、総合的に判断する。 評価基準：期末試験、課題提出および小テスト等によって授業目標についての達成度、理解度を評価する。								
関連科目	英語セミナー								
履修要件	なし								
教 育 方 法 ・ そ の 他									
毎回、英和辞書 (紙製か電子辞書) を授業に持参すること。授業中は頭をフル回転させて潜在的な英語の能力を最大限引き出すことを重視するため、パソコン、スマートフォンの使用は不可とする。必ず授業前に講義範囲に目を通し、問題は解いておくこと。予習ではどこが理解できなかったのか、わからない個所を明確にして授業に臨むこと。予習復習でのPC等のデジタルツールは大いに推奨。									

学 科 目 名	英語（読解）（1 年Aコース）		単位数	1 単位
	English		教員名	田宮 晴彦
	学習・教育到達目標：F（◎）		メールアドレス	htamiya@fish-u.ac.jp
履修年次・学期	F 科	1 年 後期 必	M 科	1 年 後期 必
	A 科	1 年 後期 必	D 科	1 年 後期 必
質 問 受 付	三学科共用実験棟 2F 田宮研究室（部屋番号：214） 随時			
授 業 概 要				
基礎的な文法についての復習を中心に、授業ごとに配布する英文を読み解くことにより語彙力と読解力を養う。				
授 業 の 目 標				
一般目標：リーディング、文法・語彙の強化を中心に、総合的な英語力の向上を目指す。 行動目標：授業で習得した技能を用いて、英文の情報を適切に読み取り、自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。				
回	授 業 計 画 ・ 内 容			
	1 授業ガイダンス。Unit1の一部解説を行う。 2 Unit1の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 3 Unit2の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 4 Unit3の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 5 Unit4の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 6 Unit5の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 7 Unit6の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 8 Unit7の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 9 Unit8の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 10 Unit9の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 11 Unit10の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 12 Unit11の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 13 Unit12の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 14 Unit13の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。 15 Unit14の課題文について解説し、付属の練習問題を解く。			
キーワード	英文法、読解、語彙			
教科書 参考書	教科書：Steps to Academic English-Basic-(Clive Langham著、朝日出版)、他に適宜プリントを配布する。 参考書：授業中に紹介する。			
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験(75%)および小テストや課題提出など(25%) 評価基準：試験および提出課題により、授業の理解度を評価する。			
関連科目				
履修要件	特になし			
教 育 方 法 ・ そ の 他				
授業に際しては、必ず辞書を持参すること。また、高校時代に使用した参考書があれば、手許に持っておくこと。				

学 科 目 名	英 語 (読解) (1年Dコース)				単位数		1単位					
	English				教員名 メールアドレス		納富 末世					
	学習・教育目標 : F (◎)											
履修年次・学期	F科	1 年 後期 必			M科	1 年 後期 必			S科	1 年 後期 必		
	A科	1 年 後期 必			D科	1 年 後期 必						
質 問 受 付	講義終了後、教室にて随時。											
授 業 概 要												
シェイクスピア (Shakespeare) の名作『ハムレット』 (HAMLET) と『ロミオとジュリエット』 (ROMEO AND JULIET) を読みやすい英語で読み, 英文を読む面白さを感じながら読解力を高める。各章にある内容把握とあらすじの確認を兼ねた練習問題を解くことにより, リスニング力を含めた総合的な英語力を習得する。												
授 業 の 目 標												
一般目標:リーディング, 文法・語彙の強化を中心に, 総合的な英語力の向上を目指す。 行動目標:授業で習得した技能を用いて, 英文の情報を適切に取り取り, 自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。												
回	授 業 計 画 ・ 内 容											
	1 PART 1 HAMLET: Chapter 1 "Murder Most Foul" 2 Chapter 2 "Conscience Does Make Cowards of Us All" 3 Chapter 3 "The Mousetrap" 4 Chapter 4 "Words without Thoughts Never to Heaven Go" 5 Chapter 5 "To Whet Thy Almost Blunted Sword" 6 Chapter 6 "One Woe Doth Tread upon Another's Heel" 7 Chapter 7 "Revenge Should Have No Bounds" 8 Chapter 8 "Then Venom, to Thy Work", 小テスト 9 PART 2 ROMEO AND JULIET : Chapter 1 "Love's Transgression" 10 Chapter 2 "My Life Is My Foe's Dept" 11 Chapter 3 "Parting Is Such Sweet Sorrow" 12 Chapter 4 "The Measure of Thy Joy" 13 Chapter 5 "O, I Am Fortune's Fool" 14 Chapter 6 "Take Heed, for Such Die Miserable" 15 リーディングテスト 進度によって変更あり。											
キーワード												
教科書 参考書	教科書:『シンプリー・シェイクスピア』 (Simply Shakespeare Two Tragic Stories : HAMLET and ROMEO AND JULIET) ジム・クヌーセン, 田口孝夫著 南雲堂 2011年											
評価方法 評価基準	評価方法: 期末試験 (70%), 小テスト (30%) で総合的に判定する。 評価基準: 試験, 小テスト等によって目標の理解度, 達成度を評価する。授業への積極的な姿勢等を学習意欲の高さとして評価する。											
関連科目	英語セミナー											
履修要件	なし											
教 育 方 法 ・ そ の 他												
辞書を持参し, 必ず予習をしておくこと。対話型講義を心がけ, 受講者の知的好奇心を刺激し, 意欲をもって授業に参加できるよう努力する。英語が苦手な勉強の仕方がわからない等の心配がある人はいつでも相談にきて頂きたい。												

学 科 目 名	英 語 (読解) (1年Cコース)				単位数	1単位						
	English				教員名 メールアドレス	臺丸谷美幸 7797@fishusimo01.onmicrosoft.com						
	学習・教育到達目標：F (◎)											
履修年次・学期	F 科	1年	後期	必	M 科	1年	後期	必	S 科	1年	後期	必
	A 科	1年	後期	必	D 科	1年	後期	必				
質 問 受 付	随時 (面談は事前にアポイントを取ること) 3 学科共用実験棟教員研究室(215)											
授 業 概 要												
科学に関する平易な英文を読み、基本的な文法、語彙事項を確認しながら、大学英語に必要な読解力を確実に身に着ける授業。授業で培ったリーディングスキルを基に総合的な英語力の向上を図る。												
授 業 の 目 標												
一般目標：リーディング、文法・語彙の強化を中心に、総合的な英語力の向上を目指す。 行動目標：授業で習得した技能を用いて、英文の情報を適切に読み取り、自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。												
回	授 業 計 画 ・ 内 容											
	1 授業ガイダンス。Unit1の一部解説を行う① 2 Unit1 の解説を行い、演習問題を解く② 3 Unit1 の解説を行い、演習問題を解く③ 4 Unit2 の解説を行い、演習問題を解く① 5 Unit2 の解説を行い、演習問題を解く② 6 Unit3 の解説を行い、演習問題を解く① 7 Unit3 の解説を行い、演習問題を解く② 8 Unit4 の解説を行い、演習問題を解く① 9 Unit4 の解説を行い、演習問題を解く② 10 Unit10 の解説を行い、演習問題を解く① 11 Unit10 の解説を行い、演習問題を解く② 12 Unit13 の解説を行い、演習問題を解く① 13 Unit13 の解説を行い、演習問題を解く② 14 Unit14 の解説を行い、演習問題を解く① 15 Unit14 の解説を行い、演習問題を解く②、総まとめを行う。											
キーワード	リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング、文法、語彙											
教科書 参考書	教科書：『Science Explorer 「Science News」 やさしい科学英語リーディング演習』（野崎嘉信、松本和子、Kevin Cleary著、南雲堂）、他にプリントを配布する。 参考書：授業中に紹介する。											
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験(70%)、小テスト(10%)、課題提出(10%)及び授業貢献度(10%)とし、総合的に判断する。 評価基準：期末試験、課題提出および小テスト等によって授業目標についての理解度、達成度を評価する。評価項目のうち一つでも合格基準を満たしていない項目があると不合格となる場合がある。											
関連科目	英語セミナー											
履修要件	なし											
教 育 方 法 ・ そ の 他												
毎回、英和辞書（紙製か電子辞書）を持参すること。授業中は頭をフル回転させて、潜在的な英語の能力を最大限引き出すことを重視するため、パソコン、スマートフォンの使用は不可とする。必ず授業前に講義範囲に目を通し、問題は解いておくこと。予習ではどこが理解できなかったのか。わからない箇所を明確にして授業に臨むことが重要。予習復習でのPC等のデジタルツールの使用は大いに推奨。												

学 科 目 名	英 語 (作文) (1年Bコース)				単位数	1単位		
	English				教員名 メールアドレス	納富末世		
	学習・教育到達目標 : F (◎)							
履修年次・学期	F科	1 年	後期	必	M科	1 年	後期	必
	A科	1 年	後期	必	D科	1 年	後期	必
質 問 受 付	講義終了後, 教室にて随時。							
授 業 概 要								
この授業では, 作文に必要な基礎的な文法力を中心に総合的な英語力を習得する。英語に苦手意識をもっている場合は特に英文法を嫌煙しがちであると思われるが, 簡単な英文を使って繰り返し学習することで文法力を定着させることができ, その文法力を活かして英文を作ることが出来るようになる。また, 「旅行」や「アルバイト」, 「映画」や「スポーツ」といった日常的な出来事で使える表現を多くとりあげたテキストを通して学習する。								
授 業 の 目 標								
一般目標: 大学での英語学習に必要なライティングの知識, 技法の習得を中心に, 英語力の向上を目指す。 行動目標: 受け身の英語学習を脱却し, 正確な文法・語彙力と英作文の技法を基に, 自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。								
回	授 業 計 画 ・ 内 容							
1	テキストを見ながら基本的文法ポイントの確認							
2	Unit 1 感情を表す言葉, イコールの働きをするbe動詞							
3	Unit 2 場所を表す言葉, <存在>を表すbe動詞							
4	Unit 3 時を表す言葉, 一般動詞の現在形 (一人称, 二人称)							
5	Unit 4 学校生活に関する言葉, 一般動詞の現在形 (三人称単数)							
6	Unit 5 旅行や娯楽に関する言葉, 一般動詞の過去形, 小テスト							
7	Unit 6 店を表す言葉, 現在進行形							
8	Unit 7 買い物や見せに関する言葉, 現在完了形 (完了を表す)							
9	Unit 8 食べ物や料理に関する言葉, 現在完了形 (経験を表す)							
10	Unit 9 天候を表す言葉, 現在完了形 (継続を表す) ・ 現在完了進行形							
11	Unit 10 進路や職業に関する言葉, 予定や希望を表す言葉, 理由を表す従属節							
12	Unit 11 仕事や会社に関する言葉, 義務や目的を表す言葉, 小テスト							
13	Unit 12 ニュースや犯罪に関する言葉, 受動態							
14	Unit 13 娯楽・マスコミに関する言葉, 関係詞							
15	まとめ							
	進度により変更の可能性あり。							
キーワード								
教科書 参考書	教科書 : <i>Easy English Learning Through Pattern Practice</i> (高本孝子 他著 開文社 2019年)							
評価方法 評価基準	評価方法 : 期末試験 (70%) , 小テスト (30%) で総合的に判定する。 評価基準 : 試験, 小テスト等によって目標の理解度, 達成度を評価する。授業への積極的な姿勢等を学習意欲の高さとして評価する。							
関連科目	英語セミナー							
履修要件	なし							
教 育 方 法 ・ そ の 他								
辞書を持参し, 必ず予習をしておくこと。対話型講義を心がけ, 受講者の知的好奇心を刺激し, 意欲をもって授業に参加できるよう努力する。英語が苦手な勉強の仕方がわからない等の心配がある人はいつでも相談にきて頂きたい。								

学 科 目 名	英 語 (作文) (1年 Aコース)				単位数	1単位			
	English				教員名 メールアドレス	猪熊慶祐 kei.inkm@fish-u.ac.jp			
	学習・教育目標：F (◎)								
履修年次・学期	F科	1年 後期 必		M科	1年 後期 必		S科	1年 後期 必	
	A科	1年 後期 必		D科	1年 後期 必				
質 問 受 付	随時 (面談は事前にアポイントを取る) 三学科共用実験棟2F (205)								
授 業 概 要									
本授業は、作文に特化したクラスである。基本的な文法事項、語彙を確認しながら作文力を確実に身に付ける授業。また、英文エッセイを批判的に読みこなす力をも養う。授業で培った技能を基に自分の意見や考えを英文エッセイで論理的に論じる力を身に付ける。									
授 業 の 目 標									
一般目標：大学での英語学習に必要なライティングの知識、技法の習得を中心に、英語力の向上を目指す。 行動目標：受け身の英語学習を脱却し、正確な文法・語彙力と英作文の技法を基に、自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。									
回	授 業 計 画 ・ 内 容								
1	イントロダクション・授業ガイダンス								
2	Lesson 1の解説を行い、演習問題を解く。								
3	Lesson 2の解説を行い、演習問題を解く。								
4	Lesson 3の解説を行い、演習問題を解く。								
5	エッセイライティング								
6	Lesson 4の解説を行い、演習問題を解く。								
7	Lesson 5の解説を行い、演習問題を解く。								
8	Lesson 6の解説を行い、演習問題を解く。								
9	Lesson 7の解説を行い、演習問題を解く。								
10	エッセイライティング								
11	Lesson 8の解説を行い、演習問題を解く。								
12	Lesson 9の解説を行い、演習問題を解く。								
13	Lesson 10の解説を行い、演習問題を解く。								
14	エッセイライティング								
15	まとめ								
キーワード									
教科書 参考書	教科書：Skills for Better Writing <Basic> (Yumiko Ishitani、南雲堂) 参考書：授業中に紹介する。								
評価方法 評価基準	評価方法：定期試験50%、課題30%、小テスト20%とし、総合的に判断する。 評価基準：期末試験、小テスト、提出課題によって授業目標についての達成度、理解度を評価する。								
関連科目	英語セミナー								
履修要件	なし								
教 育 方 法 ・ そ の 他									
毎回、英和辞書（紙製か電子辞書）を授業に持参すること。授業中は頭をフル回転させて潜在的な英語の能力を最大限引き出すことを重視するため、パソコン、スマートフォンの使用は不可とする。必ず授業前に講義範囲に目を通し、問題は解いておくこと。予習ではどこが理解できなかったのか、わからない個所を明確にして授業に臨むこと。予習復習でのPC等のデジタルツールは大いに推奨。									

学 科 目 名	英 語(作文) (1年Dコース)				単位数		1単位					
	English				教員名 メールアドレス		臺丸谷美幸 7797@fishusimo01.onmicrosoft.com					
	学習・教育到達目標：F (◎)											
履修年次・学期	F科	1年	後期	必	M科	1年	後期	必	S科	1年	後期	必
	A科	1年	後期	必	D科	1年	後期	必				
質 問 受 付	随時 (面談は事前にアポイントを取ることに) 3学科共用実験棟教員研究室(215)											
授 業 概 要												
本授業はライティングに特化し、簡潔な英語を用いて表現する技法を習得する。受講生は毎回、テキストに沿った英作文課題に取り組む。ライティングを主軸としながらも、リスニング、スピーキング、リーディングも随所に取り入れ、総合的な英語力の強化を図る。												
授 業 の 目 標												
一般目標：大学での英語学習に必要なライティングの知識、技法の習得を中心に、英語力の向上を目指す。												
行動目標：受け身の英語学習を脱却し、正確な文法・語彙力と英作文の技法を基に、自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。												
回	授 業 計 画 ・ 内 容											
1	授業ガイダンス。Unit1の導入											
2	Unit1の解説を行い、自己添削する。応用課題に取り組む。											
3	Unit2の解説を行い、自己添削する。応用課題に取り組む。											
4	Unit3の解説を行い、自己添削する。応用課題に取り組む。											
5	Unit4の解説を行い、自己添削する。応用課題に取り組む。											
6	Unit5の解説を行い、自己添削する。応用課題に取り組む。											
7	Unit6の解説を行い、自己添削する。応用課題に取り組む。											
8	Unit7の解説を行い、自己添削する。応用課題に取り組む。											
9	Unit8の解説を行い、自己添削する。応用課題に取り組む。											
10	Unit9の解説を行い、自己添削する。応用課題に取り組む。											
11	Unit10の解説を行い、自己添削する。応用課題に取り組む。											
12	Unit11の解説を行い、自己添削する。応用課題に取り組む。											
13	Unit12の解説を行い、自己添削する。応用課題に取り組む。											
14	Unit13の解説を行い、自己添削する。応用課題に取り組む。											
15	Unit14の解説を行い、自己添削する。応用課題に取り組む。											
キーワード	ライティング、リスニング、スピーキング、リーディング、文法、語彙											
教科書 参考書	教科書：『Skills for Better Writing<Basic> 構造で書く英文エッセイ<初級編>』 (石谷由美子著、南雲堂)、他にプリントを配布する。 参考書：授業中に紹介する。											
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験(50%)、エッセーライティング(30%)、提出課題及び授業貢献度 (20%) で総合的に判断する。 評価基準：期末試験、エッセーライティング、提出課題等によって授業目標についての理解度、達成度を評価する。評価項目のうち一つでも合格基準を満たしていない項目があると不合格となる場合がある。											
関連科目	英語セミナー											
履修要件	なし											
教 育 方 法 ・ そ の 他												
毎回、英和辞書 (紙または電子、携帯アプリは不可) を持参すること。頭をフル回転させて潜在的な英語の能力を最大限引き出すことを目標とするため、授業中のパソコン、スマートフォンの使用は不可。予習復習でのPC等のデジタルツールの使用は大いに推奨。必ず事前に講義範囲の英作文問題に取り組んでおくこと。抜き打ちでノート提出を求める場合もある。												

学 科 目 名	英 語 (作文) (1年 Cコース)				単位数	1単位			
	English				教員名 メールアドレス	猪熊慶祐 kei.inkm@fish-u.ac.jp			
	学習・教育目標：F (◎)								
履修年次・学期	F科	1年 後期 必		M科	1年 後期 必		S科	1年 後期 必	
	A科	1年 後期 必		D科	1年 後期 必				
質 問 受 付	随時 (面談は事前にアポイントを取る) 三学科共用実験棟2F (205)								
授 業 概 要									
本授業は、作文に特化したクラスである。基本的な文法事項、語彙を確認しながら作文力を確実に身に付ける授業。また、英文エッセイを批判的に読みこなす力をも養う。授業で培った技能を基に自分の意見や考えを英文エッセイで論理的に論じる力を身に付ける。									
授 業 の 目 標									
一般目標：大学での英語学習に必要なライティングの知識、技法の習得を中心に、英語力の向上を目指す。 行動目標：受け身の英語学習を脱却し、正確な文法・語彙力と英作文の技法を基に、自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。									
回	授 業 計 画 ・ 内 容								
1	イントロダクション・授業ガイダンス								
2	Lesson 1の解説を行い、演習問題を解く。								
3	Lesson 2の解説を行い、演習問題を解く。								
4	Lesson 3の解説を行い、演習問題を解く。								
5	エッセイライティング								
6	Lesson 4の解説を行い、演習問題を解く。								
7	Lesson 5の解説を行い、演習問題を解く。								
8	Lesson 6の解説を行い、演習問題を解く。								
9	Lesson 7の解説を行い、演習問題を解く。								
10	エッセイライティング								
11	Lesson 8の解説を行い、演習問題を解く。								
12	Lesson 9の解説を行い、演習問題を解く。								
13	Lesson 10の解説を行い、演習問題を解く。								
14	エッセイライティング								
15	まとめ								
キーワード									
教科書 参考書	教科書：Skills for Better Writing <Basic> (Yumiko Ishitani、南雲堂) 参考書：授業中に紹介する。								
評価方法 評価基準	評価方法：定期試験50%、課題30%、小テスト20%とし、総合的に判断する。 評価基準：期末試験、小テスト、提出課題によって授業目標についての達成度、理解度を評価する。								
関連科目	英語セミナー								
履修要件	なし								
教 育 方 法 ・ そ の 他									
毎回、英和辞書（紙製か電子辞書）を授業に持参すること。授業中は頭をフル回転させて潜在的な英語の能力を最大限引き出すことを重視するため、パソコン、スマートフォンの使用は不可とする。必ず授業前に講義範囲に目を通し、問題は解いておくこと。予習ではどこが理解できなかったのか、わからない個所を明確にして授業に臨むこと。予習復習でのPC等のデジタルツールは大いに推奨。									

学 科 目 名	英 語（読解）（2年Bコース）				単位数		1単位					
	English				教員名 メールアドレス 臺丸谷 美幸 7797@fishusimo01.onmicrosoft.com							
	学習・教育到達目標：F（◎）											
履修年次・学期	F科	2年	後期	必	M科	2年	後期	必	S科	2年	後期	必
	A科	2年	後期	必	D科	2年	後期	必				
質 問 受 付	随時（面談は事前にアポイントを取る） 3 学科共用実験棟教員研究室(215)											
授 業 概 要												
比較的平易な英文記事を読み、リーディングを中心に、リスニング、ライティング、スピーキングを加えた4技能を鍛え、総合的な英語力向上を目指す。1年次で修得した知識から発展し、英文を的確に読み取り、深く内容を理解する力を蓄える。授業では水産とジェンダーに関連する記事を読む。												
授 業 の 目 標												
一般目標：リーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指す。1年次までに習得した基礎を強化し、応用力を身に着ける。												
行動目標：授業で習得した英語の技能を用いて、英語で的確に情報を読み取り、深く理解した上で、自らの考えを口頭や記述で表現することができるようにする。												
回	授 業 計 画 ・ 内 容											
	1 授業ガイダンス。 2 課題文①の解説を行い、演習問題を解く。 3 課題文①の解説を行い、演習問題を解く。 4 課題文②の解説を行い、演習問題を解く。 5 課題文②の解説を行い、演習問題を解く。 6 課題文③の解説を行い、演習問題を解く。 7 課題文③の解説を行い、演習問題を解く。 8 課題文④の解説を行い、演習問題を解く。 9 課題文④の解説を行い、演習問題を解く。 10 課題文⑤の解説を行い、演習問題を解く。 11 課題文⑤の解説を行い、演習問題を解く。 12 課題文⑥の解説を行い、演習問題を解く。 13 課題文⑥の解説を行い、演習問題を解く。 14 課題文⑦の解説を行い、演習問題を解く。 15 課題文⑦の解説を行い、演習問題を解く。 総まとめを行う。											
キーワード	リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング、水産とジェンダー											
教科書 参考書	教科書：市販教科書はなし。リーディング教材を授業時に配布する。 参考書：授業中に紹介する。											
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験(70%)、提出課題、小テスト及び授業貢献度(30%)とし、総合的に判断する。 評価基準：期末試験、課題および小テスト等によって授業目標についての理解度、達成度を評価する。評価項目のうち一つでも合格基準を満たしていない項目があると不合格となる場合がある。											
関連科目	英語セミナー											
履修要件	なし											
教 育 方 法 ・ そ の 他												
毎回、英和辞書（紙または電子、携帯アプリは不可）を持参すること。頭をフル回転させて潜在的な英語の能力を最大限引き出すことを目標とするため、授業中のパソコン、スマートフォンの使用は不可。予習復習でのPC等のデジタルツールの使用は大いに推奨。必ず授業前に教科書の次の授業範囲に目を通し、問題は解いておくこと。予習では理解できなかった箇所を明確にして授業に臨むことが重要。												

学 科 目 名	英 語 (読解) (2年Aコース)				単位数	1単位			
	English				教員名 メールアドレス	納富末世			
	学習・教育到達目標：F (◎)								
履修年次・学期	F科	2 年 後期 必		M科	2 年 後期 必		S科	2 年 後期 必	
	A科	2 年 後期 必		D科	2 年 後期 必				
質 問 受 付	講義終了後, 教室にて随時。								
授 業 概 要									
アイルランドの作家ブラム・ストーカーの代表作『吸血鬼ドラキュラ』のretold版をテキストとして, 物語を読む楽しみを体感しながら語彙力および読解力を高める。chapterごとの練習問題を解くことにより総合的な英語力を習得する。									
授 業 の 目 標									
一般目標：読解力, 文法力を養う。音読により英語のリズムを習得する。語彙力の増強を目指す。 行動目標：構文を理解することで英文の構造をつかんで読めるようになると同時に, 学んだ構文を使って英文を作る, 英語を話す際に応用できるようになる。									
回	授 業 計 画 ・ 内 容								
	1 Chapter 1 ハーカー, トランシルヴァニアへ 2 Chapter 2 ドラキュラ城に囚われて 3 Chapter 3 伯爵の出立 4 Chapter 4 死者たちの船 5 Chapter 5 ルーシー, 「進入口」となる 6 Chapter 6 ルーシー, 「戦場」となる 7 Chapter 7 不死者ルーシー, 小テスト 8 Chapter 8 ヴァン・ヘルシングの分析と戦略 9 Chapter 9 ミナの危機 10 Chapter 10 ミナ, 「探知機」となる 11 Chapter 11 再び, トランシルヴァニアへ 12 Chapter 12 終焉, 小テスト 13 リーディングテスト 14 まとめ① 15 まとめ② 進度によって変更あり。								
キーワード									
教科書 参考書	教科書：DRACULA RETOLD IN SIMPLE ENGLISH 細川 祐子 他 英宝社 2019年								
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験 (70%) , 小テスト (30%) で総合的に判定する。 評価基準：試験, 小テスト等によって目標の理解度, 達成度を評価する。授業への積極的な姿勢等を学習意欲の高さとして評価する。								
関連科目	英語セミナー								
履修要件	なし								
教 育 方 法 ・ そ の 他									
辞書を持参し, 必ず予習をしておくこと。対話型講義を心がけ, 受講者の知的好奇心を刺激し, 意欲をもって授業に参加できるよう努力する。英語が苦手勉強の仕方がわからない等の心配がある人はいつでも相談にきて頂きたい。									

学 科 目 名	英 語 (読解) (2年 Dコース)				単位数	1単位		
	English				教員名	猪熊慶祐		
	学習・教育目標 : F (◎)				メールアドレス	kei.inkm@fish-u.ac.jp		
履修年次・学期	F科	2年	前期	必	M科	2年	前期	必
	A科	2年	前期	必	D科	2年	前期	必
質 問 受 付	随時 (面談は事前にアポイントを取ること) 三学科共用実験棟2F (205)							
授 業 概 要								
本授業は、読解に特化したクラスである。比較的平易な英語を読み、基礎的な文法事項、語彙を確認しながら速読力、読解力を確実に身に付ける授業。授業で培った技能を基に総合的な英語力向上を目指す。								
授 業 の 目 標								
一般目標 : 一年次に培った技能を基に、読解力、語彙力等、総合的な英語力向上を目指す。 行動目標 : 授業で習得した技能を用いて英文を適切に読み、内容を熟考したうえで自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。								
回	授 業 計 画 ・ 内 容							
1	イントロダクション・授業							
2	Unit 1の解説を行い、演習問題を解く。							
3	Unit 2の解説を行い、演習問題を解く。							
4	Unit 3の解説を行い、演習問題を解く。							
5	Unit 4の解説を行い、演習問題を解く。							
6	Unit 5の解説を行い、演習問題を解く。							
7	Unit 6の解説を行い、演習問題を解く。							
8	Unit 7の解説を行い、演習問題を解く。							
9	Unit 8の解説を行い、演習問題を解く。							
10	Unit 9の解説を行い、演習問題を解く。							
11	Unit 10の解説を行い、演習問題を解く。							
12	Unit 11の解説を行い、演習問題を解く。							
13	Unit 12の解説を行い、演習問題を解く。							
14	Unit 13の解説を行い、演習問題を解く。							
15	Unit 14の解説を行い、演習問題を解く。							
キーワード								
教科書 参考書	教科書 : <i>Our Society, Our Diversity, Our Movies</i> (Joseph Tabolt / 森永弘司、金星堂) 参考書 : 授業内で紹介する							
評価方法 評価基準	評価方法 : 定期試験50%、課題30%、小テスト20%とし、総合的に判断する。 評価基準 : 期末試験、課題提出および小テスト等によって授業目標についての達成度、理解度を評価する。							
関連科目	英語セミナー							
履修要件	なし							
教 育 方 法 ・ そ の 他								
毎回、英和辞書 (紙製か電子辞書) を授業に持参すること。授業中は頭をフル回転させて潜在的な英語の能力を最大限引き出すことを重視するため、パソコン、スマートフォンの使用は不可とする。必ず授業前に講義範囲に目を通し、問題は解いておくこと。予習ではどこが理解できなかったのか、わからない個所を明確にして授業に臨むこと。予習復習でのPC等のデジタルツールは大いに推奨。								

学 科 目 名	英 語 (読解) (2年 Cコース)				単位数	1単位			
	English				教員名	猪熊慶祐			
	学習・教育目標 : F (◎)				メールアドレス	kei.inkm@fish-u.ac.jp			
履修年次・学期	F科	2年 前期 必		M科	2年 前期 必		S科	2年 前期 必	
	A科	2年 前期 必		D科	2年 前期 必				
質 問 受 付	随時 (面談は事前にアポイントを取る) 三学科共用実験棟2F (205)								
授 業 概 要									
本授業は、読解に特化したクラスである。比較的平易な英語を読み、基礎的な文法事項、語彙を確認しながら速読力、読解力を確実に身に付ける授業。授業で培った技能を基に総合的な英語力向上を目指す。									
授 業 の 目 標									
一般目標 : 一年次に培った技能を基に、読解力、語彙力等、総合的な英語力向上を目指す。 行動目標 : 授業で習得した技能を用いて英文を適切に読み、内容を熟考したうえで自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。									
回	授 業 計 画 ・ 内 容								
1	イントロダクション・授業								
2	Unit 1の解説を行い、演習問題を解く。								
3	Unit 2の解説を行い、演習問題を解く。								
4	Unit 3の解説を行い、演習問題を解く。								
5	Unit 4の解説を行い、演習問題を解く。								
6	Unit 5の解説を行い、演習問題を解く。								
7	Unit 6の解説を行い、演習問題を解く。								
8	Unit 7の解説を行い、演習問題を解く。								
9	Unit 8の解説を行い、演習問題を解く。								
10	Unit 9の解説を行い、演習問題を解く。								
11	Unit 10の解説を行い、演習問題を解く。								
12	Unit 11の解説を行い、演習問題を解く。								
13	Unit 12の解説を行い、演習問題を解く。								
14	Unit 13の解説を行い、演習問題を解く。								
15	Unit 14の解説を行い、演習問題を解く。								
キーワード									
教科書 参考書	教科書 : <i>Our Society, Our Diversity, Our Movies</i> (Joseph Tabolt / 森永弘司、金星堂) 参考書 : 授業内で紹介する								
評価方法 評価基準	評価方法 : 定期試験50%、課題30%、小テスト20%とし、総合的に判断する。 評価基準 : 期末試験、課題提出および小テスト等によって授業目標についての達成度、理解度を評価する。								
関連科目	英語セミナー								
履修要件	なし								
教 育 方 法 ・ そ の 他									
毎回、英和辞書 (紙製か電子辞書) を授業に持参すること。授業中は頭をフル回転させて潜在的な英語の能力を最大限引き出すことを重視するため、パソコン、スマートフォンの使用は不可とする。必ず授業前に講義範囲に目を通し、問題は解いておくこと。予習ではどこが理解できなかったのか、わからない個所を明確にして授業に臨むこと。予習復習でのPC等のデジタルツールは大いに推奨。									

学 科 目 名	英 語 (TOEIC) (2年Bコース)				単位数		1単位					
	English				教員名		臺丸谷美幸					
	学習・教育到達目標：F (◎)				メールアドレス		7797@fishusimo01.onmicrosoft.com					
履修年次・学期	F科	2年 前期 必			M科	2年 前期 必			S科	2年 前期 必		
	A科	2年 前期 必			D科	2年 前期 必						
質 問 受 付	随時（面談は事前にアポイントを取る） 3 学科共用実験棟教員研究室(215)											
授 業 概 要												
TOEIC®L&Rテスト形式に特化した教科書を用いて、リーディング、リスニングを中心にライティング、スピーキングの4技能を鍛え、総合的な英語力向上を図る授業。												
授 業 の 目 標												
一般目標：TOEIC®L&Rテストの形式に慣れ、リーディング、リスニングを中心に総合的な英語力の向上を目指す。大学1年生までに習得した基礎を強化、応用力を身に着ける。 行動目標：受講者は授業で習得した英語の技能を用いて、英語で的確に情報を読み取り、自らの考えを口頭や記述で表現することができるようにする。教材を通してTOEIC®L&Rテストの出題形式に慣れる。												
回	授 業 計 画 ・ 内 容											
	1 授業ガイダンス。教科書Unit1一部の解説を行い、演習問題を解く。 2 Unit 1&2の解説を行い、演習問題を解く。 3 Unit 3の解説を行い、演習問題を解く。 4 Unit 4の解説を行い、演習問題を解く 5 Unit 5の解説を行い、演習問題を解く。 6 Unit 6の解説を行い、演習問題を解く。 7 Unit 7の解説を行い、演習問題を解く。 8 Unit 8の解説を行い、演習問題を解く。 9 Unit 9の解説を行い、演習問題を解く。 10 Unit 10の解説を行い、演習問題を解く。 11 Unit 11の解説を行い、演習問題を解く。 12 Unit 12の解説を行い、演習問題を解く。 13 Unit 13の解説を行い、演習問題を解く。 14 Unit 14の解説を行い、演習問題を解く。 15 リスニングテスト実施、Unit 13の解説を行い、演習問題を解く。											
キーワード	TOEIC® L&R、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング、文法、語彙											
教科書 参考書	教科書：『ILLUMINATING THE PATH TO THE TOEIC L&R® TEST 新・重点特化型 TOEIC® L & Rテスト実力養成』（植木美千子他 著、金星堂）、他プリントを配布する。 参考書：授業中に紹介する。											
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験(50%)、リスニングテスト(30%) Check linkを使用した授業毎の提出課題(10%)、単語テスト(10%)とし、総合的に判断する。 評価基準：期末試験、提出課題および小テスト等によって授業目標についての理解度、達成度を評価する。評価項目のうち一つでも合格基準を満たしていない項目があると不合格となる場合がある。											
関連科目	英語セミナー											
履修要件	なし											
教 育 方 法 ・ そ の 他												
毎回、英和辞書（紙または電子、携帯アプリは不可）を持参すること。頭をフル回転させて潜在的な英語の能力を最大限引き出すことを目標とするため、授業中のパソコン、スマートフォンの使用は不可。予習復習でのPC等のデジタルツールの使用は大いに推奨。ペアおよびグループ・ワークを行うので、履修者には積極的な授業貢献・参加を望む。												

学 科 目 名	英 語 (TOEIC) (2年Aコース)				単位数		1単位		
	English				教員名 メールアドレス		納富 未世		
	学習・教育目標：F (◎)								
履修年次・学期	F科	2 年	前期 必	M科	2 年	前期 必	S科	2 年	前期 必
	A科	2 年	前期 必	D科	2 年	前期 必			
質 問 受 付	講義終了後、教室にて随時。								
授 業 概 要									
この授業では、実生活で役立つ表現を取り入れたTOEICのリスニング対策のテキストを使用し、リスニング力と語彙に重点を置いた英語力を養成する。様々なパターンのリスニング問題を解くことによりTOEICハイスコア取得はもとより語彙力及び文法力も含む英語の総合運用能力の増強を目指すことができる。									
授 業 の 目 標									
一般目標：リスニング、文法・語彙の強化を中心に、総合的な英語力の向上を目指す。 行動目標：授業で習得した技能を用いて英文の情報を適切に読み取り、自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようになる。									
回	授 業 計 画 ・ 内 容								
	1 Unit 1, Ceremony, Unit 2 School Life 2 Unit 3, Transportation, Unit 4 Outdoor Activities 3 Unit 5, Weather, Unit 6 Holiday Plans 4 小テスト 5 Unit 7 Resort Area, Unit 8 Directions 6 Unit 9 Job Experience, Unit 10 Summer Sale 7 小テスト 8 Unit 11 Restaurant, Unit 12 Arts & Entertainment 9 Unit 13 Sports Events, Unit 14 Having a Party 10 Unit 15 Health, Unit 16 Christmas 11 小テスト 12 Unit 17 Cleanup, Unit 18 Our Traditions & Customs 13 Unit 19 Examinations, Unit 20 Housing 14 小テスト 15 まとめ 進度により変更の可能性あり。								
キーワード									
教科書 参考書	教科書：『PRACTICAL SITUATIONS FOR THE TOEIC TEST LISTENING』吉田 佳代 他著 成美堂 2020年								
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験（70%），小テスト(30%)で総合的に判定する。 評価基準：試験、小テスト等によって目標の理解度、達成度を評価する。授業への積極的な姿勢等を学習意欲の高さとして評価する。								
関連科目	英語セミナー								
履修要件	なし								
教 育 方 法 ・ そ の 他									
辞書を持参し、必ず予習をしておくこと。対話型講義を心がけ、受講者の知的好奇心を刺激し、意欲をもって授業に参加できるよう努力する。英語が苦手で勉強の仕方がわからない等の心配がある人はいつでも相談にきて頂きたい。									

学 科 目 名	英 語 (TOEIC) (2年Dコース)				単位数		1単位					
	English				教員名 メールアドレス		臺丸谷美幸 7797@fishusimo01.onmicrosoft.com					
	学習・教育到達目標：F (◎)											
履修年次・学期	F 科	2年	後期	必	M 科	2年	後期	必	S 科	2年	後期	必
	A 科	2年	後期	必	D 科	2年	後期	必				
質 問 受 付	随時 (面談は事前にアポイントを取ること) 3 学科共用実験棟教員研究室(215)											
授 業 概 要												
TOEIC®L&Rテスト形式に特化した教科書を用いて、リーディング、リスニングを中心にライティング、スピーキングの4技能を鍛え、総合的な英語力向上を図る授業。												
授 業 の 目 標												
一般目標：TOEIC®L&Rテストの形式に慣れ、リーディング、リスニングを中心に総合的な英語力の向上を目指す。大学1年生までに習得した基礎を強化、応用力を身に着ける。 行動目標：受講者は授業で習得した英語の技能を用いて、英語で的確に情報を読み取り、自らの考えを口頭や記述で表現することができるようにする。教材を通してTOEIC®L&Rテストの出題形式に慣れる。												
回	授 業 計 画 ・ 内 容											
	1 授業ガイダンス。教科書Unit1一部の解説を行い、演習問題を解く。 2 Unit 1&2の解説を行い、演習問題を解く。 3 Unit 3の解説を行い、演習問題を解く。 4 Unit 4の解説を行い、演習問題を解く。 5 Unit 5の解説を行い、演習問題を解く。 6 Unit 6の解説を行い、演習問題を解く。 7 Unit 7の解説を行い、演習問題を解く。 8 Unit 8の解説を行い、演習問題を解く。 9 Unit 9の解説を行い、演習問題を解く。 10 Unit 10の解説を行い、演習問題を解く。 11 Unit 11の解説を行い、演習問題を解く。 12 Unit 12の解説を行い、演習問題を解く。 13 Unit 13の解説を行い、演習問題を解く。 14 Unit 14の解説を行い、演習問題を解く。 15 リスニングテスト実施、Unit 13の解説を行い、演習問題を解く。											
キーワード	TOEIC® L&R、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング、文法、語彙											
教科書 参考書	教科書：『ILLUMINATING THE PATH TO THE TOEIC L&R® TEST 新・重点特化型 TOEIC® L&Rテスト実力養成』(植木美千子他 著、金星堂)、他プリントを配布する。 参考書：授業中に紹介する。											
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験(50%)、リスニングテスト(30%) Check linkを使用した授業毎の提出課題(10%)、単語テスト(10%)とし、総合的に判断する。 評価基準：期末試験、提出課題および小テスト等によって授業目標についての理解度、達成度を評価する。評価項目のうち一つでも合格基準を満たしていない項目があると不合格となる場合がある。											
関連科目	英語セミナー											
履修要件	なし											
教 育 方 法 ・ そ の 他												
毎回、英和辞書(紙または電子、携帯アプリは不可)を持参すること。頭をフル回転させて潜在的な英語の能力を最大限引き出すことを目標とするため、授業中のパソコン、スマートフォンの使用は不可。予習復習でのPC等のデジタルツールの使用は大いに推奨。ペアおよびグループ・ワークを行うので、履修者には積極的な授業貢献・参加を望む。												

学 科 目 名	英 語 (TOEIC) (2年 Cコース)				単位数	1単位		
	English				教員名 メールアドレス	猪熊慶祐 kei.inkm@fish-u.ac.jp		
	学習・教育目標 : F (◎)							
履修年次・学期	F科	2年 後期 必		M科	2年 後期 必		S科	2年 後期 必
	A科	2年 後期 必		D科	2年 後期 必			
質 問 受 付	随時 (面談は事前にアポイントを取る) 三学科共用実験棟2F (205)							
授 業 概 要								
TOEIC® L&Rに特化したテキストを用いてリーディング、リスニングを中心に総合的な英語力向上を図る授業。								
授 業 の 目 標								
一般目標 : TOEIC® L&Rの形式に慣れリーディング、リスニングを中心に総合的な英語力向上を目指す。一年次までに習得した英語力を強化し、応用力を身に付ける。								
行動目標 : 授業で習得した技能を用いて英語で的確に情報を読み取り、自らの考えを口頭や記述で表現することができるようにする。教材を通してTOEIC® L&Rの形式に慣れる。								
回	授 業 計 画 ・ 内 容							
1	イントロダクション・授業ガイダンス。							
2	Unit 1の解説を行い、演習問題を解く。							
3	Unit 2の解説を行い、演習問題を解く。							
4	Unit 3の解説を行い、演習問題を解く。							
5	Unit 4の解説を行い、演習問題を解く。							
6	Unit 5の解説を行い、演習問題を解く。							
7	Unit 6の解説を行い、演習問題を解く。							
8	Unit 7の解説を行い、演習問題を解く。							
9	Unit 8の解説を行い、演習問題を解く。							
10	Unit 9の解説を行い、演習問題を解く。							
11	Unit 10の解説を行い、演習問題を解く。							
12	Unit 11の解説を行い、演習問題を解く。							
13	Unit 12の解説を行い、演習問題を解く。							
14	Unit 13の解説を行い、演習問題を解く。							
15	Unit 14の解説を行い、演習問題を解く。							
キーワード	TOEIC® L&R、リーディング、リスニング、文法、語彙							
教科書 参考書	教科書 : ILLUMINATING THE PATH TO THE TOEIC L&R® TEST (植木美千子 / Brent Cotsworth / 山岡浩一 / 竹内理 著、金星堂) 参考書 : 授業中に紹介する。							
評価方法 評価基準	評価方法 : 期末試験50%、課題30%、単語テスト20%とし、総合的に判断する。 評価基準 : 期末試験、課題、小テスト等にとって授業目標についての理解度、達成度を評価する。							
関連科目	英語セミナー							
履修要件	なし							
教 育 方 法 ・ そ の 他								
毎回、英和辞書 (紙製か電子辞書) を授業に持参すること。授業中は頭をフル回転させて潜在的な英語の能力を最大限引き出すことを重視するため、パソコン、スマートフォンの使用は不可とする。予習復習でのPC等のデジタルツールは大いに推奨。履修者は積極的に授業に貢献することが求められる。								

学 科 目 名	英 語 (読解) English				単位数	1単位		
	学習・教育到達目標：F (◎)				教員名 メールアドレス	納富末世		
履修年次・学期	F 科	3 年 前期 必		M 科			S 科	
	A 科			D 科				
質 問 受 付	講義終了後、教室にて随時。							
授 業 概 要								
1890年(明治23年)に来日したラフカディオ・ハーン(Lafcadio Hearn, 1850-1904)は日本の様々な事物に熱烈な興味を持ったが、とりわけ幽霊や妖怪といった霊的な存在に対して深い愛着を示した。その思いが込められている代表作『怪談』におさめられた作品のいくつかを読み、英文を読む楽しさを体感しながら読解力を中心に総合的な英語力を養成する。								
授 業 の 目 標								
一般目標：読解力、文法力を養う。音読により英語のリズムを習得する。語彙力の増強を目指す。 行動目標：構文を理解することで英文の構造をつかんで読めるようになると同時に、学んだ構文を使って英文を作る、英語を話す際に応用できるようになる。英語の力を向上させると同時に異文化理解に必要な知識も身につくことで英語でのコミュニケーションをより楽しめるようになる。								
回	授 業 計 画 ・ 内 容							
1	INTRODUCTION							
2	The Story of Mimi-Nashi-Hoichi							
3	The Story of Mimi-Nashi-Hoichi							
4	The Story of Mimi-Nashi-Hoichi							
5	The Story of Mimi-Nashi-Hoichi							
6	The Story of Mimi-Nashi-Hoichi							
7	The Story of Mimi-Nashi-Hoichi, レポート							
8	Oshidori, レポート							
9	The Story of O-Tei							
10	The Story of O-Tei							
11	The Story of O-Tei, レポート							
12	Diplomacy							
13	Diplomacy, レポート							
14	Mujina, レポート							
15	まとめ							
	進度によって変更あり。							
キーワード								
教科書 参考書	教科書：KWAIDAN 『怪談』 (Lafcadio Hearn 小泉八雲、杉 安太郎 成美堂 2008年)							
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験 (60%) , レポート(40%)で総合的に判定する。 評価基準：試験、レポート等によって目標の理解度, 達成度を評価する。授業への積極的な姿勢等を学習意欲の高さとして評価する。							
関連科目	英語セミナー							
履修要件	なし							
教 育 方 法 ・ そ の 他								
辞書を持参し、必ず予習をしておくこと。対話型講義を心がけ、受講者の知的好奇心を刺激し、意欲をもって授業に参加できるよう努力する。英語が苦手な勉強の仕方がわからない等の心配がある人はいつでも相談にきて頂きたい。								

学 科 目 名	英 語 (読解) English			単位数	1単位	
	学習・教育目標：F (◎)			教員名 メールアドレス	下條かおり (非常勤講師)	
履修年次・学期	F 科		M科		S 科	
	A 科		D 科	3年 後期 必		
質 問 受 付	随時 (面談は事前にアポイントを取ること)					
授 業 概 要						
時事英語テキストを学習することによって、音読、語彙、文法、構造をつかむ能力を修得する。						
授 業 の 目 標						
一般目標：リーディング、文法・語彙の強化を中心に、総合的な英語力の向上を目指す。 行動目標：授業で習得した技能を用いて、英文の情報を適切に読み取り、自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
	1 Chapter 01 Hug a Seal, Begin to Heal 2 Chapter 02 Inheriting Traditional Sounds 3 Chapter 03 Used Home Appliances Gaining Popularity 4 Chapter 04 The Ideal Solid Fuel 5 Chapter 05 Dress Codes to Promote Gender Equality 6 Chapter 06 Do You Dare Take the “Train to Apocalypse”? 7 Chapter 07 Island Doctor Saves the Day 8 Chapter 08 Changing Flavor with Magic 9 Chapter 09 Rethinking Our Relationship with Animals in Captivity 10 Chapter 10 Movie House Turned Club House 11 Chapter 11 Rice Is Out, Vegetables Are In 12 Chapter 12 Finding a Home Away from Home 13 Chapter 13 Lessons Learned from a Chatbot 14 Chapter 14 Food Opens a Gateway to Cultural Diversity 15 Chapter 15 Competing for Cutting-Edge Robot Technology					
キーワード	音読、語彙、構造					
教科書 参考書	教科書：Insights 2024 (村尾純子ほか著、金星堂、2024) 参考書：特になし					
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験 (70%)、小テスト (30%) で総合的に判定する。 評価基準：試験、小テストについては、授業目標についての理解度、達成度を評価する。					
関連科目	英語セミナー					
履修要件	なし					
教 育 方 法 ・ そ の 他						
質問がある場合は、授業中に聞くこと						

学 科 目 名	英 語 (読解) English			単位数	1単位	
				教員名 メールアドレス	下條かおり (非常勤講師)	
	学習・教育目標：F (◎)					
履修年次・学期	F 科		M科		S 科	3年 後期 必
	A 科		D科			
質 問 受 付	随時 (面談は事前にアポイントを取ること)					
授 業 概 要						
時事英語テキストを学習することによって、音読、語彙、文法、構造をつかむ能力を修得する。						
授 業 の 目 標						
一般目標：リーディング、文法・語彙の強化を中心に、総合的な英語力の向上を目指す。 行動目標：授業で習得した技能を用いて、英文の情報を適切に読み取り、自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
	1 Chapter 01 Hug a Seal, Begin to Heal 2 Chapter 02 Inheriting Traditional Sounds 3 Chapter 03 Used Home Appliances Gaining Popularity 4 Chapter 04 The Ideal Solid Fuel 5 Chapter 05 Dress Codes to Promote Gender Equality 6 Chapter 06 Do You Dare Take the “Train to Apocalypse”? 7 Chapter 07 Island Doctor Saves the Day 8 Chapter 08 Changing Flavor with Magic 9 Chapter 09 Rethinking Our Relationship with Animals in Captivity 10 Chapter 10 Movie House Turned Club House 11 Chapter 11 Rice Is Out, Vegetables Are In 12 Chapter 12 Finding a Home Away from Home 13 Chapter 13 Lessons Learned from a Chatbot 14 Chapter 14 Food Opens a Gateway to Cultural Diversity 15 Chapter 15 Competing for Cutting-Edge Robot Technology					
キーワード	音読、語彙、構造					
教科書 参考書	教科書：Insights 2024 (村尾純子ほか著、金星堂、2024) 参考書：特になし					
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験 (70%)、小テスト (30%) で総合的に判定する。 評価基準：試験、小テストについては、授業目標についての理解度、達成度を評価する。					
関連科目	英語セミナー					
履修要件	なし					
教 育 方 法 ・ そ の 他						
質問がある場合は、授業中に聞くこと						

学 科 目 名	英 語 (読解) English				単位数	1単位	
					教員名 メールアドレス	下條かおり (非常勤講師)	
	学習・教育目標：F (◎)						
履修年次・学期	F 科		M科	3年	前期 必	S 科	
	A 科		D科				
質 問 受 付	随時 (面談は事前にアポイントを取ること)						
授 業 概 要							
時事英語テキストを学習することによって、音読、語彙、文法、構造をつかむ能力を修得する。							
授 業 の 目 標							
一般目標：リーディング、文法・語彙の強化を中心に、総合的な英語力の向上を目指す。 行動目標：授業で習得した技能を用いて、英文の情報を適切に読み取り、自らの考えを口頭や記述において英語で表現することができるようにする。							
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
	1 Chapter 01 Hug a Seal, Begin to Heal 2 Chapter 02 Inheriting Traditional Sounds 3 Chapter 03 Used Home Appliances Gaining Popularity 4 Chapter 04 The Ideal Solid Fuel 5 Chapter 05 Dress Codes to Promote Gender Equality 6 Chapter 06 Do You Dare Take the “Train to Apocalypse”? 7 Chapter 07 Island Doctor Saves the Day 8 Chapter 08 Changing Flavor with Magic 9 Chapter 09 Rethinking Our Relationship with Animals in Captivity 10 Chapter 10 Movie House Turned Club House 11 Chapter 11 Rice Is Out, Vegetables Are In 12 Chapter 12 Finding a Home Away from Home 13 Chapter 13 Lessons Learned from a Chatbot 14 Chapter 14 Food Opens a Gateway to Cultural Diversity 15 Chapter 15 Competing for Cutting-Edge Robot Technology						
キーワード	音読、語彙、構造						
教科書 参考書	教科書：Insights 2024 (村尾純子ほか著、金星堂、2024) 参考書：特になし						
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験 (70%)、小テスト (30%) で総合的に判定する。 評価基準：試験、小テストについては、授業目標についての理解度、達成度を評価する。						
関連科目	英語セミナー						
履修要件	なし						
教 育 方 法 ・ そ の 他							
質問がある場合は、授業中に聞くこと							

学 科 目 名	英 語(英会話) English Conversation		単位数	1 単位	
			教員名 メールアドレス	Frank Bailey(非常勤講師) furanku2@yahoo.com	
	学習・教育到達目標 : F (◎)				
履修年次・学期	F科		M科		S科
	A科	3年 前期 必	D科	3年 前期 必	3年 前期 必
質問受付時間	授業時間の前後				
授 業 概 要					
This class will be a mixture of spoken and written English. We will use <u>World Voices 1</u> . 40% of the course grade is based on exams. 60% is based on attendance, participation and weekly homework. Students will write a weekly journal with a group in the class to get practice in real communication. Also, each week, students will begin class by talking about their weekend activities.					
授 業 の 目 標					
【General goal】 This class will give students a chance to express themselves naturally, in a comfortable environment.					
【Specific goal】 Students will learn general vocabulary, and improve their listening and pronunciation.					
回	授 業 計 画 ・ 内 容				
1	Course introduction				
2	Unit 1: Names, meeting new people, personal information				
3	Unit 1: Names, meeting new people, personal information				
4	Unit 2: Your home				
5	Unit 2: Your home				
6	Unit 1-2 Quiz Unit 3 Your daily Life				
7	Unit 3: Your daily Life				
8	Unit 4: Your neighborhood				
9	Unit 4: Your neighborhood				
10	Unit 3-4 Quiz				
11	Unit 5: Your work				
12	Unit 5: Your work				
13	Unit 6: Your free time				
14	Unit 6: Your free time				
15	Semester review				
キーワード	English conversation, oral communication, general English				
教科書	World Voices 1 English as a Lingua Franca ISBN: 978-1-78547-067-7				
評価方法 評価基準	Evaluation elements: Tests (2 unit tests and final exam) 40% (10%, 10% and 20%) Homework and Peer journal 20% In-class speaking/conversation tasks 40% Evaluation basis: achievement, in-class speaking/conversation tasks, homework				
関連科目	英語セミナー				
履修要件	なし				
教 育 方 法 ・ そ の 他					
Weekly homework: 1) Online journals 2) Homework assignments					
必ず前もって教科書を購入すること。他人の教科書を譲り受けたり、貸し借りすることを堅く禁ずる。担当教員の変更に伴い、教科書・内容の変更もあり得るが、その場合は前もって掲示等により周知する。					

学 科 目 名	英 語 (読解) English				単位数	1単位	
	学習・教育到達目標：F (◎)				教員名 メールアドレス	納富末世	
履修年次・学期	F 科		M 科		S 科		
	A 科	3 年 後期 必	D 科				
質 問 受 付	講義終了後, 教室にて随時。						
授 業 概 要							
1890年(明治23年)に来日したラフカディオ・ハーン(Lafcadio Hearn, 1850-1904)は日本の様々な事物に熱烈な興味を持ったが, とりわけ幽霊や妖怪といった霊的な存在に対して深い愛着を示した。その思いが込められている代表作『怪談』におさめられた作品のいくつかを読み, 英文を読む楽しさを体感しながら読解力を中心に総合的な英語力を養成する。							
授 業 の 目 標							
一般目標：読解力, 文法力を養う。音読により英語のリズムを習得する。語彙力の増強を目指す。 行動目標：構文を理解することで英文の構造をつかんで読めるようになると同時に, 学んだ構文を使って英文を作る, 英語を話す際に応用できるようになる。							
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	INTRODUCTION						
2	YUKI-ONNA						
3	YUKI-ONNA						
4	YUKI-ONNA						
5	YUKI-ONNA						
6	YUKI-ONNA, レポート						
7	FURISODE, レポート						
8	THE SCREEN-MAIDEN						
9	THE SCREEN-MAIDEN, レポート						
10	THE MIRROR MAIDEN						
11	THE MIRROR MAIDEN						
12	THE MIRROR MAIDEN						
13	THE MIRROR MAIDEN						
14	THE MIRROR MAIDEN						
15	まとめ						
	進度によって変更あり。						
キーワード							
教科書 参考書	教科書：『古い日本の美しい物語』（Lafcadio Hearn 小泉八雲, 緑川伝作, 朝日出版社, 2006）						
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験（60%）, レポート(40%)で総合的に判定する。 評価基準：試験, レポート等によって目標の理解度, 達成度を評価する。授業への積極的な姿勢等を学習意欲の高さとして評価する。						
関連科目	英語セミナー						
履修要件	なし						
教 育 方 法 ・ そ の 他							
辞書を持参し, 必ず予習をしておくこと。対話型講義を心がけ, 受講者の知的好奇心を刺激し, 意欲をもって授業に参加できるよう努力する。英語が苦手な勉強の仕方がわからない等の心配がある人はいつでも相談にきて頂きたい。							

学 科 目 名	英 語(英会話) English				単位数	1単位		
	学習・教育到達目標：F (◎)				教員名 メールアドレス	臺丸谷美幸 7797@fishusimo01.onmicrosoft.com		
履修年次・学期	F科				M科			
	A科	3年 前期 必			D科	3年 前期 必		
質 問 受 付	Anytime but requires an appointment by e-mail before you visit my office. Instructor's office: Department Hall 1 2F-215							
授 業 概 要								
This class will be mainly focused on spoken and written English. We use the comprehensive textbook to practice speaking (includes role-playing-activities for usual life), listening, writing, and reading. Students are required to write a short essay at the end of the term. Details of the final exam will be given in class.								
授 業 の 目 標								
【General goal】This class will strengthen students' speaking and writing ability in English as they proceed in their English skills and knowledge from the basic level to the advanced. 【Specific goal】Students will be able to express their ideas using simple but effective English so that they can be active learners.								
回	授 業 計 画 ・ 内 容							
	1 Class guidance and self-introduction (activities). 2 Unit 1: Instruction and activities. 3 Unit 2: Instruction and activities. 4 Unit 2: Instruction and activities. 5 Unit 3: Instruction and activities. 6 Unit 3: Instruction and activities. 7 Unit 4: Instruction and activities. 8 Unit 4: Instruction and activities. 9 Unit 5: Instruction and activities. 10 Unit 5: Instruction and activities. 11 Unit 6: Instruction and activities. 12 Unit 6: Instruction and activities. 13 Unit 7: Instruction and activities. 14 Essay Writing①: special lecture and writing activities. 15 Essay Writing②: special lecture and writing activities.							
キーワード	Speaking, Listening, Essay Writing, and Reading							
教科書 参考書	Text book: 『5 th edition Headway Beginner』 (Beginner A1 Student's Book) Liz and John Soars, 著, Oxford) Instructor will also distribute printed materials for essay writing, conversation practices, etc. Study-aid books: Instructor will inform you in class.							
評価方法 評価基準	Grade breakdown: Final exam-50%, Essay writing-30%, Class activities-20%. Evaluation criteria: Comprehensive evaluation from final exam, essay writing, mini-word quiz, student performances in pair and group work, etc.							
関連科目	English Seminar							
履修要件	None							
教 育 方 法 ・ そ の 他								
Read the textbook before you attend the class and attempt to complete the questionnaire in advance. Make clear which parts you couldn't understand by yourself before attending the class. Bring a paper or electric dictionary. Don't use a PC or a smartphone application dictionary in class, but I recommend using any digital devices you find useful for your self-study at home. They will help you study in a variety of ways. Let's continue and enjoy English learning!								

学 科 目 名	英 語 (英会話)		単位数	1 単位	
	English Conversation		教員名 メールアドレス	Roderick van Huis (非常勤講師)	
	学習・教育到達目標 : F (◎)			vanhuis1@gmail.com	
履修年次・学期	F 科		M 科		S 科 3 年 前期 必
	A 科	3 年 前期 必	D 科	3 年 前期 必	
質問受付時間	授業時間の前後				
授 業 概 要					
This class will focus on spoken English from everyday life. We will use the <u>American Headway 2B</u> textbook. Each unit will last four weeks, and will conclude with a unit test. Specific units have be chosen based on students' abilities and wishes. Two or three times per semester, each student will also research a Katakana English expression and present it to the class. Also, each week, students will begin class by talking about their weekend activities.					
授 業 の 目 標					
【General goal】 This class will build on the English the students have already learned, and will also introduce new language.					
【Specific goal】 Students will learn to communicate in English in everyday situations.					
回	授 業 計 画 ・ 内 容				
1	Course introduction				
2	Unit 7 (Living History): Introduction				
3	Unit 7: Part 2				
4	Unit 7: Part 3				
5	Unit 7: U7 review and test				
6	Unit 10 (Our Interactive World): Introduction				
7	Unit 10: Part 2				
8	Unit 10: Part 3				
9	Unit 10: Part 4				
10	Unit 10: U10 review and test				
11	Unit 12 (Just Wondering...): Introduction				
12	Unit 12: Part 2				
13	Unit 12: Part 3				
14	Unit 12: U12 review and test				
15	Review for final exam				
キーワード	English conversation, oral communication, general English				
教科書	American Headway 3rd Edition Level 2 Multipack B with Online Skills and iChecker ISBN-13: 9780194725958				
評価方法 評価基準	Final exam 40% Unit tests 30% (10% x 3) Participation and diligence 20% Katakana English presentations 10% (2 x 5%) Evaluation basis: achievement, aptitude, participation				
関連科目	英語セミナー				
履修要件	なし				
教 育 方 法 ・ そ の 他					
必ず前もって教科書を購入すること。他人の教科書を譲り受けたり、貸し借りすることを強く禁ずる。担当教員の変更に伴い、教科書・内容の変更もあり得るが、その場合は前もって掲示等により周知する。					

学 科 目 名	英 語 (英会話)				単位数	1 単位	
	English Conversation				教員名 メールアドレス	Roderick van Huis (非常勤講師) vanhuis1@gmail.com	
	学習・教育到達目標 : F (◎)						
履修年次・学期	F科	3年 後期 必	M科	3年 後期 必	S科		
	A科		D科				
質問受付時間	授業時間の前後						
授 業 概 要							
This class will focus on spoken English from everyday life. We will use the <u>American Headway 2B</u> textbook. Each unit will last four weeks, and will conclude with a unit test. Specific units have been chosen based on students' abilities and wishes. Two or three times per semester, each student will also research a Katakana English expression and present it to the class. Also, each week, students will begin class by talking about their weekend activities.							
授 業 の 目 標							
【General goal】 This class will build on the English the students have already learned, and will also introduce new language.							
【Specific goal】 Students will learn to communicate in English in everyday situations.							
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	Course introduction						
2	Unit 7 (Living History): Introduction						
3	Unit 7: Part 2						
4	Unit 7: Part 3						
5	Unit 7: U7 review and test						
6	Unit 10 (Our Interactive World): Introduction						
7	Unit 10: Part 2						
8	Unit 10: Part 3						
9	Unit 10: Part 4						
10	Unit 10: U10 review and test						
11	Unit 12 (Just Wondering...): Introduction						
12	Unit 12: Part 2						
13	Unit 12: Part 3						
14	Unit 12: U12 review and test						
15	Review for final exam						
キーワード	English conversation, oral communication, general English						
教科書	American Headway 3rd Edition Level 2 Multipack B with Online Skills and iChecker ISBN-13: 9780194725958						
評価方法 評価基準	Final exam 40% Unit tests 30% (10% x 3) Participation and diligence 20% Katakana English presentations 10% (2 x 5%) Evaluation basis: achievement, aptitude, participation						
関連科目	英語セミナー						
履修要件	なし						
教 育 方 法 ・ そ の 他							
必ず前もって教科書を購入すること。他人の教科書を譲り受けたり、貸し借りすることを強く禁ずる。担当教員の変更に伴い、教科書・内容の変更もあり得るが、その場合は前もって掲示等により周知する。							

学 科 目 名	英 語(英会話) English Conversation			単位数	1 単位	
				教員名 メールアドレス	Frank Bailey(非常勤講師) furanku2@yahoo.com	
	学習・教育到達目標 : F (◎)					
履修年次・学期	F 科	3 年 後期 必	M 科	3 年 後期 必	S 科	
	A 科		D 科			
質問受付時間	授業時間の前後					
授 業 概 要						
This class will be a mixture of spoken and written English. We will use <u>World Voices 1</u> 40% of the course grade is based on exams. 60% is based on attendance, participation and weekly homework. Students will write a weekly journal with a group in the class to get practice in real communication. Also, each week, students will begin class by talking about their weekend activities.						
授 業 の 目 標						
【General goal】 This class will give students a chance to express themselves naturally, in a comfortable environment.						
【Specific goal】 Students will learn general vocabulary, and improve their listening and pronunciation.						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
1	Course introduction					
2	Unit 1: Names, meeting new people, personal information					
3	Unit 1: Names, meeting new people, personal information					
4	Unit 2: Your home					
5	Unit 2: Your home					
6	Unit 1-2 Quiz Unit 3 Your daily Life					
7	Unit 3: Your daily Life					
8	Unit 4: Your neighborhood					
9	Unit 4: Your neighborhood					
10	Unit 3-4 Quiz					
11	Unit 5: Your work					
12	Unit 5: Your work					
13	Unit 6: Your free time					
14	Unit 6: Your free time					
15	Semester review					
キーワード	English conversation, oral communication, general English					
教科書	World Voices 1 English as a Lingua Franca ISBN: 978-1-78547-067-7					
評価方法 評価基準	Evaluation elements: Tests (2 unit tests and final exam) 40% (10%, 10% and 20%) Homework and Peer journal 20% In-class speaking/conversation tasks 40% Evaluation basis: achievement, in-class speaking/conversation tasks, homework					
関連科目	英語セミナー					
履修要件	なし					
教 育 方 法 ・ そ の 他						
Weekly homework: 1) Online journals 2) Homework assignments						
必ず前もって教科書を購入すること。他人の教科書を譲り受けたり、貸し借りすることを強く禁ずる。担当教員の変更に伴い、教科書・内容の変更もあり得るが、その場合は前もって掲示等により周知する。						

学 科 目 名	フランス語(1年前期)				単位数		1 単位	
	French language				教員名		加藤 一輝	
	学習・教育到達目標：F (◎)				メールアドレス			
履修年次・学期	F 科	1 年	前期	選	M 科	1 年	前期	選
	A 科	1 年	前期	選	D 科	1 年	前期	選
質 問 受 付	三学科共用実験棟2階 室番号209							
授 業 概 要								
フランスはカトリック国としてキリスト教文化を色濃く保持していながら、フランス革命によって近代の口火を切った理性の国を自負している。また、フランス語はフランス以外にも他のヨーロッパ諸国やカナダ、アフリカなどで使用されており、かつてヨーロッパの外交語であったため現在も英語に次ぐ国際語となっている。フランス語を学ぶことで、英語圏から見たのとは違う世界を知る契機とする。								
授 業 の 目 標								
一般目標：フランス語の綴り字と発音に慣れた上で、基礎的な文法事項を学ぶことでフランス語の考えかたを理解する。								
行動目標：フランス語の発音の特徴、名詞の性と数、動詞の活用、というフランス語に独特の規則を、確実に習得する。								
回	授 業 計 画 ・ 内 容							
	1 ガイダンスおよびフランス語についての概説							
	2 綴りと発音の規則							
	3 性数による変化／冠詞							
	4 人称代名詞／êtreとavoirの活用							
	5 否定文の作りかた／形容詞							
	6 第一群規則動詞の活用／疑問文の作りかた							
	7 指示形容詞、所有形容詞、疑問形容詞							
	8 近接未来 (aller) 近接過去 (venir de)							
	9 第二群規則動詞の活用／疑問文の作りかた							
	10 voir・dire・entendreの活用							
	11 形容詞・副詞の比較級・最上級							
	12 命令法／法という概念							
	13 非人称構文							
	14 目的格人称代名詞							
	15 会話表現 (あいさつ・自己紹介)							
キーワード								
教科書 参考書	教科書：『ル・フランセ・クレール [三訂版] 』、清岡智比古、白水社、2021年 参考書：仏和辞書を用意すること。電子辞書でもよい。進度や必要に応じて資料をプリントで配布する。							
評価方法 評価基準	評価方法：小テストや課題による出席点 (40%) と期末試験 (60%) による。 評価基準：小テストや課題と期末試験によって、授業目標の達成度を評価する。							
関連科目	フランス語 (1 年後期)、フランス語 (2 年前期)、フランス語 (2 年後期)							
履修要件	特になし							
教 育 方 法 ・ そ の 他								
教科書に附録の音声資料を用い、発音練習を交えながら文法事項を解説する。各回の学習内容を踏まえた課題によって、確固たる学習の積み上げを図る。								

学 科 目 名	英 語 (英会話) English				単位数	1単位	
	学習・教育目標：F (◎)				教員名 メールアドレス	猪熊 慶祐 kei.inkm@fish-u.ac.jp	
	履修年次・学期	F科	3年 後期 必	M科	3年 後期 必	S科	
質 問 受 付	Anytime but By Appointment Only. 三学科共用実験棟2F (205)						
授 業 概 要							
This course focuses on improving English conversation ability through roleplaying, grammar practice, and so on. Students required to commit pair/group activities (including roleplaying). The class is mainly conducted in English. Students are required to make a presentation and write a short essay.							
授 業 の 目 標							
General Goal:This class improves the student's English speaking ability form basic level to t he advanced by practicing conversation and acquiring knowledge. Specific Goal :Students can express their opinions using simple English vocabulary to be acti ve learners.							
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	Introduction (some activity)						
2	Unit 1 Instruction and Activity (Grammar & Vocabulary)						
3	Unit 2 Instruction and Activity (Grammar & Vocabulary)						
4	Unit 3 Instruction and Activity (Reading & Listening)						
5	Unit 4 Instruction and Activity (Grammar & Vocabulary)						
6	Unit 5 Instruction and Activity (Reading & Listening)						
7	Unit 6 Instruction and Activity (Grammar & Vocabulary)						
8	Unit 7 Instruction and Activity (Reading & Listening)						
9	Unit 8 Instruction and Activity (Grammar & Vocabulary)						
10	Unit 9 Instruction and Activity (Reading & Listening)						
11	Unit 10 Instruction and Activity (Grammar & Vocabulary)						
12	Unit 11 Instruction and Activity (Reading & Listening)						
13	Unit 12 Instruction and Activity (Grammar & Vocabulary)						
14	Lecture and Presentation						
15	Lecture and Presentation						
キーワード							
教科書 参考書	教科書：Global Activator Your English, My English, World Englishes!(塩澤正、Grego ry A. King 金星堂) 参考書：Inform in Class						
評価方法 評価基準	評価方法：Final Exam 50%, Presentation (including a short essay) 30%, Quiz 20% 評価基準：Comprehensive Evaluation from Final Exam, Essay, Quiz, Pair/Group work performance, etc.						
関連科目	English Seminar						
履修要件	なし						
教 育 方 法 ・ そ の 他							
Read the textbook and answer the questions in advance. Make clear what you could not understa nd before the class. Use a paper or electric dictionary. Make sure that PC, smartphone, and other apps are not allowed in class. Acquiring English ability is like bodybuilding; it is ha rd to realize your progress but you can make it definitely.							

学 科 目 名	フランス語(2年前期)					単位数	1 単位	
	French language					教員名 メールアドレス	加藤 一輝	
	学習・教育到達目標：F (◎)							
履修年次・学期	F 科	2 年	前期	選	M 科	2 年	前期	選
	A 科	2 年	前期	選	D 科	2 年	前期	選
質 問 受 付	三学科共用実験棟2階 室番号209							
授 業 概 要								
フランスはカトリック国としてキリスト教文化を色濃く保持していながら、フランス革命によって近代の口火を切った理性の国を自負している。また、フランス語はフランス以外にも他のヨーロッパ諸国やカナダ、アフリカなどで使用されており、かつてヨーロッパの外交語であったため現在も英語に次ぐ国際語となっている。フランス語を学ぶことで、英語圏から見たのとは違う世界を知る契機とする。								
授 業 の 目 標								
一般目標：文法の知識を確実にし、語彙を増やし、フランス語に独特の表現や思考に慣れる。また、フランスあるいはフランス語圏の文化をフランス語で学ぶ。 行動目標：購読のため予習を前提とする。分からない文章に出逢ったとき、文法書や辞書を引いて理解できるようになる。また、フランスを鏡として、日本の現状について考える契機とする。								
回	授 業 計 画 ・ 内 容							
1	ガイダンスおよびフランス語についての概説							
2	フランスの経済① (受講者のフランス語水準にもよるが、おおよそ2回で							
3	フランスの経済② 教科書の1課を進める。したがって、各回の見出しは							
4	フランスの政治① 教科書に対応している。講読のほか、フランスおよび							
5	フランスの政治② フランス語圏の文化を、映像資料などで紹介する。)							
6	フランスのスポーツ①							
7	フランスのスポーツ②							
8	フランスの食文化①							
9	フランスの食文化②							
10	フランスの絵本①							
11	フランスの絵本②							
12	フランスの情報科学①							
13	フランスの情報科学②							
14	フランスの文学①							
15	フランスの文学②							
キーワード								
教科書 参考書	教科書：『時事フランス語 2024年度版』、石井洋二郎ほか、朝日出版、2024年 参考書：仏和辞書を用意すること。電子辞書でもよい。進度や必要に応じて資料をプリントで配布する。							
評価方法 評価基準	評価方法：小テストや課題による出席点（40％）と期末試験（60％）による。 評価基準：小テストや課題と期末試験によって、授業目標の達成度を評価する。							
関連科目	フランス語（1年前期）、フランス語（1年後期）、フランス語（2年後期）							
履修要件	フランス語（1年前期）、フランス語（1年後期）の単位を取得済みであることが望ましい。							
教 育 方 法 ・ そ の 他								
教科書に附録の音声資料を用い、発音練習を交えながら文法事項を解説する。各回の学習内容を踏まえた課題によって、確固たる学習の積み上げを図る。								

学 科 目 名	フランス語(1年後期)				単位数	1 単位		
	French language				教員名 メールアドレス	加藤 一輝		
	学習・教育到達目標：F (◎)							
履修年次・学期	F 科	1 年	後期	選	M 科	1 年	後期	選
	A 科	1 年	後期	選	D 科	1 年	後期	選
質 問 受 付	三学科共用実験棟2階 室番号209							
授 業 概 要								
フランスはカトリック国としてキリスト教文化を色濃く保持していながら、フランス革命によって近代の口火を切った理性の国を自負している。また、フランス語はフランス以外にも他のヨーロッパ諸国やカナダ、アフリカなどで使用されており、かつてヨーロッパの外交語であったため現在も英語に次ぐ国際語となっている。フランス語を学ぶことで、英語圏から見たのとは違う世界を知る契機とする。								
授 業 の 目 標								
一般目標：フランス語の文章を作るための文法構造を習得する。また、フランス語における法と時制の概念を、確実に理解する。 行動目標：短い文章であれば、構造を把握できるようになる。また、既知の文型を真似て、簡単な文章を作ることができる。								
回	授 業 計 画 ・ 内 容							
	1	先学期の復習						
	2	過去分詞／複合過去						
	3	関係代名詞						
	4	代名動詞						
	5	pouvoir・vouloir・devoirの活用						
	6	直説法単純未来・前未来						
	7	中性代名詞						
	8	直説法半過去・大過去						
	9	受動態						
	10	現在分詞						
	11	直説法のまとめ／法という概念の復習／語彙						
	12	条件法現在						
	13	接続法現在						
	14	ラ・フォンテーヌ寓話「セミとアリ」を読む						
	15	ラ・フォンテーヌ寓話「カラスとキツネ」を読む						
キーワード	フランス語、初級文法、会話表現、コミュニケーション							
教科書 参考書	教科書：『ル・フランセ・クレール [三訂版] 』、清岡智比古、白水社、2021年 参考書：仏和辞書を用意すること。電子辞書でもよい。進度や必要に応じて資料をプリントで配布する。							
評価方法 評価基準	評価方法：小テストや課題による出席点（40％）と期末試験（60％）による。 評価基準：小テストや課題と出席点によって理解度を評価する。							
関連科目	フランス語（1年前期）、フランス語（2年前期）、フランス語（2年後期）							
履修要件	フランス語（1年前期）の単位を取得していることが望ましい。							
教 育 方 法 ・ そ の 他								
教科書に附録の音声資料を用い、発音練習を交えながら文法事項を解説する。各回の学習内容を踏まえた課題によって、確固たる学習の積み上げを図る。								

学 科 目 名	中国語(1年前期)		単位数	1 単位		
	Chinese Language		教員名	王 晨		
	学習・教育到達目標：F (◎)		メールアドレス	asita_osin@yahoo.co.jp		
履修年次・学期	F科	1 年 前期 選	M科	1 年 前期 選	S科	1 年 前期 選
	A科	1 年 前期 選	D科	1 年 前期 選		
質 問 受 付	基本的に授業中に行う。ただし、必要に応じ、インターネットでフィードバックを行う場合もある。					
授 業 概 要						
この授業は、中国語を始めて学習する学生を対象とする。授業は概ねテキストに沿って進める。中国語の発音や初級文法を学習することで初歩的なコミュニケーションを取れるように目指します。また、中国の文化や習慣についても適宜学習し、近隣である中国をより知ることを目的とします。						
授 業 の 目 標						
一般目標：中国語をほぼ正しく発音したり聞き取ることができ、簡体字で正確に記述することができる。初歩的な文法を理解し、日本語訳ができる。また、初歩的な日常会話を聞き取ることができる。 行動目標：自分の生活や状況、自分の考えや感じ方などを、中国語で表現することができるようになる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
1	形容詞述語文を理解し、会話練習を行う。					
2	ポイントを理解し、練習問題を通じて学習成果を確かめる。					
3	特殊な体言述語文を理解し、会話練習を行う。					
4	ポイントを理解し、練習問題を通じて学習成果を確かめる。					
5	総合練習を行う。					
6	引き続き、特殊な体言述語文を理解し、会話練習を行う。					
7	ポイントを理解し、練習問題を通じて学習成果を確かめる。					
8	存在と所有の表現を理解し、会話練習を行う。					
9	ポイントを理解し、練習問題を通じて学習成果を確かめる。					
10	中国文化を学ぶ。					
11	完了の表現を理解し、会話練習を行う。					
12	ポイントを理解し、練習問題を通じて学習成果を確かめる。					
13	能願動詞を理解し、会話練習を行う。					
14	ポイントを理解し、練習問題を通じて学習成果を確かめる。					
15	第1回～第14回までの内容について復習し、総合的な練習をする。					
キーワード	発音、漢字、会話、リスニング					
教科書 参考書	教科書：「やさしい中国語十課」盧益平・黄冬柏著（中国書店） 参考書：なし					
評価方法 評価基準	評価方法：期末テスト50%、平常点（小テストの成績、授業に取り組む態度）50% 評価基準：評価基準：授業目標についての理解度、達成度を基準に評価。					
関連科目	中国語（1年後期）、中国語（2年前期）、中国語（2年後期）					
履修要件	特になし					
教 育 方 法 ・ そ の 他						
中国語の勉強にスマートフォンやパソコンを活かすため、中国語の入力ツールを追加することを望む。						

学 科 目 名	フランス語(2年後期)				単位数	1 単位		
	French language				教員名 メールアドレス	加藤 一輝		
	学習・教育到達目標：F (◎)							
履修年次・学期	F 科	2 年	後期	選	M 科	2 年	後期	選
	A 科	2 年	後期	選	D 科	2 年	後期	選
質 問 受 付	三学科共用実験棟2階 室番号209							
授 業 概 要								
フランスはカトリック国としてキリスト教文化を色濃く保持していながら、フランス革命によって近代の口火を切った理性の国を自負している。また、フランス語はフランス以外にも他のヨーロッパ諸国やカナダ、アフリカなどで使用されており、かつてヨーロッパの外交語であったため現在も英語に次ぐ国際語となっている。フランス語を学ぶことで、英語圏から見たのとは違う世界を知る契機とする。								
授 業 の 目 標								
一般目標：最終的に、フランス語を学ぶ段階から、フランス語で学ぶ段階へと移行できれば望ましい。すなわち、未知の情報についてフランス語で理解できるようになるのが、理想である。 行動目標：購読のため予習を前提とする。分からない文章に出逢ったとき、文法書や辞書を引いて理解できるようになる。また、フランスを鏡として、日本の現状について考える契機とする。								
回	授 業 計 画 ・ 内 容							
1	先学期の復習							
2	フランスの環境問題① (受講者のフランス語水準にもよるが、おおよそ2回で							
3	フランスの環境問題② 教科書の1課を進める。したがって、各回の見出しは							
4	フランスの服飾① 教科書に対応している。講読のほか、フランスおよび							
5	フランスの服飾② フランス語圏の文化を、映像資料などで紹介する。)							
6	フランス語圏アフリカ (セネガル) ①							
7	フランス語圏アフリカ (セネガル) ②							
8	フランス語圏アメリカ (ケベック) ①							
9	フランス語圏アメリカ (ケベック) ②							
10	フランスの音楽①							
11	フランスの音楽②							
12	フランスの医療①							
13	フランスの医療②							
14	フランスの教育①							
15	フランスの教育②							
キーワード								
教科書 参考書	教科書：『時事フランス語 2024年度版』、石井洋二郎ほか、朝日出版、2024年 参考書：仏和辞書を用意すること。電子辞書でもよい。進度や必要に応じて資料をプリントで配布する。							
評価方法 評価基準	評価方法：小テストや課題による出席点 (40%) と期末試験 (60%) による。 評価基準：小テストや課題と期末試験によって、授業目標の達成度を評価する。							
関連科目	フランス語 (1 年前期)、フランス語 (1 年後期)、フランス語 (2 年前期)							
履修要件	フランス語 (1 年前期)、フランス語 (1 年後期)、フランス語 (2 年前期) の単位を取得していることが望ましい。							
教 育 方 法 ・ そ の 他								
教科書に附録の音声資料を用い、発音練習を交えながら文法事項を解説する。各回の学習内容を踏まえた課題によって、確固たる学習の積み上げを図る。								

学 科 目 名	中国語(2年前期)		単位数	1 単位		
	Chinese Language		教員名	王 晨		
	学習・教育到達目標：F (◎)		メールアドレス	asita_osin@yahoo.co.jp		
履修年次・学期	F 科	2 年 前期 選	M 科	2 年 前期 選	S 科	2 年 前期 選
	A 科	2 年 前期 選	D 科	2 年 前期 選		
質 問 受 付	基本的に授業中に行う。ただし、必要に応じ、インターネットでフィードバックを行う場合もある。					
授 業 概 要						
二年目の中国語の学習では、中国と日本異なる文化や習慣に触れながら、バランスよく四技能を伸ばすことに重点を置き、実用性の高い文法や表現を身につける。また、中国文化・風習や中国人の価値観・考え方などを広く深く理解する。						
授 業 の 目 標						
一般目標：文法ポイントと重要表現を理解し、日常生活に関する中級レベルの文章を読解することができる。						
行動目標：文法ポイントと重要表現を正しく使って、日常生活に関する表現や会話など自分の伝えたいことをよりの確に表現できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
1	授業ガイダンス、第一課単語、文型ポイント、練習ドリル					
2	第一課本文読解、会話練習、リスニング					
3	第二課単語、文型ポイント、練習ドリル					
4	第二課本文読解、会話練習、リスニング					
5	第三課単語、文型ポイント、練習ドリル					
6	第三課本文読解、会話練習、リスニング					
7	第四課単語、文型ポイント、練習ドリル					
8	第四課本文読解、会話練習、リスニング					
9	第五課単語、文型ポイント、練習ドリル					
10	第五課本文読解、会話練習、リスニング					
11	第六課単語、文型ポイント、練習ドリル					
12	第六課本文読解、会話練習、リスニング					
13	第七課単語、文型ポイント、練習ドリル					
14	第七課本文読解、会話練習、リスニング					
15	前期まとめ、総合復習					
キーワード	発音、読解、リスニング、異文化					
教科書 参考書	教科書：「ことばと文化 “一挙両得” 中級中国語」陳淑梅 /陸薇著 (朝日出版社) 参考書：なし					
評価方法 評価基準	評価方法：期末テスト50%、平常点（小テストの成績、授業に取り組む態度）50% 評価基準：評価基準： 授業目標についての理解度、達成度を基準に評価。					
関連科目	中国語（1年前期）、中国語（1年後期）、中国語（2年後期）					
履修要件	特になし					
教 育 方 法 ・ そ の 他						
中国語の勉強にスマートフォンやパソコンを活かすため、中国語の入力ツールを追加することを望む。						

学 科 目 名	中国語(1年後期)		単位数	1 単位		
	Chinese Language		教員名 メールアドレス	王 晨 asita_osin@yahoo.co.jp		
	学習・教育到達目標：F (◎)					
履修年次・学期	F 科	1 年 後期 選	M 科	1 年 後期 選	S 科	1 年 後期 選
	A 科	1 年 後期 選	D 科	1 年 後期 選		
質 問 受 付	基本的に授業中に行う。ただし、必要に応じ、インターネットでフィードバックを行う場合もある。					
授 業 概 要						
この授業は、中国語を始めて学習する学生を対象とする。授業は概ねテキストに沿って進める。中国語の発音や初級文法を学習することで初歩的なコミュニケーションを取れるように目指します。また、中国の文化や習慣についても適宜学習し、近隣である中国をより知ることを目的とします。						
授 業 の 目 標						
一般目標：中国語をほぼ正しく発音したり聞き取ることができ、簡体字で正確に記述することができる。初歩的な文法を理解し、日本語訳ができる。また、初歩的な日常会話を聞き取ることができる。						
行動目標：自分の生活や状況、自分の考えや感じ方などを、中国語で表現することができるようになる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
1	形容詞述語文を理解し、会話練習を行う。					
2	ポイントを理解し、練習問題を通じて学習成果を確かめる。					
3	特殊な体言述語文を理解し、会話練習を行う。					
4	ポイントを理解し、練習問題を通じて学習成果を確かめる。					
5	総合練習を行う。					
6	引き続き、特殊な体言述語文を理解し、会話練習を行う。					
7	ポイントを理解し、練習問題を通じて学習成果を確かめる。					
8	存在と所有の表現を理解し、会話練習を行う。					
9	ポイントを理解し、練習問題を通じて学習成果を確かめる。					
10	中国文化を学ぶ。					
11	完了の表現を理解し、会話練習を行う。					
12	ポイントを理解し、練習問題を通じて学習成果を確かめる。					
13	能願動詞を理解し、会話練習を行う。					
14	ポイントを理解し、練習問題を通じて学習成果を確かめる。					
15	第 1 回～第 14 回までの内容について復習し、総合的な練習をする。					
キーワード	発音、漢字、会話、リスニング					
教科書 参考書	教科書：「やさしい中国語十課」盧益平・黄冬柏著 (中国書店) 参考書：なし					
評価方法 評価基準	評価方法：期末テスト50%、平常点（小テストの成績、授業に取り組む態度）50% 評価基準：評価基準： 授業目標についての理解度、達成度を基準に評価。					
関連科目	中国語（1年前期）、中国語（2年前期）、中国語（2年後期）					
履修要件	特になし					
教 育 方 法 ・ そ の 他						
中国語の勉強にスマートフォンやパソコンを活かすため、中国語の入力ツールを追加することを望む。						

学 科 目 名	スペイン語(1年前期)				単位数	1 単位	
	Spanish Language				教員名 メールアドレス	ヘロニモ・トマス・ミニーニョ ・マイヴァルト (非常勤講師) jeronimo.minino@gmail.com	
	学習・教育到達目標：F (◎)						
履修年次・学期	F 科	1 年 前期 選	M 科	1 年 前期 選	S 科	1 年 前期 選	
	A 科	1 年 前期 選	D 科	1 年 前期 選			
質 問 受 付	授業の前後。教室または非常勤講師控室。						
授 業 概 要							
スペイン語講座は、次の3つの異なる観点から、外国語経験を持つ良い機会となるでしょう。 1) 書くことや文法の修得が可能な外国語を学ぶ。 2) コミュニケーションと情報交換のための道具として、また私達人間が自然に習得できる道具としての外国語を学ぶ。 3) 学習を通じて他の国の人々のことを知り、異文化理解の架け橋となる外国語を学ぶ。							
授 業 の 目 標							
一般目標：1) 基本的な語彙の学習 2) スペインやラテンアメリカの文化(習慣・音楽・映画・文学・コミュニケーション手段・環境に関すること)を理解することに重点をおく。 行動目標：スペイン語の基本的な運用ができるようになる。							
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
	(テーマ) … (内容)						
1	『お名前は?』－前置き … 基礎を学びます 自己紹介						
2	『お名前は?』－知識を深める … 文法、単語をより深く学びます アルファベット、スペル、 名詞 "ser", "llamarse", "qué", "quién", "un"						
3	『お名前は?』－練習 … 聞く、読む、話す、書く練習をします						
4	『仕事は何ですか?』－前置き … 基礎を学びます 職業について						
5	『仕事は何ですか?』－知識を深める … 文法、単語をより深く学びます 名詞、 インターネットの掲示板とチャット "de"						
6	『仕事は何ですか?』－練習 … 聞く、読む、話す、書く練習をします						
7	『どこから来ましたか?』－前置き … 基礎を学びます 出身と生産国						
8	『どこから来ましたか?』－知識を深める … 文法、単語をより深く学びます 国、都市、地方、 名詞と形容詞 "está", "hay"						
9	『どこから来ましたか?』－練習 … 聞く、読む、話す、書く練習をします						
10	『そこで何ができますか?』－前置き … 基礎を学びます さまざまな活動						
11	『そこで何ができますか?』－知識を深める … 文法、単語をより深く学びます 動詞の原形 と現在形 休暇と週末						
12	『そこで何ができますか?』－練習 … 聞く、読む、話す、書く練習をします						
13	レッスン1～12 読む、書くの復習 … 読む、書くの練習をします						
14	レッスン1～12 聞く、話すの復習 … 聞く、話すの練習をします						
15	試験の準備 … 総復習をします						
キーワード	文法、コミュニケーション、異文化理解、基本的な語彙、言語技術						
教科書 参考書	辞書： どの出版社の辞書でも電子辞書でもよいから「スペイン語－日本語と日本語－スペイン語」辞書を1冊用意すること。例えば次のような辞書がある。高垣敏博『ポケットプロ グレッシブ 西和・和西辞典』小学館、ISBN4-0950-6131-6、定価:3,024 円(税込) スマートフォン搭載型の辞書アプリも可とするが、テスト時の持ち込みは禁止とする。						
評価方法	評価方法： 期末テスト評点 (55%)、予習復習のための宿題と小テスト(45%)で総合的に 評価。						
評価基準	評価基準： 授業目標についての理解度、達成度を基準に評価。						
関連科目	スペイン語 (1年後期)、スペイン語 (2年前期)、スペイン語 (2年後期)						
履修要件	特になし						
教 育 方 法 ・ そ の 他							
毎回、復習を兼ねた簡単な小テストを行う。							

学 科 目 名	中国語(2年後期)		単位数	1 単位		
	Chinese Language		教員名	王 晨		
	学習・教育到達目標：F (◎)		メールアドレス	asita_osin@yahoo.co.jp		
履修年次・学期	F 科	2 年 後期 選	M 科	2 年 後期 選	S 科	2 年 後期 選
	A 科	2 年 後期 選	D 科	2 年 後期 選		
質 問 受 付	基本的に授業中に行う。ただし、必要に応じ、インターネットでフィードバックを行う場合もある。					
授 業 概 要						
二年目の中国語の学習では、中国と日本異なる文化や習慣に触れながら、バランスよく四技能を伸ばすことに重点を置き、実用性の高い文法や表現を身につける。また、中国文化・風習や中国人の価値観・考え方などを広く深く理解する。						
授 業 の 目 標						
一般目標：文法ポイントと重要表現を理解し、日常生活に関する中級レベルの文章を読解することができる。						
行動目標：文法ポイントと重要表現を正しく使って、日常生活に関する表現や会話など自分の伝えたいことをよりの確に表現できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
	1 後期授業ガイダンス、第八課単語、文型ポイント、練習ドリル 2 第八課本文読解、会話練習、リスニング 3 第九課単語、文型ポイント、練習ドリル 4 第九課本文読解、会話練習、リスニング 5 第十課単語、文型ポイント、練習ドリル 6 第十課本文読解、会話練習、リスニング 7 第十一課単語、文型ポイント、練習ドリル 8 第十一課本文読解、会話練習、リスニング 9 第十二課単語、文型ポイント、練習ドリル 10 第十二課本文読解、会話練習、リスニング 11 第十三課単語、文型ポイント、練習ドリル 12 第十三課本文読解、会話練習、リスニング 13 第十四課単語、文型ポイント、練習ドリル 14 第十四課本文読解、会話練習、リスニング 15 後期まとめ、総合復習					
キーワード	発音、読解、リスニング、異文化					
教科書 参考書	教科書：「ことばと文化 “一挙両得” 中級中国語」陳淑梅 /陸薇著 (朝日出版社) 参考書：なし					
評価方法 評価基準	評価方法：期末テスト50%、平常点（小テストの成績、授業に取り組む態度）50% 評価基準：評価基準： 授業目標についての理解度、達成度を基準に評価。					
関連科目	中国語（1年前期）、中国語（1年後期）、中国語（2年前期）					
履修要件	特になし					
教 育 方 法 ・ そ の 他						
中国語の勉強にスマートフォンやパソコンを活かすため、中国語の入力ツールを追加することを望む。						

学 科 目 名	スペイン語(2年前期)			単位数	1 単位	
	Spanish Language			教員名 メールアドレス	ヘロニモ・トマス・ミニーニョ ・マイヴァルト (非常勤講師) jeronimo.minino@gmail.com	
	学習・教育到達目標：F (◎)					
履修年次・学期	F 科	2 年 前期 選	M 科	2 年 前期 選	S 科	2 年 前期 選
	A 科	2 年 前期 選	D 科	2 年 前期 選		
質 問 受 付	授業の前後。教室または非常勤講師控室。					
授 業 概 要						
スペイン語講座は、次の3つの異なる観点から、外国語経験を持つ良い機会となるでしょう。 1) 書くことや文法の修得が可能な外国語を学ぶ。 2) コミュニケーションと情報交換のための道具として、また私達人間が自然に習得できる道具としての外国語を学ぶ。 3) 学習を通じて他の国の人々のことを知り、異文化理解の架け橋となる外国語を学ぶ。						
授 業 の 目 標						
一般目標：1) 基本的な語彙の学習 2) スペインやラテンアメリカの文化 (習慣・音楽・映画・文学・コミュニケーション手段・環境に関する)ことを理解することに重点をおく。 行動目標：スペイン語の基本的な運用ができるようになる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
	(テーマ) … (内容)					
1	『これをください』－前置き … 基礎を学びます 買い物、説明、選択					
2	『これをください』－知識を深める … 文法、単語をより深く学びます 形、サイズ、場所、お店、商品、指示詞、直接目的語、代名詞					
3	『これをください』－練習 … 聞く、読む、話す、書く練習をします					
4	『～したことがありますか?』－前置き … 基礎を学びます 経験					
5	『～したことがありますか?』－知識を深める … 文法、単語をより深く学びます 完了形、未来形					
6	『～したことがありますか?』－練習 … 聞く、読む、話す、書く練習をします					
7	『明日は時間ありますか?』－前置き … 基礎を学びます 約束する					
8	『明日は時間ありますか?』－知識を深める … 文法、単語をより深く学びます 誘う、返事、乗り物					
9	『明日は時間ありますか?』－練習 … 聞く、読む、話す、書く練習をします					
10	『何をしましたか?』－前置き … 基礎を学びます 過去、旅行					
11	『何をしましたか?』－知識を深める … 文法、単語をより深く学びます 点過去、不規則動詞					
12	『何をしましたか?』－練習 … 聞く、読む、話す、書く練習をします					
13	レッスン1～12 読む、書くの復習 … 読む、書くの練習をします					
14	レッスン1～12 聞く、話すの復習 … 聞く、話すの練習をします					
15	試験の準備 … 総復習をします					
キーワード	文法、コミュニケーション、異文化理解、基本的な語彙、言語技術					
教科書 参考書	辞書： どの出版社の辞書でも電子辞書でもよいから「スペイン語－日本語と日本語－スペイン語」辞書を1冊用意すること。例えば次のような辞書がある。高垣敏博『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』小学館、ISBN4-0950-6131-6、定価:3,024 円 (税込) スマートフォン搭載型の辞書アプリも可とするが、テスト時の持ち込みは禁止とする。					
評価方法	評価方法： 期末テスト評点 (55%)、予習復習のための宿題と小テスト(45%)で総合的に評価。					
評価基準	評価基準： 授業目標についての理解度、達成度を基準に評価。					
関連科目	スペイン語 (1 年前期)、スペイン語 (1 年後期)、スペイン語 (2 年後期)					
履修要件	特になし					
教 育 方 法 ・ そ の 他						
毎回、復習を兼ねた簡単な小テストを行う。						

学 科 目 名	スペイン語(1年後期)		単位数	1 単位	ヘロニモ・トマス・ミニーニョ ・マイヴァルト (非常勤講師) jeronimo.minino@gmail.com	
	Spanish Language		教員名 メールアドレス			
	学習・教育到達目標：F (◎)					
履修年次・学期	F 科	1 年 後期 選	M 科	1 年 後期 選	S 科	1 年 後期 選
	A 科	1 年 後期 選	D 科	1 年 後期 選		
質 問 受 付	授業の前後。教室または非常勤講師控室。					
授 業 概 要						
スペイン語講座は、次の3つの異なる観点から、外国語経験を持つ良い機会となるでしょう。 1) 書くことや文法の修得が可能な外国語を学ぶ。 2) コミュニケーションと情報交換のための道具として、また私達人間が自然に習得できる道具としての外国語を学ぶ。 3) 学習を通じて他の国の人々のことを知り、異文化理解の架け橋となる外国語を学ぶ。						
授 業 の 目 標						
一般目標：1) 基本的な語彙の学習 2) スペインやラテンアメリカの文化(習慣・音楽・映画・文学・コミュニケーション手段・環境に関すること)を理解することに重点をおく。 行動目標：スペイン語の基本的な運用ができるようになる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
	(テーマ) … (内容)					
1	『何をしますか?』－前置き … 基礎を学びます 習慣					
2	『何をしますか?』－知識を深める … 文法、単語をより深く学びます 現在形、再帰動詞、月、曜日、時間、回数					
3	『何をしますか?』－練習 … 聞く、読む、話す、書く練習をします					
4	『元気ですか?』－前置き … 基礎を学びます 身体の調子と気分					
5	『元気ですか?』－知識を深める 文法、単語をより深く学びます 葉書、手紙、e-mail “estar”, “tener”					
6	『元気ですか?』－練習 … 聞く、読む、話す、書く練習をします					
7	『～が好きです』－前置き … 基礎を学びます 好み					
8	『～が好きです』－知識を深める … 文法、単語をより深く学びます ～より、一番、色					
9	『～が好きです』－練習 … 聞く、読む、話す、書く練習をします					
10	『レストランで注文をする』－前置き … 基礎を学びます 相談、注文、支払い					
11	『レストランで注文をする』－知識を深める … 文法、単語をより深く学びます レストラン、カフェ、材料、営業時間、間接目的語、代名詞、所有詞					
12	『レストランで注文をする』－練習 … 聞く、読む、話す、書く練習をします					
13	レッスン1～12 読む、書くの復習 … 読む、書くの練習をします					
14	レッスン1～12 聞く、話すの復習 … 聞く、話すの練習をします					
15	試験の準備 … 総復習をします					
キーワード	文法、コミュニケーション、異文化理解、基本的な語彙、言語技術					
教科書 参考書	辞書： どの出版社の辞書でも電子辞書でもよいから「スペイン語－日本語と日本語－スペイン語」辞書を1冊用意すること。例えば次のような辞書がある。高垣敏博『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』小学館、ISBN4-0950-6131-6、定価:3,024 円(税込) スマートフォン搭載型の辞書アプリも可とするが、テスト時の持ち込みは禁止とする。					
評価方法	評価方法： 期末テスト評点(55%)、予習復習のための宿題と小テスト(45%)で総合的に評価。					
評価基準	評価基準： 授業目標についての理解度、達成度を基準に評価。					
関連科目	スペイン語(1年前期)、スペイン語(2年前期)、スペイン語(2年後期)					
履修要件	特になし					
教 育 方 法 ・ そ の 他						
毎回、復習を兼ねた簡単な小テストを行う。						

学 科 目 名	体育理論				単位数	2 単位			
	Theory of Physical Education and Sports				教員名	小竹直樹			
	学習・教育到達目標：G (◎) ,A (○)				メールアドレス	nkotake@fish-u.ac.jp			
履修年次・学期	F 科	1 年 後期 必		M 科	1 年 後期 必		S 科	1 年 後期 必	
	A 科	1 年 後期 必		D 科	1 年 後期 必				
質問受付時間	随時 三学科共用実験棟 2 階 水産流通経営学科 教員研究室（2 1 3）								
授 業 概 要									
身体活動の不足は現代社会の問題である。体育理論では、日常生活において自らの健康を管理する方法を学習する。具体的には、ヒトの身体の仕組み、身体活動の不足が身体へ及ぼす影響、健康な身体を維持するための運動方法について論理的に学ぶ。									
授 業 の 目 標									
一般目標：身体活動・運動および健康管理に関する基礎知識を習得する。									
行動目標：修了者は、健康な身体を維持するための適切な生活習慣について理解し、かつ実践できる。									
回	授 業 計 画 ・ 内 容								
1	オリエンテーション			本科目の目標・方針を理解する。					
2	生理学基礎			身体の仕組み、加齢による身体の変化について学ぶ。					
3	体力測定と健康			体力測定の意義、健康との関わりについて学ぶ。					
4	有酸素運動			心肺機能と日常生活の関わり、そのトレーニング方法を学ぶ。					
5～6	生活習慣と運動			適切な生活習慣と運動について考える。					
10～11	7	熱中症の予防と対処			熱中症について理解し、その予防と対処方法を学ぶ。				
	8	一次救命処置法			心肺蘇生および A E D の使用方法について学ぶ。				
	9	運動処方の科学			愛好者から競技者までの各レベルに応じた運動方法を学ぶ。				
	11	筋力トレーニング			骨格筋の構造・機能を理解し、そのトレーニング方法を学ぶ。				
	12	食事と運動			食生活と運動について考える。				
13	ストレスと運動			精神面における健康と運動の関わりについて学ぶ。					
	年齢と運動			各ライフステージにおける運動の必要性について考える。					
14	スポーツ振興政策			スポーツの現状と日本のスポーツ関連政策について学ぶ。					
15	まとめ								
キーワード	体育，身体活動，体力，生活習慣病，ダイエット，スポーツ科学								
教科書 参考書	適宜，プリントを配布する。								
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験（80％），授業内外の課題(20％)によって総合的に評価する。 評価基準：試験，課題提出物によって授業目標についての理解度を評価する。								
関連科目	体育実技，船舶衛生管理論Ⅰ，船舶衛生管理論Ⅱ								
履修要件	特になし								
教 育 方 法 ・ そ の 他									
写真や動画を用いて，理解しやすい講義を心掛ける。 聴講のみならず，身体活動量や運動強度の算出，消費カロリー計算などの演習も行う。 本科目で学んだ理論を体育実技の授業で実践することによって理解を深める。 体育理論，体育実技ともに出席すること。									

学 科 目 名	スペイン語(2年後期)			単位数	1 単位	ヘロニモ・トマス・ミニーニョ ・マイヴァルト (非常勤講師) jeronimo.minino@gmail.com
	Spanish Language			教員名 メールアドレス		
	学習・教育到達目標：F (◎)					
履修年次・学期	F 科	2 年 後期 選	M 科	2 年 後期 選	S 科	2 年 後期 選
	A 科	2 年 後期 選	D 科	2 年 後期 選		
質 問 受 付	授業の前後。教室または非常勤講師控室。					
授 業 概 要						
スペイン語講座は、次の3つの異なる観点から、外国語経験を持つ良い機会となるでしょう。 1) 書くことや文法の修得が可能な外国語を学ぶ。 2) コミュニケーションと情報交換のための道具として、また私達人間が自然に習得できる道具としての外国語を学ぶ。 3) 学習を通じて他の国の人々のことを知り、異文化理解の架け橋となる外国語を学ぶ。						
授 業 の 目 標						
一般目標：1) 基本的な語彙の学習 2) スペインやラテンアメリカの文化(習慣・音楽・映画・文学・コミュニケーション手段・環境に関すること)を理解することに重点をおく。 行動目標：スペイン語の基本的な運用ができるようになる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
	(テーマ) … (内容)					
1	『昔のこと』一前置き … 基礎を学びます 歴史					
2	『昔のこと』一知識を深める … 文法、単語をより深く学びます 時代、子供の頃、線過去					
3	『昔のこと』一練習 … 聞く、読む、話す、書く練習をします					
4	『ニュース』一前置き … 基礎を学びます テレビ、インターネット、新聞のニュース					
5	『ニュース』一知識を深める … 文法、単語をより深く学びます 完了形、点過去、線過去の応用					
6	『ニュース』一練習 … 聞く、読む、話す、書く練習をします					
7	『未来のこと』一前置き … 基礎を学びます 夢、予定					
8	『未来のこと』一知識を深める … 文法、単語をより深く学びます 接続法					
9	『未来のこと』一練習 … 聞く、読む、話す、書く練習をします					
10	『討論』一前置き … 基礎を学びます 意見を言う、賛成と反対					
11	『討論』一知識を深める … 文法、単語をより深く学びます 接続法、条件法					
12	『討論』一練習 … 聞く、読む、話す、書く練習をします					
13	レッスン1～12 読む、書くの復習 … 読む、書くの練習をします					
14	レッスン1～12 聞く、話すの復習 … 聞く、話すの練習をします					
15	試験の準備 … 総復習をします					
キーワード	文法、コミュニケーション、異文化理解、基本的な語彙、言語技術					
教科書 参考書	辞書： どの出版社の辞書でも電子辞書でもよいから「スペイン語－日本語と日本語－スペイン語」辞書を1冊用意すること。例えば次のような辞書がある。高垣敏博『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』小学館、ISBN4-0950-6131-6、定価:3,024 円(税込) スマートフォン搭載型の辞書アプリも可とするが、テスト時の持ち込みは禁止とする。					
評価方法	評価方法： 期末テスト評点(55%)、予習復習のための宿題と小テスト(45%)で総合的に評価。					
評価基準	評価基準： 授業目標についての理解度、達成度を基準に評価。					
関連科目	スペイン語(1年前期)、スペイン語(1年後期)、スペイン語(2年前期)					
履修要件	特になし					
教 育 方 法 ・ そ の 他						
毎回、復習を兼ねた簡単な小テストを行う。						

学 科 目 名	体育実技 Physical Practice				単位数	2/3 単位						
	学習・教育到達目標：I（◎）， G，H（○）				教員名 メールアドレス	得本啓次（非常勤講師）						
履修年次・学期	F科	2年	前後期	必	M科	2年	前後期	必	S科	2年	前後期	必
	A科	2年	前後期	必	D科	2年	前後期	必				
質 問 受 付	授業の前後											
授 業 概 要												
各種スポーツを実施することにより，自主性と協調性，公平性を育成し，体力健康の保持増進をはかる。各種目グループに別れ練習の計画，実施やゲームを行ない，運動の面白さや健康面においての大切さを身に付け，生涯スポーツの重要性を理解するとともに，自主的・継続的な運動する能力を修得する。												
授 業 の 目 標												
一般目標：各種目の特性を理解してプレーすることにより，自主性と協調性，公平性を養い，身体を動かすことの楽しさや重要性を修得し，実践できる能力を身につける。その上で健康に生活するためには運動が必要であることを自覚させる。												
行動目標：体力・健康の自己管理が行なえるようになる。 本科目を生涯スポーツの動機付けとし，一生を通じて運動を行い健康に過ごせるようになる。												
回	授 業 計 画 ・ 内 容											
1	オリエンテーション		授業方針・内容を理解する 生涯スポーツの必要性を理解する。									
2	体力テスト・形態測定		テスト・測定の結果から自分の現状を把握する。									
3～6	ソフト・バレーボール		ニュースポーツや一般的スポーツをまとめた期間，取り組み									
7～10	バドミントン・		技能を向上するとともに授業内での運動強度，運動の質を向上									
11～14	バスケットボール		させる。各種競技を通じて，生涯スポーツの重要性・必要性を 考える。									
15	体力テスト・形態測定		テスト・測定の結果から前回の測定結果からの変化を把握し， 結果を分析する。今後の健康管理面からの運動への取り組みに ついて考えまとめる。									
キーワード	体力保持増進，生涯スポーツ，自主性・協調性・公平性											
教科書 参考書	適宜：必要に応じてプリントを配布する。 参考書：生涯スポーツの理論と実際－豊かなスポーツライフを実現させるために－（大修館書店），最新スポーツルール百科（大修館書店）											
評価方法 評価基準	評価方法：種目の理解度および実践（60％），課題提出物（40％）で総合的に評価する。 評価基準：種目の理解度および実践，提出物によって授業目標についての理解度，達成度を評価する。											
関連科目	体育理論，体育実技（1年）											
履修要件	全学科2年必修科目											
教 育 方 法 ・ そ の 他												
スポーツへの自主的な取り組みが出来るような指導・環境づくりに留意する。 規律正しさを身につけるため，挨拶・時間厳守を徹底させる。												

学 科 目 名	体育実技				単位数	4/3 単位		
	Physical Practice				教員名 メールアドレス	小竹直樹 nkotake@fish-u.ac.jp		
	学習・教育到達目標：I（◎）， G，H（○）							
履修年次・学期	F科	1年	通年	必	M科	1年	通年	必
	A科	1年	通年	必	D科	1年	通年	必
質問受付時間	随時 三学科共用実験棟2階 水産流通経営学科 教員研究室（213）							
授 業 概 要								
各種スポーツへの取り組みを通して基本的な運動技能を養い、生涯にわたりスポーツ活動が続けていくための基礎とする。あわせて、体格・体力の測定方法、スポーツ現場に必要な応急手当についても学び、実践練習する。								
授 業 の 目 標								
一般目標：様々なスポーツ種目の基礎技能を習得する。 スポーツの実践を通して、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、自主性や協調性を養う。 行動目標：修了者は、身体活動を活用した適切な健康管理を自ら実践できるようになる。								
回	授 業 計 画 ・ 内 容							
1	オリエンテーション		授業の方針・概要を理解する。					
2～3	体格・体力測定		自己の体格・体力レベルを把握する。					
4～5	ブラインドサッカー		ブラインドサッカーを通して、 コミュニケーションの必要性を考える。					
6～	バレーボール・		一般的なスポーツ種目の技能を養う。自主性・協調性を養う。					
15	バドミントン・水泳							
16～	ユニホック・		ニュースポーツに取り組む。					
21	フライングディスク		チームで協力して練習し、チームとして技能向上に取り組む。					
22～23	体格・体力測定		半年間の体格・体力の変化を把握し、 今後の身体活動への取り組み方について考える。					
24～	バスケットボール・		チームごとに課題を発見し、その改善に取り組む。 各自が役割を理解し、自律的にゲームを運営する。					
30	フットサル							
その他、スポーツ現場に必要な応急手当についても学び、実践練習する。								
キーワード	健康の維持増進，生涯スポーツ，自主性，協調性							
教科書 参考書	適宜，プリントを配布する。							
評価方法 評価基準	評価方法：種目の理解度及び実践（60％），課題提出物およびテスト（40％） 評価基準：実践と課題提出物によって，授業目標についての達成度を評価する。							
関連科目	体育理論，体育実技（2年），海技実習							
履修要件	特になし							
教 育 方 法 ・ そ の 他								
教育方法：運動能力や経験を問わず，初心者でも実施可能な授業を展開する。 注意事項：集団で実技を行うため，遅刻しないように注意すること。 理論を学び，実践することで理解が深まる。体育理論，体育実技ともに出席すること。								

学 科 目 名	基礎物理学		単位数	2 単位		
	Fundamental Physics		教員名	新居慶太	nii@fish-u.ac.jp	
	学習・教育到達目標：C（◎）		メールアドレス	藤原慎平	fujiwara@fish-u.ac.jp	
履修年次・学期	F科	1 年 後期 必	M科	1 年 後期 必	S科	1 年 後期 必
	A科	1 年 後期 必	D科	1 年 後期 必		
質 問 受 付	随時 新居：三学科共用実験棟 1 F 教員研究室(108) 藤原：三学科共用実験棟 1 F 電気実験室内教員研究室(105)					
授 業 概 要						
近年の生命現象の研究は、DNAやタンパク質など分子の挙動や構造、電子の量子力学的な振る舞いなどから生物を理解する、よりミクロな方向へと向かっている。基礎的な物理学を学習することは、生物・化学分野の学生にとっても重要である。また、地球環境問題を理解しその解決を考えていく上でも、エネルギーに関する知識や考え方を身につけることが重要である。 本科目では、水産に関連する様々な課題を解決する基礎知識として、物理の基本知識、物理の考え方を学習する。どの分野に進む場合でも必要となる基礎的な数学力を身に付けると共に、「船の出力はなぜ速度の3乗に比例するのか？」などの具体的な疑問にも物理学の考察から答えを導けることを目指す。						
授 業 の 目 標						
一般目標：この科目では、物理学の主要項目である「力学・振動波動・電磁気」を学習し、関連する様々な現象の裏にある物理法則を学ぶ。さらに、高校で物理を学習していなくても理解できるレベルの数学をベースとして、数式で考える方法を修得する。 行動目標：物事を数理的に理解し、物理学の基礎が説明できるようになる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
1	物理学とは？（新居）					
2	物理学に必要な数学（新居）					
3	力学とは？ ニュートンの運動の法則（新居）					
4	簡単な運動（自由落下・バネなど）の解析（新居）					
5	エネルギーと運動量、仕事と力積（新居）					
6	常微分方程式入門 1（新居）					
7	常微分方程式入門 2（新居）					
8	バネによる振動運動（強制振動や減衰振動）、RLC回路と共鳴・共振現象（新居）					
9	空気抵抗や水の抵抗の下での運動（新居）					
10	平面内での物体の運動（新居）					
11	惑星の運動とGPS衛星（新居）					
12	電気の基礎（藤原）					
13	電気容量（藤原）					
14	電流と電気抵抗（藤原）					
15	電流と磁場（藤原）					
キーワード	力学、ニュートンの運動の法則、速度・加速度、運動方程式、回転運動、エネルギー・運動量、振動波動、音、光、静電気力、電流と電圧、オームの法則					
教科書参考書	『物理学基礎（第5版）』原 康夫著（学術図書出版社（2016/10発売））					
評価方法 評価基準	評価方法：新居担当分70%、藤原担当分30%として評価する。藤原担当30%の電気分野においては授業時の提出課題(10%)と最終の課題テスト(20%)で評価する。 評価基準：物理学の理解度や基本的な数学力、論理的思考力を総合的に評価する。					
関連科目	水産数理科学基礎セミナー物理編、基礎解析学、応用物理学					
履修要件	高校の時に物理学を履修にできなかった者、数理科目が不得意だった者は、水産数理科学基礎セミナー(物理)を履修することが望ましい。					
教 育 方 法 ・ そ の 他						
Moodleを活用した授業を行うため、必ずMoodleの授業ページを確認して下さい。						

学 科 目 名	基礎解析学 Elementary Analysis			単位数	2単位	
				教員名 メールアドレス	青木邦匡 aoki@fish-u.ac.jp	
	学習・教育到達目標：C (◎)					
履修年次・学期	F科	1年前期 必	M科	1年前期 必	S科	1年前期 必
	A科	1年前期 必	D科	1年前期 必		
質問受付時間	随時、三学科共用実験棟 2 階研究室 2 1 2					
授 業 概 要						
実数の一変数関数に対する微分積分を学習する。微分の発明者の一人ニュートンは物体の運動を記述するために 微分・積分を導入した。物体の運動速度を例に微分係数や導関数の概念を理解し、具体的な関数の導関数の計算法 を学びながら、物体の運動を含めた一般的なものの変化について微分を使って表し調べる方法を学んでいく。積分編では、微分を使って表された関係(微分方程式)から現象を記述する関数を求めることと、面積や確率などの量が積分で表され計算されることを学ぶ。						
授 業 の 目 標						
一般目標:微分積分の概念の有効性を基本的な応用例に沿って、実際に計算し学ぶことによって理解する。 行動目標:微分積分法の基本的な計算とその応用を理解できるようになる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
1 ～ 5 6 ～ 7 8 ～ 1 1 1 2 1 3 ～ 1 5	物体の速度から始めて、一般にものの変化率としての微分を理解しよう。 具体的な導関数の計算法を学ぼう。 関数の増減を微分を使って調べよう。 経済における費用と価格の関係を微分を使って調べよう。 不定積分と定積分の概念を理解しよう。 不定積分の計算法を学ぼう。 微分編で例として取り上げた微分方程式を解こう。 定積分を用いて面積と曲線の長さや確率を計算する方法について学ぼう。					
キーワード	微分係数、導関数、不定積分、定積分、速度、面積、曲線の長さ、確率密度					
教 科 書 参 考 書	オンラインテキストをMoodleに掲載する。					
評価方法 評価基準	記述式の期末試験 (70%)と授業時間に行う計算中心の中間試験(30%)による。 期末試験は微分積分の基礎事項及び応用を含めた総合的な授業内容の理解度を評価する。 中間試験は微分積分の基礎的な計算力を評価する。					
関連科目	確率統計学					
履修要件						
教 育 方 法 ・ そ の 他						
オンラインテキストの印刷冊子版を希望者に頒布する。 オンライン演習システムにより自習を支援する。						

学 科 目 名	基礎化学 Fundamental Chemistry			単位数	2 単位	必
	学習・教育到達目標：C (◎)			教員名	池原 強 ikehara@fish-u.ac.jp	
				メールアドレス		
履修年次・学期	F 科	1 年 前期 必	M 科	1 年 前期 必	S 科	
	A 科		D 科			
質 問 受 付	随時：二学科共用実験棟食品科学科1階研究室(108号室)					
授 業 概 要						
水産業の健全な発展に必要な基礎知識としての授業である。具体的には物質の構成単位である「原子」の構造を正しく理解し、次いで複数の原子を含む「分子」を形作る様々な「化学結合」について身近な例をもとに学習する。						
授 業 の 目 標						
一般目標:食品を構成する様々な物質を原子・分子等のレベルで見て、その化学的性質・反応性や機能等の化学の基礎となる問題を正しく理解できるようにし、自然科学の中の化学について基礎学力を修得する。 行動目標:①原子の構造を概ね説明できる。②分子の構造を概ね説明できる。③生体関連物質の化学結合を概ね説明できる。④専門の基礎化学(無機・有機、量子化学) に関する用語を英名とともにその意味を説明できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
1	講義資料の配付や解説などを通じ、講義内容や進め方を理解する。また参考図書の紹介を受ける。 序章 物質観の変遷について理解する。(予習キーワード:化学史)					
2	第Ⅰ章 原子の構造(1)を理解する。(:電子、陽子、原子模型)					
3	" (2)を理解する。(:電子配置、周期表) " (3)を理解する。(:長周期型周期表、典型元素、遷移元素、希土類元素)					
4	第Ⅱ章 分子の構造(1)を理解する。(:化学結合、イオン結合、結合様式、イオン結晶)					
5	" (2)-その1を理解する。(:共有結合、結合様式)					
6	" -その2を理解する。(:混成軌道、sp ³ 、sp ² 、sp)					
7	" -その3を理解する。(:多重結合、単結合、二重結合、三重結合)					
8	" (3)配位結合-その1を理解する。(:結合様式、配位数、金属錯体)					
9	" -その2を理解する。(:金属錯体、正八面体、三方両錐、四角形)					
10	" (4)その他の弱い化学結合-その1を理解する。(:金属結合、水素結合)					
11	" (5)その他の弱い化学結合-その2を理解する。(:分子間結合、電荷移動結合)					
12	第Ⅲ章 様々な化学結合を持つ身近な物質-生体関連物質について理解する。(:生体関連物質)					
13	" 様々な化学結合を持つ身近な物質-毒性物質について理解する。(:毒性物質)					
14	練習問題の配布と定期試験について説明を受ける。					
15	これまでの講義内容のまとめ。					
キーワード	化学史、原子、電子、原子核、周期表、分子、化学結合、無機・有機化合物、毒性物質					
教科書 参考書	教科書:担当教員が作成した講義資料を使用します。 参考書:乾 利成 他3名共著 改訂 化学 -物質の構造、性質および反応- 化学同人 参考書:第1回目の授業で配付する講義資料に紹介。					
評価方法 評価基準	評価方法:復習小テスト(20%)、期末テスト(80%)で総合的に判定する。 評価基準:小テスト、期末テストについては、授業目標についての理解度、達成度を評価する。					
関連科目	有機化学、分析化学					
履修要件	特になし					
教 育 方 法 ・ そ の 他						
オリジナルの講義資料を使用し、適宜パワーポイントを活用した講義形式で行います。本講義では、高等学校では学んでいない「新しい概念」を学習するので、特に予習・復習をすることが大切です。次回の講義内容について、講義資料を配布しますので、必ず予習をする事。また、授業期間中に数回、復習のための小テストを行いますので、復習もしっかりする事。質問は随時受け付けているので、遠慮なく質問してください。						

学 科 目 名	基礎化学 Fundamental Chemistry		単 位 数	2単位	必	
			教 員 名 メールアドレス	宮田昌明 mmiyata@fish-u.ac.jp		
	学習・教育到達目標：C(◎)					
履修年次・学期	S科1年	前期 必	A科1年	前期 必	D科1年	前期 必
質 問 受 付	研究室（二学科共用実験棟2階 201号室）で随時質問を受ける。授業時間終了後にもできる限り質問を受ける。					
授 業 概 要						
水産業の健全な発展に必要な基礎知識としての授業である。具体的には物質の構成単位である「原子」の構造を学習する。さらに複数の原子を含む「分子」を形作る様々な「化学結合」について身近な例をもとに学習する。						
授 業 の 目 標						
一般目標：食品を構成する様々な物質を原子・分子等のレベルで見て、その化学的性質・反応性や機能等の化学の基礎となる問題を、正しく理解することにより、自然科学に関わる基礎学力を習得する。 行動目標：① 原子の構造を概ね説明できるようになる。② 分子の構造を概ね説明できるようになる。③ 生体関連物質の化学結合を概ね説明できるようになる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
1	化学の基礎的事項を確認する。(予習キーワード:電子, 原子)					
2	電子, 陽子, 原子量を理解する。(:電子, 同位体)					
3	水素の原子スペクトルとBohrの水素原子模型を理解する。(:原子スペクトル, 水素原子模型)					
4	量子数と原子の電子配置を理解する。(:主量子数, 電子雲, s軌道, p軌道)					
5	元素の周期律を理解する。(:周期律, 遷移元素, 典型元素)					
6	イオン結合を理解する。(:イオン化エネルギー, 電子親和力)					
7	共有結合と極性結合を理解する。(:共有結合, 極性, 双極子モーメント, 電気陰性度)					
8	混成軌道を理解する。(:sp混成軌道, sp ² 混成軌道, sp ³ 混成軌道)					
9	中間試験と解説					
10	多重結合を理解する。(:π結合, σ結合, 共役二重結合, 非局在化エネルギー)					
11	配位結合と金属錯体を理解する。(:配位子, 配位数, 金属錯体)					
12	水素結合、ファンデルワールス力を理解する。(:水素結合)					
13	結晶構造を理解する。(イオン結晶, 共有結晶, 金属結晶, 分子結晶)					
14	生体関連物質の化学結合について理解する。(タンパク質, 核酸, 水)					
15	まとめ					
キーワード	原子, 電子, 原子核, 周期表, 分子, 化学結合, 無機・有機化合物					
教科書 参考書	教科書:乾 利成 他3名共著 改訂 化学 -物質の構造, 性質および反応- 化学同人 参考書:馬場正昭 教養としての化学基礎 -身につけておきたい基本の考え方- 化学同人					
評価方法 評価基準	評価方法:期末試験(80%), 中間試験・課題提出(20%)で総合的に評価する。 評価基準:試験, 課題によって, 授業目標についての理解度, 達成度を評価する。					
関連科目	基礎物理学, 基礎解析学					
履修要件	特になし					
教 育 方 法 ・ そ の 他						
毎回の予習キーワードをあらかじめ提示(上記授業計画)しますので, これに関して予習を行って下さい。教科書とオリジナルの講義資料を併用して講義を行う。本講義では, 高等学校では学んでいない「新しい概念」を学習するので, 予習・復習をすることが大切です。						

学 科 目 名	情報科学 Information Science			単位数	2 単位	橋本博: hhashimoto@fish-u.ac.jp 松岡結: matsuoka@fish-u.ac.jp
	学習・教育到達目標: C (◎)、B・E (○)			教員名 メールアドレス		
履修年次・学期	F 科	年 期	M 科	年 期	S 科	年 期
	A 科	年 期	D 科	1 年 後期 必		
質 問 受 付	授業中並びに授業の前後 教室					
授 業 概 要						
全学科共通として、まず情報の利用、管理及び倫理について学習する。その後、各学科の専門教育において必要な情報の収集やデータの解析・グラフ化、パーソナルコンピュータを用いたレポートや卒業論文の作成技術を修得するとともに、プレゼンテーション技術について学習する。						
授 業 の 目 標						
一般目標: インターネットや文献等の情報を扱う上で必要とされる情報セキュリティと情報倫理について理解する。さらに、表計算、プログラミング、数値データのグラフ化、プレゼンテーションファイルの作成等を修得することによって、情報の処理やプレゼンテーションに関する基本的事項を理解する。						
行動目標: 情報セキュリティと情報倫理について説明できるようになる。また、目的に応じた情報の処理や要点を押さえたプレゼンテーションができるようになる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
1	ガイダンス、情報の利用・管理及び倫理（水産業における情報化、スマート水産業、情報セキュリティ、マナー、情報倫理）について学習する（橋本）					
2	プログラミングの一般的な役目やExcelマクロの作成方法について学習する（松岡）					
3～4	VBAの基本文法について学習する（松岡）					
5～7	オブジェクトの参照とVBAによるExcelの操作について学習する（松岡）					
8	表のデータ操作とセルの書式設定について学習する（松岡）					
9	水産物の消費動向に係る統計データの処理を学習する（表計算とグラフ作成①）（橋本）					
10	水産物の生産動向に係る統計データの処理を学習する（表計算とグラフ作成②）（橋本）					
11	養殖魚及び養殖用種苗の動向に係る統計データの処理を学習する（表計算とグラフ作成③）（橋本）					
12	水産物の輸入動向・輸出動向、自給動向に係る統計データの処理を学習する（表計算とグラフ作成④）（橋本）					
13	統計データ処理のまとめ（橋本）					
14～15	Power Pointによるプレゼンテーションの方法を学習する（橋本）					
キーワード	情報セキュリティ、情報倫理、データ処理、プログラミング、プレゼンテーション					
教科書 参考書	必要に応じてウェブ上にテキストを提示する。また、必要に応じてプリントを配布する。					
評価方法 評価基準	評価方法: 課題提出物（100%）により判定する。 評価基準: 課題提出物によって授業目標に対する理解度、達成度を評価する。					
関連科目	コンピュータ基礎、卒業論文					
履修要件	特になし					
教 育 方 法 ・ そ の 他						
データ処理に関する質問は、授業中、随時受け付ける。 授業内容に即して課題を出す。						

学 科 目 名	基礎生物学 Fundamental Biology				単位数	2単位	必					
					教員名 メールアドレス	村瀬 昇	murasen@fish-u.ac.jp					
						高橋 洋	hiroshi@fish-u.ac.jp					
								松井英明	matsui@fish-u.ac.jp			
学習・教育到達目標：C（◎）												
履修年次・学期	F科	1年	前期	必	M科	1年	前期	必	S科	1年	前期	必
	A科	1年	前期	必	D科	1年	前期	必				
質 問 受 付	随時。担当教員の各研究室，村瀬（二学科共用実験棟 314），高橋（水産生物飼育研究棟2F実験準備室），松井（二学科共用実験棟 212）											
授 業 概 要												
多様な生物の構造と生命現象に関する基本的な機能，分類と進化，および生物を取り巻く環境ならびに生物同士の関係について学習する。												
授 業 の 目 標												
一般目標：生物生産の基礎を修得するために，地球上に棲む多様な生物の実態，共通に持つ生命機能，進化過程，生態系の中での生物同士の関係および生物個体と生物集団を成り立たせている基本的法則などを学習し，さらに生物及び地球環境の大切さを理解する。 行動目標：水産に関する各専門分野で学ぶための基礎的な素養として，生命についての基本的な理念と生物資源の成立を説明できるようになる。												
回	授 業 計 画 ・ 内 容											
	1 講義の概要，進め方などの説明を受ける。（全員） 2 遺伝と繁殖の仕組み，遺伝的多様性を理解する。（高橋） 3 遺伝及び集団遺伝の法則を理解する。（高橋） 4 DNAの構造と機能を理解する。（高橋） 5 進化と種が分かれる過程を理解する。（高橋） 6 植物と動物の違いを理解する。（村瀬） 7 植物の体の構造と機能を理解する。（村瀬） 8 植物群落の構造を理解する。（村瀬） 9 植物群落の機能を理解する。（村瀬） 10 動物の行動について理解する。（松井） 11 刺激の受容と反応について理解する。（松井） 12 生物の集団（個体群と生物群集）について理解する。（松井） 13 生態系の構造と機能を理解する。（松井） 14 個体・生物群集・生態系のつながりと環境保全について学習する。（松井） 15 まとめ（全員）											
キーワード	生命科学，細胞，遺伝，進化，分類，多様性，繁殖，行動，集団，生態系											
教科書 参考書	教科書：なし 参考書：宇宙一わかりやすい高校生物(生物基礎)（船登惟希，学研教育出版） カラー版忘れてしまった高校の生物を復習する本（大森 徹，中経出版） また，教員がプリントなど作成し，授業時間に配布する。											
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験評点(80%)及び課題提出物（20%）で判定する。 評価基準：授業目標についての理解度，達成度を評価する。											
関連科目	応用生物学											
履修要件	特になし											
教 育 方 法 ・ そ の 他												
学生による質問を随時受け付ける。授業では，配布資料に加え，必要に応じて映像などを用いて学生の好奇心や探求心を刺激し，理解が深まるように努める。また，課題提出を課すのは自主学習の促進のためであり，確実に予習復習を行うこと。なお，都合により，担当教員の授業順番などを変更することがある。												

学 科 目 名	情報科学 Information Science				単位数	2 単位	
	学習・教育到達目標：C（◎）， B・E（○）				教員名 メールアドレス	徳永憲洋：tokunaga@fish-u.ac.jp 石田武志：ishida@fish-u.ac.jp 大原順一：ohara@fish-u.ac.jp 吉村英行：yoshimura@fish-u.ac.jp	
履修年次・学期	F科	年 期	M科	1 年 後 期 必	S科	年 期	
	A科	年 期	D科	年 期			
質 問 受 付	随時 徳永：内燃・制御実験棟2F(3)、石田：三学科共用実験棟3F(310)、 大原：三学科共用実験棟3F(305)、吉村：舶用機械総合実験棟2F(研究室1)						
授 業 概 要							
全学科共通としてまず情報技術の利用、管理及び倫理について学習する。その後、各学科の専門教育 やスマート水産業の理解において必要な、情報の収集やデータの解析・グラフ化、パーソナルコンピュータ を用いたレポートや卒業論文の作成技術を修得するとともに、プレゼンテーション技術について学習する。							
授 業 の 目 標							
一般目標：インターネットや文献等の情報を扱う上で必要とされる情報セキュリティと情報倫理につい て学習する。さらに、表計算、プログラミング、数値データの編集、プレゼンテーションフ ァイルの作成等の情報技術を修得する。							
行動目標：基本的な情報の処理やプレゼンテーション資料の作成ができるようになる。							
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	情報の利用・管理、及び倫理（水産業における情報化、情報セキュリティ、マナー、情報 倫理）を学習する。（学科長）						
2	計算機の歴史と仕組み（計算機発達の歴史、原理および構造）を学ぶ。（吉村）						
3	情報の収集と管理（インターネット、文献検索）、連絡ツールを学ぶ。（吉村）						
4	リモートツールを理解する。Excelの便利な関数を利用した表作成方法を学ぶ。（吉村）						
5～6	科学技術計算プログラミング						
	（1）：言語の概要。変数、データ入出力、条件判断を学ぶ。（徳永）						
7	同上（2）：繰り返し、関数・サブルーチンを学ぶ。（徳永）						
8	同上（3）：課題（水産・海洋機械システムの解析：数値計算プログラム）。（徳永）						
9	表計算ソフトによる簡単なデータ解析・シミュレーションモデルの作成						
	（1）：統計データ分析、関数利用、グラフ作成方法について学ぶ。（石田）						
10	同上（2）：線形回帰分析を行う。（石田）						
11	同上（3）：微分・積分の数値解法について学ぶ。（石田）						
12	研究発表のためのプレゼンテーションソフトの活用（1）：基本操作を学ぶ。（大原）						
13	同上（2）：表現、効果、特性について学ぶ。（大原）						
14	同上（3）：応用を学ぶ。（大原）						
15	まとめ（学科長）						
キーワード	情報倫理、プログラミング、プログラミング言語、表計算、モデリング、プレゼンテーシ ョン、情報収集、情報伝達スキル						
教 科 書 参 考 書	必要に応じてプリントを配布する。						
評価方法 評価基準	評価方法：各担当区分に課せられるテスト（50%）およびレポート（50%）により判定す る。 評価基準：テスト、レポートについては授業内容についての理解度・達成度を評価する。						
関連科目	コンピュータ基礎、卒業論文、卒業研究						
履修要件	特になし						
教 育 方 法 ・ そ の 他							
学生による質問を頻繁に受け、対話型講義を心がける。授業中、学生がコンピュータを実際に操作する 演習を多く採用し、実用的な技術が習得できるよう努める。その他、予習・復習のため適宜課題を与え 提出させる。							

学 科 目 名	情報科学 Informatics				単位数	2 単位	
					教員名 メールアドレス	毛利雅彦	mmohri@fish-u.ac.jp
	学習・教育到達目標： C(◎), B・E(○)					梶川和武	kajikawa@fish-u.ac.jp
履修年次・学期	F 科	1 年 後期 必	M 科	年 期		S 科	年 期
	A 科	年 期	D 科	年 期			
質 問 受 付	授業の前後 教員研究室						
授 業 概 要							
全学科共通として、まず情報の利用、管理及び倫理について学習する。その後、各学科の専門教育において必要な情報の収集やデータの解析・グラフ化、パーソナルコンピュータを用いたレポートや卒業論文の作成技術を修得するとともに、プレゼンテーション技術について学習する。なお、授業を進めるに当たり、本授業をより理解するために最新の水産に関する研究成果や概要を適宜紹介する。							
授 業 の 目 標							
一般目標：インターネットや文献等の情報を扱う上で必要とされる情報セキュリティと倫理について学習する。さらに、水産関連の統計を用いて、数値データのグラフ化やプレゼンテーションファイルの作成等を修得する。							
行動目標：修了者は、様々なデータ分析を通して、多角的な視点から問題を解決することができるエンジニアデザイン能力を習得することができる。また、効果的なプレゼンテーション能力を身に付けることができる。							
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	情報の利用・管理、及び倫理（水産業における情報化、情報セキュリティ、マナー、情報倫理）を学習する。（毛利）						
2	インターネットを用いた漁業情報の収集法について学習する（中村）						
3	インターネットを用いて出身県の漁業情報を収集する（中村）						
4	表計算ソフトの基礎を学ぶ（中村）						
5	収集した漁業情報をもとに表計算ソフトによる演算処理及びグラフ化を学ぶ（中村）						
6	初級レベルのプログラミング入門：プログラムを実行する（嶋田）						
7	初級レベルのプログラミング入門：プログラムを編集する（嶋田）						
8	初級レベルのプログラミング入門：プログラムで四則演算を行う（嶋田）						
9	初級レベルのプログラミング入門：プログラムにデータを入力する（嶋田）						
10	初級レベルのプログラミング入門：プログラムからデータを出力する（嶋田）						
11	プレゼンテーションの基礎を学ぶ（梶川）						
12	プレゼンテーションに用いるデータの整理の仕方、ソフトの使い方を学ぶ（梶川）						
13	プレゼンテーションの仕方を学ぶ（梶川）						
14～15	水産業に関連する諸問題と解決方法に関するプレゼンテーションを実践する（梶川）						
キーワード	情報倫理，セキュリティ，漁業情報収集，インターネット，表計算，データ解析，グラフ化プレゼンテーション，プログラミング						
教科書 参考書	授業毎にプリントを配布する (教科書・参考書, 嶋田担当分) 必要であれば事前に連絡する。						
評価方法 評価基準	評価方法：各担当区分に課せられる課題(100%)により判定する。 評価基準：課題は、授業内容についての理解度・達成度で評価する。						
関連科目	コンピュータ基礎，セミナー，卒業研究，卒業論文						
履修要件	この学科目は指定受講年次に履修することが望ましい。						
教 育 方 法 ・ そ の 他							
実際に学生がコンピュータを使用することによって、学生の好奇心と探求心を刺激し、自ら考え、問題を解決できる能力を養う。質問等は授業中に適宜受け入れ、学生の疑問点の解消に心がけ、対話形式で授業を進める。							

学 科 目 名	情報科学				単位数	2 単位		
	Information Science				教員名	村瀬 昇 murasen@fish-u.ac.jp		
	学習・教育到達目標：C（◎），B・E（○）				メールアドレス	高橋 洋 hiroschi@fish-u.ac.jp 山崎康裕 yamasaky@fish-u.ac.jp		
履修年次・学期	F科	年 期		M科	年 期		S科	年 期
	A科	1年 後期 必		D科	年 期			
質 問 受 付	後期随時，各教員研究室(二学科共用実験棟生物生産学科2階山崎研究室（213），3階村瀬研究室（314），水産生物飼育研究棟2階高橋研究室（実験準備室）							
授 業 概 要								
全学科共通としてまず情報の利用，管理及び倫理について学習する。その後，各学科の専門教育において必要な，情報の収集やデータの解析やその結果のグラフ化およびプレゼンテーションを行う場合に必要なエクセルやパワーポイントの使い方など情報技術について学習する。								
授 業 の 目 標								
一般目標：インターネットや文献等の情報を扱う上で必要とされる情報セキュリティと情報倫理について理解し，画像処理，生物情報データのグラフ化およびプレゼンテーションを行う場合に必要となるエクセルやパワーポイントの使い方などの情報技術について学習する。 行動目標：情報セキュリティと情報倫理を踏まえ，水産に関わる各専門分野で学ぶための基礎的な素養として，表計算，画像処理およびプレゼンテーションなどのソフトの基本的な操作とインターネットからの自然科学情報を安全に取り扱うことができるようになる。								
回	授 業 計 画 ・ 内 容							
	1 情報の利用・管理，及び倫理（水産業における情報化，情報セキュリティ，マナー，情報倫理）を学習する。（村瀬） 2 表計算の応用1：生物多様性指数の表計算とグラフ化（高橋） 3 表計算の応用2：遺伝的多様性指数の表計算（高橋） 4 表計算の応用3：遺伝的多様性指数のグラフ化（高橋） 5 生物情報処理1：ゲノム・核酸配列解析（高橋） 6 生物情報処理2：生物多様性データのプレゼンテーション技術を学ぶ（高橋） 7 生物情報処理3：生物のデジタル写真画像の処理（村瀬） 8 生物情報処理4：デジタル画像を用いた生物生長測定（面積，長さ）（村瀬） 9 環境情報処理1：生育温度の測定と解析（村瀬） 10 環境情報処理2：光強度の測定と解析（村瀬） 11 環境情報処理3：海洋観測データの作図の原理と表現方法（山崎） 12 環境情報処理4：海洋観測データの表計算（山崎） 13 環境情報処理5：海洋観測データのグラフ化（山崎） 14 学術情報処理：インターネットによる最新の自然科学情報の収集と整理（山崎） 15 まとめ（村瀬・高橋・山崎）							
キーワード	情報倫理，情報セキュリティ，表計算，生物情報，環境情報，計算処理，プレゼンテーション，画像処理，グラフ化，インターネット							
教科書 参考書	教科書：特になし 参考書：特になし 授業時間中に配布するプリントを使用する。							
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験（50％）および課題提出物（50％）で総合的に評価する。 評価基準：試験および課題提出物によって授業内容についての理解度，達成度を評価する。							
関連科目	コンピュータ基礎，水産学概論，海と漁業生産，水産と生物，技術者倫理，卒業論文							
履修要件	特になし							
教 育 方 法 ・ そ の 他								
授業中に，学生による質問を適宜受け付け，対話形式の授業を進める。表計算の基礎と応用を学び，生物情報や環境情報の計算処理や画像処理に関する予習・復習のための課題を通じて，学生が自ら考え問題を解決する能力を身につけるようにする。USBメモリなどの記憶媒体を各自で用意する事が望ましい。								

学 科 目 名	情報科学 Information Science		単位数	2 単位	
	学習・教育到達目標：C（◎）， B, D, E（○）		教員名 メールアドレス	山下倫明：mic@fish-u.ac.jp 前田俊道：toshima@fish-u.ac.jp 大久保 誠：ookubo@fish-u.ac.jp 谷口成紀：yaguchi@fish-u.ac.jp 辰野竜平：tatsuno@fish-u.ac.jp	
履修年次・学期	F 科： 年 期	M科： 年 期	S 科：1 年 後期 必		
	A科： 年 期	D科： 年 期			
質 問 受 付	随時 担当教員の各研究室，山下(109)，前田(101)，大久保(104)，谷口(110)，辰野(403)				
授 業 概 要					
情報の利用，管理及び倫理について学習する。その後，各学科の専門教育において必要な情報の収集やデータの解析・グラフ化，パーソナルコンピュータを用いたレポートや卒業論文の作成技術を修得するとともに，プレゼンテーション技術について学習する。					
授 業 の 目 標					
一般目標:インターネットや文献等の情報を扱う上で必要とされる情報セキュリティと情報倫理について理解し，パソコンを用いた情報処理を習得する。 行動目標:情報倫理に法り，パソコンを用いて，基本的な表計算，数値データのグラフ化，プレゼンテーションファイルの作成等ができる。					
回	授 業 計 画 ・ 内 容				
1	情報の利用・管理及び倫理（水産業における情報化，情報セキュリティ，マナー，情報倫理）を学習する。（前田）(B, C, E)				
2	水産食品の成分量を食品成分データベースから検索する方法を学ぶ。（谷口）【情報検索】(C, E)				
3	水産食品の成分量の表計算ソフト入力法と熱量計算法を学ぶ。（大久保）【カロリー計算】(C, E)				
4	水産食品の成分比と熱量のグラフ化方法を学ぶ。（大久保）【グラフ化】(C, E)				
5	水産食品の物性測定の結果を表計算ソフトに入力し，破断強度の解析を学ぶ（谷口）【破断強度】(C, E)				
6	魚筋肉の核酸関連物質から魚の鮮度指標K値を計算する方法を学ぶ。（谷口）【ATP】(C, E)				
7	加工中の魚肉タンパク質の変化をグラフ化する方法を学ぶ。（大久保）【SDS-PAGE】(C, E)				
8	化学物質の検量線の作成法を学ぶ。（山下）【検量線】(C, E)				
9	検量線を利用した化学物質の定量法を学ぶ。（山下）【定量分析】(C, E)				
10	食品分析データの平均と標準偏差の計算とグラフ化方法を学ぶ。（山下）【標準偏差】(C, E)				
11	食品分析データの有意差検定法を学ぶ。（山下）【t 検定】(C, E)				
12	インターネット利用した水産食品に関する文献情報収集法を学ぶ。（辰野）【Cinii】(B, C, E)				
13	プレゼンテーションソフトウェアによる実験データの図表作成を学ぶ。（辰野）【パワーポイント】(C, E)				
14	プレゼンテーションソフトウェアを用いた実験データの発表を学ぶ。（辰野）【画像ファイル】(C, E)				
15	プレゼンテーションスライドを使って 1 分間スピーチを行う。（山下・前田・大久保・谷口・辰野）				
キーワード	情報倫理，水産食品，データ解析，情報収集，プレゼンテーション，鮮度，熱量，検定				
教科書 参考書	教科書：資料を配布する。 参考書：もう悩まない!論文が書ける統計（清水信博著，オーエムエス出版）、食品成分表 2023 八訂（香川明夫監修、女子栄養大学出版部）				
評価方法 評価基準	評価方法:期末試験（50%）と担当区分毎のレポート（50%）により判定する。 評価基準:期末試験と復習レポートは，各授業内容についての理解度・達成度で評価する。				
関連科目	コンピュータ基礎，卒業論文，レポートを課す科目すべて				
履修要件	コンピュータ基礎を修得しておくことが望ましい。				
教 育 方 法 ・ そ の 他					
毎回の予習キーワードを上記授業計画の【 】内に提示しますのでこれに関して予習をしておくこと。 担当区分ごとにレポートを実施するので復習をしておくこと。マルチメディアネットワークセンターを利用するので，一学生生活と履修のてびきーにある「センター利用にあたっての注意」を遵守すること。					

学 科 目 名	コンピュータ基礎 Introduction of Computer Literacy				単位数	1 単位	
	学習・教育到達目標：C(◎)				教員名 メールアドレス	松岡結 matsuoka@fish-u.ac.jp	
履修年次・学期	F 科	1年前期 必	M科	1年前期 必	S 科	1年前期 必	
必修・選択の別	A 科	1年前期 必	D 科	1年前期 必			
質 問 受 付	随時。マルチメディアネットワークセンター2階研究室						
授 業 概 要							
パーソナルコンピュータを利活用するための基礎知識について学ぶ。コンピュータの基本操作、ファイル操作から始めて、情報の交換方法（電子メール、ファイル共有、クラウドサービスの利用）、情報の収集方法（インターネット上の情報検索）、情報の編集と処理方法（文書作成、データ処理など）を学ぶ。また、コンピュータネットワーク、特にインターネットの基本的な仕組みについて学ぶ。情報に関する知識や技術だけでなく、情報を適切に取り扱うために必要な情報倫理について学ぶ。							
授 業 の 目 標							
一般目標：情報化社会において必要不可欠な情報の基礎知識や情報活用能力を身につける。さらに、情報倫理についての見識を高める。 行動目標：インターネット上に溢れる膨大な数の情報源から、必要な情報を抽出・整理し、目的に応じて処理することができるようになる。							
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1～2	初めに 学内PCの利用方法および情報セキュリティについて学習する コンピュータの基本構成、Windowsの操作、ファイル操作、日本語入力について学習する						
3～4	情報の交換と収集 電子メールおよびファイル共有とクラウドについて学習する インターネット上の情報の種類や検索方法について学習する 情報倫理について学習する						
5～8	情報の編集（Wordによる文書作成） 基本的な文書の作成方法を学習する 図や表、数式を含む文書の作成方法を学習する						
9～12	情報の処理（Excelによるデータ操作） データ集計の基本を学習する グラフの作成や代表的なExcel関数の使用法について学習する						
13～15	ネットワークの仕組み ネットワークの構成やWebサイト閲覧の基本的な仕組みについて学習する TCP/IPによる通信の仕組みについて学習する ネットワークのセキュリティ技術について学習する						
キーワード	コンピュータ、Windows、Word、Excel、インターネット						
教科書 参考書	教科書は指定しない。教材はウェブ上に提示する。						
評価方法 評価基準	課題提出物（80%）および小テスト（20%）により総合的に評価する。 課題提出物、小テストによって授業の理解度・達成度を判定する。						
関連科目	情報科学						
履修要件	なし						
教 育 方 法 ・ そ の 他							
マルチメディアネットワークセンター内の演習室のコンピュータを利用する。							

学 科 目 名	確率統計学 Probability and Statistics		単位数	2単位		
			教員名 メールアドレス	青木邦匡 aoki@fish-u.ac.jp		
	学習・教育到達目標：C (◎)					
履修年次・学期	F科	2年前期又は後期 必	M科	2年前期又は後期 必	S科	2年前期又は後期 必
	A科	2年前期又は後期 必	D科	2年前期又は後期 必		
質問受付時間	随時、三学科共用実験棟2階研究室212					
授 業 概 要						
まず、平均値、分散、相関係数などの基本的な統計量について高校での知識を確認し、その後データ間の 関係を関数で近似するための最小二乗法について学ぶ。つぎに確率・確率分布について学ぶ。最も基本的な 確率分布である2項分布と正規分布について学び、確率の統計への応用において重要な標本の概念について 学び、標本の大きさの意味(大数の法則)、標本平均の近似正規分布(中心極限定理)について理解する。さ らに正規分布の派生分布について概観的な理解を得て統計的推測の学習に備える。統計的推測とは、一部の データから全体を統計的に推測することであり、推定と検定からなる。確率分布や大標本の仮定のもとに各 種の推定や検定ができることを学ぶ。統計的方法の概念的理解を重視するためコンピュータによる演習はし ないが、統計分析の実践において不可欠なコンピュータの使い方を授業でデモンストレーションする。なお、 授業を進めるに当たり、本授業をより理解するために最新の水産に関する研究成果や概要を適宜紹介する。						
授 業 の 目 標						
一般目標:確率統計の基礎的手法を習得する。平均値・分散・相関係数といった基本統計量は計算法、意 味ともに完全に理解する。確率分布を前提とする統計的推測について、基本的な考え方を理解し手法 に共通 するパターンを把握する。 行動目標:応用において適切な手法を選択し適切に使用することができるようになる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
1～3	基本的な統計量:平均、分散、相関係数、最小 2 乗直線について学習する。					
4～7	簡単な数値例について計算ができるようになる。					
	確率と確率分布:確率の基礎事項を学習したあと、					
	離散分布(特に2項分布)と連続分布(特に正規分布)について学習する。					
	大数の法則と中心極限定理を理解する。					
8～15	統計的推測 (推定):点推定、最尤推定、母平均の区間推定、を学ぶ。					
	統計的推測 (検定):母平均と母比率の検定、検定の基本を学ぶ。					
	統計的推測 (検定続き):母平均の差の検定、独立性の検定、を学ぶ。					
	統計的推測 (検定続き):分散分析・一元配置(対応あり、なし)を学ぶ。					
キーワード	確率分布、標本、推定、検定					
教科書 参考書	オンラインテキストをMoodleに掲載する。					
評価方法 評価基準	記述式の期末テスト (70%)と学期中の小テスト(30%)による。 期末テストは講義で扱った基礎的な統計的手法の理解度と実践力を評価する。 小テストは講義で扱った基礎的な概念の理解度と基本的な計算力を評価する。					
関連科目	基礎解析学					
履修要件						
教 育 方 法 ・ そ の 他						
オンライン演習システムにより自習を支援する。						

学 科 目 名	応用物理学 Applied Physics				単位数	2 単位	
	学習・教育到達目標：C（◎），D（○）				教員名	石田武志	ishida@fish-u.ac.jp
					メールアドレス	新居慶太	nii@fish-u.ac.jp
履修年次・学期	F科	2年 後期 必	M科	2年 後期 必	S科	2年 後期 必	
	A科	2年 後期 必	D科	2年 後期 必			
質問受付	(石田) 随時可能、三学科共用実験棟 3 階の教員研究室(310) (新居) 随時可能、三学科共用実験棟 1 階の教員研究室(108)						
授 業 概 要							
水産業に対する啓蒙と動機付けのためには、水産業に用いられる物理の応用例に親しみ、理解する必要がある。1 年生の基礎物理学では力学を中心に学習したが、本科目では、流体力学、熱力学などの基礎とその応用例について学ぶ。水産業における物理に関連する事例を紹介しながら、水産分野における物理的な考え方について学習する。なお、本授業をより理解するために最新の水産に関する研究成果や概要を適宜紹介する。							
授 業 の 目 標							
一般目標：基礎的な物理学の知識を広げるとともに、水産業や生物と物理の関連性を知り、その物理的考え方や水産業で課題となる物理に関連する事例を理解する。 行動目標：物理学の視点で、水産機器や生物の仕組みを考えることができるようになる。							
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	静止流体の力学（圧力、浮力、アルキメデスの原理）を学ぶ（石田）。						
2	完全流体の力学（連続の法則、ベルヌーイの定理）を学ぶ（石田）。						
3	粘性流体の力学（運動量保存則、乱流と層流、レイノルズ数）を学ぶ（石田）。						
4	粘性流体の力学（抵抗、境界層）を学ぶ（石田）。						
5	生物と流体力学（流体力学の視点からみた生物の形態）（石田）						
6	流体力学分野のまとめと分野別課題（石田）。						
7	熱力学とは？（新居）						
8	物理学で用いる数学 1：多変数関数の微分（新居）						
9	物理学で用いる数学 2：偏微分と全微分（新居）						
10	熱力学と気体分子運動論，理想気体の状態方程式，温度計の仕組み（新居）						
11	熱力学的温度と熱力学第 0 法則，熱の伝わり方（新居）						
12	熱と熱力学第 1 法則（新居）						
13	カルノーサイクルと熱力学第 2 法則（新居）						
14	カルノーの定理とカルノーの最大熱効率（新居）						
15	熱力学の応用・分野別課題：内燃エンジンやヒートポンプの仕組み（新居） 【講義の順序は変更する場合がある】						
キーワード	流体力学、流体機械、熱力学、伝熱工学、電磁気学						
教科書 参考書	『物理学基礎（第 5 版）』原 康夫著（学術図書出版社 2016/10 発売） 必要に応じて資料を配布する。						
評価方法 評価基準	評価方法：流体分野（石田）と熱分野他（新居）の比を2:3とし、両分野において、授業時の小テストを30%、分野別課題（テスト）70%の比率で、授業目標についての理解度、達成度を総合的に判定する。 評価基準：水産業と物理との関りや思考過程や論理性、等を総合的に評価する。						
関連科目	基礎解析学、基礎物理学、（M科は）流体力学、熱力学						
履修要件	高校の時に物理学を履修にできなかった者、数理系科目が不得意だった者は、水産数理科学基礎セミナー(物理)を履修することが望ましい。						
教 育 方 法 ・ そ の 他							
Moodleを活用した講義を行うため、対面授業であっても必ずMoodleの授業ページを確認して下さい。 前提知識はなるべく仮定せず講義を行います。講義を通して物理だけでなく、微分・積分などの基礎的な数学力を身につけることを目標とする。							

学 科 目 名	技術者倫理 Introduction to Engineering Ethics				単位数	2 単位	必修		
	学習・教育目標：B・E（◎）、 A・F・I（○）				教員名 メールアドレス	石田武志: ishida@fish-u.ac.jp 杉野亮介: r-sugino@fish-u.ac.jp 杉浦義正: ysugiura@fish-u.ac.jp 安本信哉: yasumotos@fish-u.ac.jp 藤井陽介: fujii@fish-u.ac.jp			
履修年次・学期	F科	2 年	後期 必	M科	2 年	後期 必	S科	2 年	後期 必
	A科	2 年	後期 必	D科	2 年	後期 必			
質 問 受 付	随時可能、三学科共用実験棟 3 階教員研究室(310)								
授 業 概 要									
科学技術の進展は、人々の生活の質の向上を果たす一方で、科学技術がもたらす危険性も大きなものとなってきた。科学技術を扱う技術者は、安心で安全な社会の実現や持続可能な社会の実現のために、専門知識の習得だけではなく、倫理的な観点からの判断・行動規範を身に付ける必要がある。さらに、それらを踏まえて、与えられた制限の中で、科学・技術に関する知識や種々の情報を利用して、問題を明確にとらえ、最も適切な解決策や方法を見つけていく能力（エンジニアリングデザイン能力）を、グループによる問題解決型学習（PBL）で習得する。									
授 業 の 目 標									
一般目標：科学技術が社会に与える影響、技術者の法的責任を理解するとともに、重大事故や失敗事例から学び、技術者としての適切な判断を選択することができるようになる。さらに、グループによる問題解決型学習（PBL）を通じて、エンジニアリング能力を習得する。									
行動目標：グループ学習においては、グループ内のメンバーと連携して、課題の把握、情報収集、問題解決方策の提案が的確にできるようになる。さらに学習到達基準を自ら意識して、達成していくことができるようになる。									
回	授 業 計 画 ・ 内 容								
1	なぜ「技術者倫理」を学ぶ必要があるのかを理解する（石田）								
2	技術者倫理の概要を学ぶ（倫理とモラル、技術者と技術者倫理、科学技術と倫理）（石田）								
3	技術倫理が生まれた歴史を理解する（安全確保の潮流と技術倫理の誕生）（石田）								
4	技術者倫理の実践(1)（組織と技術者、利益相反、企業風土、集団思考）（石田）								
5	技術者倫理の実践(2)（技術者の法的責任、PL法、コンプライアンスと倫理）（石田）								
6	技術者倫理の実践(3)（情報と技術者、警笛鳴らし（内部告発）、知的財産権）（石田）								
7	技術者倫理の実践(4)（技術者とリスク、リスクマネジメント、生命倫理）（石田）								
8	PBLの実施方法（PBLの進め方、PBLに必要な知識、班分け、評価方法）（石田）								
9	課題の設定（課題の設定、情報機器の解説、班ごとのディスカッション）（全教員）								
10	課題解決のためのアイデア抽出（アイデア抽出法の解説、班別ディスカッション）（全教員）								
11	課題解決のための具体的な方策の検討（学術情報等の収集方法説、班別の作業）（全教員）								
12	中間報告（班ごとに教員に中間報告を行う、教員とディスカッション）（全教員）								
13	企画提案の修正、最終的な内容のまとめ（企画提案書のとりまとめ法、班別作業）（全教員）								
14	発表資料のとりまとめ（効果的な発表方法の解説。班ごとに、発表資料の作成）（全教員）								
15	最終報告（発表会）（全教員）								
キーワード	科学技術、プロフェッショナルエンジニア、倫理、技術者倫理、工学倫理、リスク、法的責任、エンジニアリングデザイン能力、グループ学習、コミュニケーション能力								
教科書 参考書	教科書：授業時に指示する書籍、その他資料（プリント）を適宜配布する。 参考書：大学講義 技術者の倫理入門（第5版）（杉本 泰治、高城 重厚著、丸善出版） 技術者倫理入門—JABEE対応（小出 泰士著、丸善出版）								
評価方法 評価基準	評価方法：前半8回は、期末試験評点（35%）、レポート・小テストの評点(15%)で判定する。後半7回は、ルーブリック評価表（学習達成度の目安を数段階に分けて示した表）を用いて教員評価、グループ間の相互評価、自己評価を複合的に判定する（50%）。 評価基準：期末試験・小テストは基礎的知識の習得度で評価する。レポート課題は、倫理問題に対する理解力、分析力、考察力などを基準とする。後半のグループによる問題解決型学習においては、ルーブリック評価表に示す基準（詳しくは授業時に説明）により評価する。								
関連科目	環境倫理								
履修要件	特になし								
教 育 方 法 ・ そ の 他									
技術者倫理の基本的知識の説明に加えて、毎回、事件や事故事例を取り上げ、技術者倫理の観点から解説を行う。さらにこれらの事例等について分析や考察に関して、予習・復習のためのレポートや小テストを課す。グループ学習においては、学習到達基準を自ら意識して、達成していくことが求められる。									

学 科 目 名	応用生物学 Applied Biology				単位数	2単位		
	学習・教育到達目標：C（◎），D（○）				教員名	阿部真比古 abemahi@fish-u.ac.jp		
					メールアドレス	吉川廣幸 yoshikawa@ 山田太平		
履修年次・学期	F科	2年	前期	必	M科	2年	前期	必
	A科	2年	前期	必	D科	2年	前期	必
質 問 受 付	随時，担当教員の各研究室，阿部（二学科共用実験棟 314），吉川（同 121），山田（同 117）							
授 業 概 要								
水産業の実態，水産基本法をはじめとする重要な水産施策，国際的な水産事情など実学としての水産学を理解する上で必要となる生物学的な基礎知識を学習する。水産物といえども，生物進化や地球生態系という自然科学上の観点を無視することができないことを理解し，その上で，将来的に水産資源を絶やさないため，資源や環境の管理，資源の涵養，水産物の安定供給，水産生物に関わる情報の活用が必要であることを理解する。これらの各分野における基本的な理論，専門用語の意味を学習する。								
授 業 の 目 標								
一般目標：水産におけるあらゆる分野が生物学との関わりを持つことを理解し，生物学的な素養の重要性を学習する。 行動目標：水産流通，海洋生産，海洋機械，食品科学等の分野と生物学との具体的な関わりについて理解できるようになる。								
回	授 業 計 画 ・ 内 容							
	1 ガイダンス；生物学を応用した水産研究の事例を学習する。（全教員） 2 生物進化と地史の概要を学習する。（阿部） 3 現在の地球環境と生物の分布を学習する。（阿部） 4 適切な資源管理・水産物流通に必要な水産植物の分類・名称・分布を学習する。（阿部） 5 水産植物資源の生育環境・機能・構造を学習する。（阿部） 6 工学的手法による漁場環境改善を学習する。（阿部） 7 生物機能を利用した漁場環境改善を学習する。（阿部） 8 適切な資源管理・水産物流通に必要な魚介類の分類・名称・分布を学習する。（吉川） 9 水産物の人や動物への健康効果を学習する。（吉川） 10 安心・安全な水産物の供給技術を学習する。（吉川） 11 魚介類資源の生息環境・機能・構造を学習する。（山田） 12 水産生物の増養殖・種苗生産技術を学習する①。（山田） 13 水産生物の増養殖・種苗生産技術を学習する②。（吉川） 14 水産資源を維持・増大させるための技術を学習する。（吉川） 15 まとめ（全教員）							
キーワード	水産生物，水産基本法，水産基本計画，水産白書，水産への生物学の応用							
教科書 参考書	教科書：特に用いず，教員が作成したプリントを配布する。 参考書：配布プリントあるいは板書にて適宜紹介する。							
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験（80%）と小テスト（20%）で総合的に判定する。 評価基準：期末試験と小テストによって授業目標についての理解度，達成度を評価する。							
関連科目	基礎生物学をはじめ，各学科の生物関連の専門科目							
履修要件	特になし。							
教 育 方 法 ・ そ の 他								
毎回の授業においては，最新の水産事情がわかるようにする。写真やイラストなどを有効に使い，また，すべての学科の学生が興味を持てるよう，各学科との具体的な関わりをわかりやすく示す。								

学 科 目 名	水産化学 Fisheries Chemistry		単位数	2単位	必
	学習・教育目標：D（◎）		教員名	宮崎泰幸 taiko94@d.fish-u.ac.jp	
			メールアドレス		
履修年次・学期	F科：2年 前期	M科：2年 前期	S科：2年 前期		
	A科：2年 前期	D科：2年 前期			
質 問 受 付	毎回の質問用紙、講義の後ほか随時 共同研究棟2階の研究室（共同研究棟208号室）				
授 業 概 要					
陸上とは環境の大きく異なる水中に生息する水産生物は、多くの面で特異的な生理機能を有し、それに伴い特徴的な化学成分を有する。そこで、“水産に携わる者”として少なくとも知っておくべき水産生物の化学成分を学習する。公務員試験でも頻出の化学成分でもある。本授業をより理解するために最新の水産に関する研究成果や概要を適宜紹介する。					
授 業 の 目 標					
一般目標：食育の推進のため、魚介類の化学成分を理解し、それらを問題解決に応用できる能力を養う。 行動目標：①魚介類の組成とその構成成分を説明できる。②魚介類の主要タンパク質を説明できる。③魚介類の脂質成分を説明できる。④魚介類の糖質を説明できる。⑤魚介類のエキス成分を説明できる。⑥主要な魚介類の色素を説明できる。⑦魚介類由来の主な生理活性物質にどのようなものがあるかを説明できる。					
回	授 業 計 画 ・ 内 容				
	1 魚介類の組成とその構成成分を知る。（予習キーワード:魚介類の旬） 2 魚介類のタンパク質とその機能を知る。1（：血合筋、赤身魚、白身魚） 3 魚介類のタンパク質とその機能を知る。2（：筋収縮、筋原繊維、蒲鉾、筋形質タンパク質） 4 魚介類のタンパク質の性質を知る。（：ゼラチン、コラーゲン） 5 魚介類の脂質成分とその分布を知る。（：高度不飽和脂肪酸、ワックス） 6 魚介類の脂質の性質と意義を知る。（：固体か液体か？、生命維持・浮力） 7 魚介類の糖質を知る。（：グリコーゲン、食物繊維） 8 魚介類の代謝の特異性を知る。（：浸透圧、糖質利用能、ミネラル） 9 魚介類のエキス成分を知る。1（：アミノ酸、ペプチド、ペタイン類等） 10 魚介類のエキス成分を知る。2（：トリメチルアミノオキサイド、オピン類、尿素等） 11 魚介類のエキス成分を知る。3（：ヌクレオチド、有機酸等） 12 魚介類の色素を知る。1（：カロテノイド等） 13 魚介類の色素を知る。2（：ミオグロビン等） 14 魚介類由来の生理活性物質を知る。（：EPA、コンドロイチン硫酸、キチン・キトサン） 15 まとめ				
キーワード	魚介類のタンパク質、魚介類の脂質、魚介類の糖質、魚介類のエキス成分、魚介類の色素、魚介類由来の生理活性物質				
教科書 参考書	参考書：食物と健康の科学シリーズ 魚介の科学／阿部宏喜 編／朝倉書店、改訂版 新水産ハンドブック／川島利兵衛ほか編／講談社サイエンティフィク、水産生物化学／山口克己編／東京大学出版会 プリントをMoodleで配布する。				
評価方法 評価基準	評価方法：期末テスト評点（80％）、復習小テスト（20％）で判定する。 評価基準：テストについては、授業目標についての理解度、達成度を評価する。				
関連科目	水産食品科学、食品化学、生物化学、海洋天然物化学、有機化学、酵素化学、食品機能学				
履修要件	特になし。				
教 育 方 法 ・ そ の 他					
Moodle、メールでも随時質問を受け、次回の講義でそれに対する解説を行う時間を設けるなど、緊密なコミュニケーションを図ることにより、講義が一方通行にならないようにするとともに理解度を上げる。また、予習・復習として毎回の要点等をまとめる宿題（オンデマンドMoodle）を課し、自発的な学習を促す。Moodleで復習小テストを2回程度行う。さらに独自の無記名記述式アンケートをとり、講義の改善に利用する。高校化学未履修者でも理解できるよう留意した内容とする。					

学 科 目 名	水産経済学Ⅰ Fisheries EconomicsⅠ				単位数	2 単位		
	学習・教育到達目標：A（◎）				教員名	大谷 誠 mohtani@fish-u.ac.jp		
					メールアドレス	甫喜本 憲 hokimoto@fish-u.ac.jp		
履修年次・学期	F科	1年	前期	必	M科	1年	前期	必
	A科	1年	前期	必	D科	1年	前期	必
質問受付	随時 水産情報館2階研究室1							
授 業 概 要								
水産経済学は、水産業を経営経済的側面や地域社会的側面から捉える社会科学に属する学問である。本 科目では、水産経済学を基礎から学習することで、水産業を構成する各分野の特徴を体系的に理解する とともに、水産業を産業的社会的な視点から捉えることができる能力を身につける。なお、授業を進め るに当たり、本授業をより理解するために最新の水産に関する研究成果や概要を適宜紹介する。								
授 業 の 目 標								
一般目標：水産業の産業的社会的特徴とその発展の経緯、制度を理解する。さらに日本の水産業をめぐ る国際的な動き及び国内的な動きの現状認識に立って、今後の水産業のあり方を考察できる 力を習得する。 行動目標：①水産業を構成する各分野の特徴を説明できる②水産業を体系的に説明できる③日本の水産 業の産業的社会的な課題を説明できる。								
回	授 業 計 画 ・ 内 容							
1	オリエンテーション（大谷）							
2	水産物の需要と供給を理解する（大谷）							
3	漁業生産構造を理解する（大谷）							
4	水産業の制度を理解する（大谷）							
5	水産経営を理解する（大谷）							
6	漁業就業構造を理解する（大谷）							
7	漁業管理と管理政策を理解する（大谷）							
8	水産業の国際問題（漁業管理や貿易）を理解する（大谷）							
9	漁協・漁業者団体を理解する（甫喜本）							
10	養殖業と栽培漁業の特徴を理解する（甫喜本）							
11	水産物流通の構造を理解する（甫喜本）							
12	水産物加工業を理解する（甫喜本）							
13	地域の水産振興を理解する（甫喜本）							
14	日本の水産政策を理解する（甫喜本）							
15	まとめ（甫喜本）							
キーワード	生産構造、水産制度、漁業経営、漁業制度、漁業管理、水産物需給、水産物流通、漁協							
教科書 参考書	教科書：必要に応じてプリントを使用し、毎授業時間に配布する 参考書：「ポイント整理で学ぶ水産経済」廣吉勝治・佐野雅昭編著（北斗書房）							
評価方法 評価基準	評価方法：中間レポート評点（50％）、期末レポート評点（50％）で評価する 評価基準：レポートについては授業目標に対する理解度、達成度を評価する							
関連科目	水産経済学Ⅱ							
履修要件	特になし							
教 育 方 法 ・ そ の 他								
随時、授業内容の理解度を確認する小テストを行い、授業の復習が習慣化するようつとめる。								

学 科 目 名	水産学概論－初めての水産学－ Fisheries Study for the Beginner				単位数	2 単位	必					
	学習・教育到達目標：A (◎)、B (○)、C (○)、D (○)、E (○)				教員名 メールアドレス	担当：甫喜本憲hokimoto@fish-u.ac.jp (水産流通経営学科) 理事 (水大校代表) 理事 校長、学生部長、各学科長、水産学研究科長、実習教育センター長、練習船船長						
履修年次・学期	F科	1年	前期	必	M科	1年	前期	必	S科	1年	前期	必
	A科	1年	前期	必	D科	1年	前期	必				
質問受付	随時、理事（水産大学校代表）、理事、校長、学生部長、各学科長、水産学研究科長 実習教育センター長が対応。成績・出欠等は、三学科共同棟211（甫喜本）											
授 業 概 要												
入学して初めて大学の授業として水産学を学ぶ学生に、水産学の初歩と解決すべき問題点等を専門学科の立場から易しく解説し、4年間の大学教育を有意義に受講できる基礎的な知識と水産人となる心構えなどを身に付けさせる授業である。水産大学校の理念や水産行政との関わりなどを本学理事（水大校代表）、水産研究教育機構理事及び校長、学生部長が直接学生に語りかけるとともに、各学科の専門教育は学科長、練習船教育は実習教育センター長、耕洋丸と天鷹丸の船長、水産学における研究活動は研究科長がそれぞれ講義する。また、授業を進めるに当たり、本授業をより理解するために最新の水産に関する研究成果や概要を適宜紹介する他、スマート水産業に関連した内容についても触れる。												
授 業 の 目 標												
一般目標：本校が行っている水産教育の社会・産業的意義を理解し、各学科・研究科の専門教育、練習船での船員教育を体系的に理解する。4年間にわたる本校での学生生活、及び卒業後の水産人としての生活に必要な水産全般にわたる基礎的な知識や考え方を身につけ、問題意識を持つとともに自らのキャリアデザインを考える。												
行動目標：①水産大学校の役割を説明できる。②自身のキャリアデザインと水産大学校で学ぶことを思い描くことができる。③5学科・練習船・研究科の教育概要について説明できる。④エンジニアリングデザインとは何かを説明できる。												
回	授 業 計 画 ・ 内 容											
1～2	水産大学校で学ぶことを理解する（代表理事・流通経営講座講座長）											
3～4	水産大学校の理念・役割、水産行政との関わりを理解する（水産研究教育機構理事・流通経営講座講座長）											
5	水産業のフードシステムを理解する（水産流通経営学科・流通経営講座講座長）											
6	上手な魚の獲り方－水産資源と漁業のあり方を理解する（海洋生産管理学科長）											
7	水産に関連した機械について学び、機械工学の果たす役割を理解する（海洋機械工学科長）											
8	海や川の環境を大切にして水産動植物を増やし育てる方法を理解する（生物生産学科長）											
9	食品としての水産物の重要性を理解する（食品科学科長）											
10	練習船の概要と乗船実習、実習内容、船内生活について学ぶ（耕洋丸船長、天鷹丸船長、実習教育センター長）											
11	水産学における研究と研究不正とは何かを理解する（水産学研究科長）											
12	本校の歴史を理解する（校長）											
13	エンジニアリングデザインとキャリアデザインを考える（学生部長）											
14～15	水産世界の広がりを理解する（前代表理事・流通経営講座講座長）											
キーワード	水産教育、水産物流通、漁業管理、増養殖、食品加工、水産機械、乗船実習、水産技術											
教科書 参考書	講義する講師が、各自用意する。											
評価方法 評価基準	講義ごとに提出されたレポートから総合的に判定する（100％）。いずれも評価の基準は、授業目標への理解度、達成度である。											
関連科目	専門学科の専門科目全て											
履修要件	講義を聞くだけでなく、積極的に学生も講義に参加して質問を行ってもらう。											
教 育 方 法 ・ そ の 他												
基本的には講義形式であるが、必要に応じてビデオやパンフレット、Moodleも使用。諸般の事情で、講義の講師や順番が替わることもある。												

学 科 目 名	海と漁業生産				単位数	2 単位			
	Fundamentals of Fisheries Science and Technology				教員名 メールアドレス	下川伸也 simokawa@fish-u.ac.jp			
	学習・教育到達目標： A (◎)・D (◎)・E (◎)					毛利雅彦 mmohri@fish-u.ac.jp 柏野祐二 kashinoy@fish-u.ac.jp 梶川和武 kajikawa@fish-u.ac.jp 酒出昌寿 sakaide@fish-u.ac.jp			
履修年次・学期	F 科	1 年 後期 必		M 科	1 年 後期 必		S 科	1 年 後期 必	
	A 科	1 年 後期 必		D 科	1 年 後期 必				
質 問 受 付	後期 授業実施曜日 1 6 時以降 各教員研究室								
授 業 概 要									
漁業生産システムにおける漁船の航海・運用、漁具・漁法、漁業情報、海洋環境、海洋資源についての役割を把握し、漁船及び漁業生産についての基礎的な知識、技術について学習する。また、授業を進めるに当たり、本授業をより理解するために最新の水産に関する研究成果や概要を適宜紹介する。									
授 業 の 目 標									
一般目標：海と陸をつなぐ漁業生産、すなわち食糧生産を担う導入教育の科目として位置づけ、海洋・水産に関する幅広い知識と技術を理解する。									
行動目標：漁船の安全運航、水産資源の持続的生産と利用、海況および水産資源変動に関する基礎的知識が説明できるようになる。									
回	授 業 計 画 ・ 内 容								
1	海と漁業生産の講義の概要、海と陸をつなぐ漁業生産について理解する。(下川)								
2	漁船の定義、漁船の種類、船内の職務分掌、船務当直について理解する。(下川)								
3	安全運航のための操船法、保安応急法、海上遭難救助システムについて理解する。(下川)								
4	漁具漁法の分類や漁獲機構について学び、漁業生産技術について理解する。(梶川)								
5	我が国の漁業制度と資源管理制度について、理解する。(梶川)								
6	持続的な漁業生産技術に関する漁具の漁獲選択性について理解する。(梶川)								
7	漁業資源に対するサンプリングの視点から漁業情報および漁法の基礎を理解する。(毛利)								
8	漁業資源を持続的に生産するため漁業情報からみた資源管理の概要について理解する。(毛利)								
9	高度回遊性魚類を例とした漁業情報の現状と将来展望について理解する。(毛利)								
10	本校練習船の実習航海を辿りながら、航海に必要な基本的事項について理解する。(酒出)								
11	安全な航海を行うための基礎知識や最新技術の概要を理解する。(酒出)								
12	沿岸海域での漁船と一般航行船舶の競合に関する実態を理解する。(酒出)								
13	海の基本構造について理解する。(柏野)								
14	海洋構造と水産資源の関係について理解する。(柏野)								
15	海流と水産資源の関係について理解する。(柏野)								
キーワード	漁業生産、漁船、航海、漁具・漁法、漁業情報、海洋環境、海洋資源								
教科書 参考書	参考書：「海事一般がわかる本」山崎祐介著（成山堂）、「地文航海」長谷川健二・平野研一 共著（海文堂）、「最新漁業技術一般」野村正恒著（成山堂）、「海洋学」Paul R. Pinet 著・ 東京大学海洋研究所監訳（東海大学出版会）、「海の教科書」柏野祐二著（講談社ブルーバックス）								
評価方法 評価基準	評価方法：各教員に提出したレポートもしくは小テストの評点を合計して100%で評価する。 評価基準：レポートについては、授業目標についての理解度、達成度を評価する。								
関連科目	水産学概論、海と船、地文航海学Ⅰ、漁具漁法学概論、海洋物理学、水産資源環境学、漁業計測学、資源管理論、漁業情報解析学								
履修要件									
教 育 方 法 ・ そ の 他									
学生による質問を積極的に受け、授業に反映する。基本的には講義形式であるが、必要に応じてプリントを配布、またプロジェクターを利用して理解度を深める。									

学 科 目 名	水産経済学Ⅱ Fisheries Economics II				単位数	2 単位						
	学習・教育目標：A（◎）D（○）				教員名 メールアドレス	甫喜本憲 hokimoto@fish-u.ac.jp 流通経営講座教員 （大谷、児玉、佐々木、西村、藤井、刀禰）						
履修年次・学期	F科	1年	後期	必	M科	1年	後期	必	S科	1年	後期	必
	A科	1年	後期	必	D科	1年	後期	必				
質問受付	授業中及び担当教官の指定する時間、担当教員の研究室											
授 業 概 要												
水産業を社会科学の各専門領域にわけ、それぞれの基礎的な知識や考え方について学習する。特に流通面、経営面を柱に、時事的な事象と学問的見解をあわせて包括的に理解する。なお、授業を進めるに当たり、本授業をより理解するために最新の水産に関する研究成果や概要を適宜紹介する。												
授 業 の 目 標												
一般目標：講義を通じて社会科学の基本的な考え方と水産業の現状や課題を構造的に理解する。 行動目標：水産業の課題と対応策を現実的な観点から考察できるようになる。												
回	授 業 計 画 ・ 内 容											
1	目的・課題・授業運営のガイダンス（甫喜本）											
2・3	水産業と漁業協同組合の関係について理解する（甫喜本）											
4・5	〃 の就業問題について理解する（大谷）											
6・7	〃 における資源管理について理解する（西村）											
8・9	〃 における流通の課題を理解する（刀禰）											
10・11	〃 と地域振興について理解する（藤井）											
12・13	〃 と水産行政について理解する（児玉）											
14・15	〃 における国際関係について理解する（佐々木） ＜注意：諸般の事情で、講義の順番が替わることがある＞											
キーワード	水産業、水産物流通、漁業経営、水産物消費、地域構造、漁業就業、情報化											
教科書 参考書	参考書：「水産白書」水産庁編（農林統計協会）、「漁業センサス」、「漁業養殖業生産統計年報」（農林水産省など） ・授業に沿ったレジュメ、プリントを配布する。											
評価方法 評価基準	評価方法：定期試験は実施しない。担当教員が課すレポートで評価する(100%)。 評価基準：授業目標についての理解度、達成度を評価する。											
関連科目	水産流通経営学科が開講する専門科目											
履修要件	特にないが、基本的に配当年次に受講すること。											
教 育 方 法 ・ そ の 他												
パワーポイントやDVDも使用する。質問や相談は、担当する教員に直接聞くことを原則とする。 各回の講義でその都度課題の指示があるので、それに従うこと。												

学 科 目 名	海洋環境と機械 Ocean Environmental and Mechanical Engineering				単位数	2 単位		
	学習・教育到達目標：A（◎），C・D（○）				教員名 メールアドレス	石田武志 ishida@fish-u.ac.jp 大原順一 ohara@fish-u.ac.jp 山西 大 yamanishi@fish-u.ac.jp		
履修年次・学期	F 科	1 年	後期	必	M 科	1 年	後期	必
	A 科	1 年	後期	必	D 科	1 年	後期	必
質問受付時間	石田：昼休み（12：10～12：50），三学科共用実験棟 3 階教員研究室（310号室） 大原：随時，三学科共用実験棟 3 階教員研究室（305号室） 山西：昼休み（12：30～13：00），三学科共用実験棟 3 階教員研究室（309号室）							
授 業 概 要								
水産業や海洋環境の持つ多面性の中で，地球環境問題と機械工学との関わりを中心とした境界領域について学習する。具体的には，循環型社会の実現条件，海洋工学，海洋環境保全技術，機関工学，海洋エネルギーの有効利用と水産への応用等について理解する。								
授 業 の 目 標								
一般目標：我が国水産業の持続的な維持を図るため，循環型社会の実現の視点も含めて，水産業の振興や海洋環境保全に多面的に関わる機械工学の技術に関する知識を修得する。 行動目標：循環型社会の実現の視点から水産業を考える視座を得るとともに，そのための機械技術的な課題とその展望を説明できるようになる。								
回	授 業 計 画 ・ 内 容							
1	「エントロピー」、「エクセルギー」を理解する：（石田）							
2	気象も生命も「熱機関」とみなせる（「エントロピー」の視点でみる）：（石田）							
3	生命・都市・文明はなぜ生まれて進化するのか（「散逸構造」の視点でみる）：（石田）							
4	持続可能な文明の条件とは：（石田）							
5	将来のシナリオを考える、中間試験（石田担当部分）：（石田）							
6	海洋エネルギーの種類や特徴について理解する：（大原）							
7	海洋熱エネルギーについて理解する：（大原）							
8	海洋エネルギーの水産への応用について理解する：（大原）							
9	海洋エネルギー利用の将来展望について理解する：（大原）							
10	中間試験（大原担当分）：（大原）							
11	船には何故エンジンが必要か。エンジンの種類と機能（性能）：（山西）							
12	化石燃料によるエネルギーの生成と利用技術：（山西）							
13	船舶用エンジンによる大気汚染の現状と対策：（山西）							
14	大気汚染物質と GHG（温室効果ガス）の低減技術：（山西）							
15	中間試験（山西担当分）：（山西）							
キーワード	漁船用エンジン，燃料の燃焼，漁船による大気汚染，大気汚染物質の低減技術，海洋エネルギー，海洋環境保全技術，海洋資源，海洋探査，環境シミュレーション，循環型社会							
教科書 参考書	教科書：プリントを毎授業時間に配布する。 参考書：『海洋エネルギー利用技術』（上原春男ほか著，森北出版，1996）， 『再生可能エネルギーによる循環型社会の構築』（石田武志著，成山堂書店，2020） 『エネルギー変換工学』（西川兼康ほか著，理工学社，1995） その他講義中に担当教員より適時紹介する。							
評価方法 評価基準	評価方法：各教員ごとに、授業時の課題（30%）、中間試験（70%）で評価し、各教員の評価を1/3の重みで加重平均して総合点を算出する。 評価基準：レポートによって授業目標についての理解度の確認を行い，中間試験で達成度の確認を行う。							
関連科目	水産学概論、海洋水産機械学概論等の水産・海洋に関連する科目							
履修要件	パソコンを用い，視覚的な授業を行うよう心がける。講義を聴くだけでなく，積極的に学生も講義に参加し，質問を行ってもらふ。							
教 育 方 法 ・ そ の 他								
学生による授業評価，質問を頻繁に受け，対話型講義を心がける。基本的には講義形式であるが，ビデオや部品，パンフレットなどを使用する。その他，予習・復習のため適宜レポート提出を課す。								

学 科 目 名	水産資源論				単位数	2 単位	必修選択の別	必
	Introductory Fisheries Biology, Assessment and Management				教員名 メールアドレス	若林敏江	twakaba@fish-u.ac.jp	
	学習・教育到達目標：A（◎），C・D（○）					毛利雅彦	mmhori@fish-u.ac.jp	
						柏野祐二	kashinoy@fish-u.ac.jp	
						梶川和武	kajikawa@fish-u.ac.jp	
						中村武史	tnakamura@fish-u.ac.jp	
						矢野寿和	tskzyn@fish-u.ac.jp	
履修年次・学期	F 科	1 年	後期	必	M 科	1 年	後期	必
	A 科	1 年	後期	必	D 科	1 年	後期	必
質 問 受 付	講義前後または平日 9 時～17 時、各教員研究室 三学科共用実験棟 若林（406）、毛利（312）、梶川（412）、中村（311）、矢野（407） 海洋生産実験・教室棟 1 階 柏野							
授 業 概 要								
水産資源の特徴、生活史、生態を理解し、持続的利用のために、どのように資源を評価し管理していくかについての基礎を学ぶ。本授業をより理解するために、水産資源を対象とした様々な研究法や最新の研究成果について紹介し、水産資源に対する理解を深める。								
授 業 の 目 標								
一般目標：水産資源の特徴、その分類や生態などの基礎知識をつけ、水産資源の変動要因、評価法、管理、利用について学ぶための基本姿勢を固める。								
行動目標：水産資源を適切に利用するために必要な資源の特徴、評価、管理の一連の流れについて説明ができる。								
回	授 業 計 画 ・ 内 容							
1	水産資源の特徴について学習する。（若林）							
2～4	水産生物の生活史の特性について学習する。（若林・矢野）							
5・6	資源変動と生活史の関連について学習する。（若林・矢野）							
7	資源解析・評価の基礎について学習する。（若林）							
8	資源管理について学習する。（若林）							
9	気候変動と水産資源について学習する。（柏野）							
10	持続的な資源の利用方法について学習する。（梶川）							
11	水中音響技術による生態系のモニタリングと資源評価法について学習する。（中村）							
12	漁場環境からみた高度回遊性魚類の資源管理について学習する。（毛利）							
13	無脊椎動物を例とした資源研究について学習する。（若林）							
14	板鰐類を例とした資源研究について学習する。（矢野）							
15	全体の復習とまとめを行う。（若林）							
キーワード	水産資源、生活史、変動要因、資源評価、資源管理							
教科書 参考書	参考書：「水産白書」、「水産資源学総論」田中昌一著（恒星社厚生閣）							
評価方法 評価基準	評価方法：1～8、15 回は、期末試験（60％）、9～14 回は、レポート・小テスト（40％）により判定する。 評価基準：期末試験については、水産資源全般にかかわる幅広い知識についての習得度を評価する。レポート・小テストでは専門技術の基礎知識の理解度を評価する。							
関連科目	各学科で開講される資源関連科目							
履修要件	特になし							
教 育 方 法 ・ そ の 他								
講義形式であるが、スライドの利用、プリントの配布などビジュアルを多用し、受講者の知的好奇心を喚起する。予習・復習のための課題を与える。								

学 科 目 名	食品安全利用学 Food Safety Utilization Sciences				単位数	2 単位		必				
	学習・教育到達目標：A（○）， D（◎）				教員名	和田律子 watsuko@fish-u.ac.jp 大久保誠 ookubo@fish-u.ac.jp 谷口成紀 yaguchi@fish-u.ac.jp 辰野竜平 tatsuno@fish-u.ac.jp						
					メールアドレス							
履修年次・学期	F科	1年	前期	必	M科	1年	前期	必	S科	1年	前期	必
質問受付時間	A科	1年	前期	必	D科	1年	前期	必				
随時 二学科共用実験棟 和田（3階306），大久保（1階104），谷口（1階110），辰野（4階403）												
授 業 概 要												
水産食品の安全性、利用・加工性などに関する科学と技術について総合的に学習する。												
授 業 の 目 標												
一般目標：水産物を食品として安全に利用・加工するための概略を理解する。 行動目標：・食品リサイクル等の社会的問題を通して、幅広い視点から食品の利用について説明できるようになる。（A） ・水産物の品質に関係する要因、加工品の製造方法やその特徴などを説明できるようになる。（D） ・食品の安全性や食中毒について説明できるようになる。（D）												
回	授 業 計 画 ・ 内 容											
1	授業概要、食品ロスについて理解する。【和田】（予習キーワード：食品ロス）											
2	食品リサイクル法について理解する。【和田】（食品リサイクル法）											
3	水産物の付加価値化による利用について理解する。【和田】（水産エコラベル、低利用魚）											
4	食品の美味しさと物性の関係について理解する。【和田】（テクスチャー、レオメーター）											
5	水産タンパク質の変化のメカニズムを理解する。【大久保】（食品と生化学）											
6	水産物の品質について理解する①。【大久保】（食品加工と生物化学）											
7	水産物の品質について理解する②。【大久保】（鮮度と生物化学）											
8	水産物の品質について理解する③。【大久保】（旬と生物化学）											
9	食品加工の目的と意義を理解する。【谷口】（食品の機能）											
10	水産食品の加工技術を理解する。【谷口】（水産加工食品）											
11	畜産物、穀物、野菜・果物などの水産物以外の加工技術を理解する。【谷口】（畜産加工、デンプン、漬物、フリーズドライ）											
12	食品加工による品質の保持技術を理解する。【谷口】（品質保持技術、食品包装）											
13	食品の安全性確保について学習する。【辰野】（食品の安全）											
14	細菌を原因とした食中毒について理解する。【辰野】（細菌性食中毒）											
15	自然毒を原因とした食中毒について理解する。【辰野】（動物性自然毒）											
キーワード	食品の美味しさ、水産タンパク質、品質変化、食品加工、食品衛生、食中毒											
教科書 参考書	教科書：プリントを配布する。 参考書：全国水産加工品総覧（光琳）、食品とテクスチャー（光琳）、新・食品衛生学（恒星社厚生閣）、新しい食品加工学（南江堂）											
評価方法 評価基準	評価方法：期末テスト（80％）小テスト（20％）で判定する。 評価基準：テストについては、授業の目標についての理解度，達成度を評価する。											
関連科目	水産食品科学，情報科学（S），食品科学科で開講される専門教育科目											
履修要件	なし											
教 育 方 法 ・ そ の 他												
パワーポイント、プリントなどを用いて講義する。広い視野から水産食品の品質や加工、衛生に関する内容を理解できるよう、水産生物特性や漁業生産技術、養殖生産技術、流通システム、消費動向などとも関連させながら講義する。												

学 科 目 名	海洋水産機械概論		単位数	2 単位	必	
	Introduction to Ocean Fishery Machinery		教員名 メールアドレス	太田博光	ohta@fish-u.ac.jp	
	学習・教育到達目標：C（○）， D（◎）			石田武志	ishida@fish-u.ac.jp	
履修年次・学期	F科	1年 後期 必	M科	1年 後期 必	S科	1年 後期 必
	A科	1年 後期 必	D科	1年 後期 必		
質問受付	担当教員の各研究室もしくは上記の教員名メールアドレス宛に問合せの事。					
授 業 概 要						
水産・海洋と機械工学や情報技術等の関わりについて講述する。機械、流体、材料、物理、電気・電子、制御・計測等の分野から、海洋や水産と関わる基礎的事項とトピックスを選び、それぞれ専門の教員が分かり易く紹介する。						
授 業 の 目 標						
一般目標：他の産業分野と同様、水産業においても機械の果たす役割は重要かつ不可欠であり、今後更に高性能で高効率の機械やシステムの導入が必要とされる。本科目では水産・海洋系のエンジニアに求められる最新の機械工学、情報技術、IoT、AI、ロボット技術等を駆使してスマート水産業を実現する事例等を紹介する。具体的には研究内容の紹介を通して機械や情報機器類の具体例を理解し、水産関連機械への興味を高めると共に幅広い知識を得る事を目標とする。						
行動目標：水産業への機械技術の関わりを理解し、技術的課題とその展望を説明できるようになる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
1	講義概要。水産機械設備の健康診断技術について理解する。					(太田)
2	水産機械設備のスマートメンテナンス技術の最新動向を理解する					(太田)
3	様々なシミュレーションの概要と水産分野への応用事例の紹介					(石田)
4	ものづくりの新しい流れと自己組織化技術の紹介					(石田)
5	極限環境・特殊環境について理解する。					(渡邊)
6	極限環境・特殊環境の水産業応用について理解する。					(渡邊)
7	機械と材料その①ー良い機械を永く使うためにーを理解する。					(田村)
8	機械と材料その②ー水産環境保全の観点からーを理解する。					(田村)
9	機械の自動化・スマート化について理解する。					(徳永)
10	機械の自動化・スマート化技術の水産業への応用について理解をする。					(徳永)
11	食料生産の課題と精密な食料生産の概要について理解する。					(椎木)
12	精密な食料生産とセンシング技術について理解する。					(椎木)
13	理論物理学とその利用：量子論や相対論の様々な性質と水産への応用					(新居)
14	理論物理学を用いて GPS 衛星（位置測位システム）の原理を理解する					(新居)
15	海中ロボットの種類と役割について理解する。					(藤原)
	講義の順番は都合により変更することがある。					
キーワード	海洋、水産、機械					
教科書 参考書	必要に応じてプリントを配布する。					
評価方法	評価方法：各担当者が課すレポートや小論文、小テスト（100％）により判定する。					
評価基準	評価基準：レポートにおいては、授業内容についての理解度、達成度を評価する。					
関連科目	特になし。					
履修要件	特になし。					
教 育 方 法 ・ そ の 他						
基本的には講義形式であるが、学生の理解度を知り同時に修学意欲を高めるために、授業中は学生が問題を解く時間を適宜もうけるとともに関連する事項等についても質問をする。また学生からの授業評価、質問を頻繁に受けて対話型講義を行うことを心がけ、好奇心と探究心を刺激し、考え、感じる態度を受講者が身に付けられるように努力する。						

学 科 目 名	水産と生物 General Aquabiology				単位数	2単位	必					
	学習・教育到達目標：A（◎），D・E（○）				教員名 メールアドレス	竹下直彦 takeshin@fish-u.ac.jp 半田岳志 handat@fish-u.ac.jp 山崎康裕 yamasaky@fish-u.ac.jp						
履修年次・学期	F科	1年	前期	必	M科	1年	前期	必	S科	1年	前期	必
	A科	1年	前期	必	D科	1年	前期	必				
質 問 受 付	随時，各担当教員の研究室，竹下（水産生物飼育研究棟2F魚類学研究室），半田（120），山崎（213），メールも可（学籍番号と氏名を必ず入力すること）。											
授 業 概 要												
主要水産生物の分類，生態，増養殖，及び環境との関係などを通して，水産業および水産科学にとって重要な生物の生物学的知識の基礎を学習し，これら生物の生物生産における役割や働きの概要を理解する。												
授 業 の 目 標												
一般目標：水産専門科目を学習する上で，最低限必要な主要水産生物の生物学的基礎知識を理解する。 また，水産業を生物学的な視点からとらえ，水産生物の分類学，生態学，水圏生物生産と特徴，養殖業・栽培漁業などの利用の現状と問題点を学習する。 行動目標：本講義の修了者は，水産業現場での新技術と将来の水産増養殖のあり方について説明できるようになる。												
回	授 業 計 画 ・ 内 容											
1	講義内容の説明，水産生物と水産業の関わりについて学習する。（全員）											
2～3	魚類の分類と生態およびその利用について学習する。（竹下）											
4～5	水産無脊椎動物・植物の分類と生態およびその利用について学習する。（竹下）											
6	水産資源生物学の応用研究例と研究デザイン法，及びスマート水産業について理解を深める。（竹下）											
7	水産生物をとりまく環境と生態系について学習する。（山崎）											
8	プランクトンの種類と水産業との関わりについて学習する。（山崎）											
9～10	有害・有毒プランクトンによる漁業被害について学習する。（山崎）											
11	日本の作り育てる漁業の概要について理解する。（半田）											
12～14	水産生物の増養殖について学習する。（半田）											
15	まとめ（全員）											
キーワード	水産生物，分類，生態，利用，栽培漁業，増養殖，環境，生態系，水産業，資源											
教科書 参考書	教科書：特になし。授業時にプリント等を配布する。 参考書：水産白書 農林統計協会編 新日本動物図鑑 北隆館 水産増養殖システム全3巻 恒星社厚生閣											
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験（90％）及び小テスト（10％）により判定する。 評価基準：期末試験では授業目標の理解度・達成度などを評価する。											
関連科目	水産学概論，水産経済学I，海と漁業生産，海洋環境と機械，水産食品科学，技術者倫理											
履修要件	特になし。											
教 育 方 法 ・ そ の 他												
対話型講義を心がけ，質問を頻繁に受け付ける。また，学生による授業評価等により，講義内容の改善や高度化に努める。学生の好奇心と探究心を刺激し，自ら考える態度を身に付けられるように努力する。基本的には講義形式であり，視覚教材を多用する。また，授業の最後に小テストを行うので，予習・復習を確実に行うこと。なお，都合により講義内容の順番は入れ替わることがある。												

学 科 目 名	水産食品科学 Sea Food Science				単位数	2 単位	必					
					教員名	宮崎泰幸 taiko94@d.fish-u.ac.jp 宮田昌明 mmiyata@fish-u.ac.jp 山下倫明 mic@fish-u.ac.jp						
	学習・教育到達目標：A（○），D（◎）				メールアドレス							
履修年次・学期	F科	1年	後期	必	M科	1年	後期	必	S科	1年	後期	必
	A科	1年	後期	必	D科	1年	後期	必				
質問受付時間	随時 食品科学科の各担当教員の研究室 宮崎（共同研究棟208号室），宮田（二学科共用実験棟201号室），山下（二学科共用実験棟109号室）											
授 業 概 要												
水産食品の栄養性，美味しさ，健康機能性などに関する科学と技術について総合的に学習する。												
授 業 の 目 標												
一般目標： 栄養に富み，美味しく，健康増進機能に優れた水産食品の概略を理解する。生体における元素や化学物質の取り込み，蓄積および排泄過程を理解する。 行動目標： ①～⑤魚介類の美味しさと海藻の機能性を説明できる。（A, D） ⑥～⑩水産物の栄養特性と機能性を説明できる。（A, D） ⑪～⑮食品安全性のリスク分析の考え方を説明できる。（A, D）												
回	授 業 計 画 ・ 内 容											
1	魚介類の美味しさを理解する（1）。【宮崎】（予習キーワード：美味しさ，味，旨味，コク）											
2	魚介類の美味しさを理解する（2）。【宮崎】（魚介類のにおい）											
3	魚介類の美味しさを理解する（3）。【宮崎】（歯ごたえ，旬，見た目，ブランド魚）											
4	魚介類の美味しさを理解する（4）。【宮崎】（フルーツ魚，美味しいフグとは）											
5	『海藻食は健康に良いのか？』を理解する。【宮崎】（食物繊維） 小テスト											
6	魚食と健康について理解する。【宮田】（生活習慣病予防）											
7	水産物の栄養特性について理解する。【宮田】（脂質，タンパク質，ビタミン）											
8	水産機能性成分について理解する（1）。【宮田】（DHA，EPA）											
9	水産機能性成分について理解する（2）。【宮田】（タウリン，アスタキサンチン）											
10	水産機能食品について理解する。【宮田】（特定保健用食品，機能性表示食品）											
11	健康リスクとベネフィットとの関係を理解する（1）。【山下】（メチル水銀と微量元素）											
12	健康リスクとベネフィットとの関係を理解する（2）。【山下】（ダイオキシン・PCB類）											
13	健康リスクとベネフィットとの関係を理解する（3）。【山下】（海藻のヒ素とヨウ素）											
14	放射能と放射線を理解する。【山下】（放射性物質）											
15	最新の食品分析鑑別技術を理解する。【山下】（DNA，元素およびタンパク質の分析技術）											
キーワード	魚介類の美味しさ，海藻の食品機能，水産機能食品，魚食と健康											
教科書 参考書	教科書：プリントを配布する。参考書：食物と健康の科学シリーズ 魚介の科学 阿部宏喜編/朝倉書店，海藻利用の科学 山田信夫/成山堂書店，京大人気講義シリーズ 味覚と嗜好のサイエンス 伏木亨/丸善出版，コクと旨味の秘密 伏木亨/新潮新書，「おいしさ」の科学 佐藤成美/講談社 BLUE BACKS，水産食品栄養学 鈴木平光・和田俊・三浦理代編/技報堂出版，魚食と健康-メチル水銀の生物影響 山下倫明・鈴木敏之・横山芳博編 恒星社厚生閣											
評価方法 評価基準	評価方法：期末テスト（80％）小テスト・課題（20％）で判定する。 評価基準：テストについては，授業の目標についての理解度，達成度を評価する。											
関連科目	食品科学科で開講されるすべての科目											
履修要件	特になし											
教 育 方 法 ・ そ の 他												
パワーポイント，プリントなどを用いて講義する。広い視野から水産食品科学を理解できるよう，水産資源動向，水産生物特性，水圏環境，漁業生産技術，養殖生産技術，流通システム，消費動向，リスク分析などと関連させながら講義する。												

増養殖技術論		単位数	2単位	必修選択の別	必
学 科 目 名	Technique of Stock Enhancement and Aquaculture	教員名 メールアドレス	吉川廣幸 yoshikawa@fish-u.ac.jp 山本義久 yama1215@fish-u.ac.jp		
	学習・教育到達目標：D（◎）				
履修年次・学期	1年・後期				
質 問 受 付	随時，二学科共用実験棟1F担当教員研究室（121），水産情報館2F研究室2				
授 業 概 要					
水産資源の維持・増大を目的とする栽培漁業の特徴と役割，及び日本の増養殖の概要を知る。対象種の選定，親魚養成，餌料培養，種苗生産，中間育成，放流と効果評価等の一連の工程を学習する。また，増養殖に関する最新の研究成果等を適宜紹介し，現状と今日的課題を知る。					
授 業 の 目 標					
一般目標：増養殖に係わる基礎，応用，実証化技術を習得し，栽培漁業及び養殖業の現状を認識する。本講義の受講者は，栽培漁業および養殖業の仕組みを理解し，資源の維持増大に資する栽培漁業や食料安定生産のための養殖業の意義について理解する。 行動目標：栽培漁業及び養殖に関する基礎・応用技術および現状を十分に理解し，水産分野における栽培漁業および養殖業の位置づけと役割を説明できるようになる。					
回	授 業 計 画 ・ 内 容				
1	水産業における増養殖の位置づけについて理解する。（吉川）				
2	増養殖の対象となる水産生物の生理・生態について理解する。（吉川）				
3	増養殖における親魚養成技術について理解する。（吉川）				
4	増養殖種苗の生産技術と育成技術について理解する①。（吉川）				
5	増養殖種苗の生産技術と育成技術について理解する②。（吉川）				
6	増養殖における餌料の種類と役割について理解する。（吉川）				
7	栽培漁業の概要と役割について理解する①。（吉川）				
8	栽培漁業の概要と役割について理解する②。（吉川）				
9	増養殖への育種技術，バイオテクノロジーの利用について理解する。（吉川）				
10	サワラ栽培漁業について理解する。（山本）				
11	サーモン養殖について理解する。（山本）				
12	物質循環型生物生産について理解する。（山本）				
13	閉鎖循環式陸上養殖について理解する。（山本）				
14	クロマグロ養殖とその研究について理解する。（吉川）				
15	無脊椎動物の増養殖とその研究について理解する。（吉川）				
キーワード	栽培漁業，親魚養成，種苗生産，放流，生物餌料培養，種苗期疾病防除				
教科書 参考書	教科書：必要に応じて配布プリントやスライドを使用する。 参考書：浅海養殖（資源協会編，大成出版社，1986），水産増養殖システム全3巻（恒星社厚生閣，2005），魚類生理学の基礎（会田勝美他著，恒星社厚生閣，2002），循環式陸上養殖（山本義久他，緑書房，2017），マグロの不思議がわかる本（中野秀樹他，築地書店，2010），栽培漁業の変遷と技術開発（有瀧真人・虫明敬一編，恒星社厚生閣，2021）				
評価方法 評価基準	評価方法：期末試験評点（80％）および課題提出物評点（20％）で判定する。 評価基準：授業目標についての知識，理解度，論理性，達成度を評価する。誤字や脱字は減点の対象となる。				
関連科目	水産と生物をはじめ，各学科の生物関連の専門科目				
履修要件	参考書により予習・復習することが望ましい。				
教 育 方 法 ・ そ の 他					
学生の質問を歓迎し，対話型講義に心がける。課外時間でも随時質問を受け付ける。適宜講義の補足プリントを配布する。必要に応じ，予習・復習のため課題を与え提出させる。					